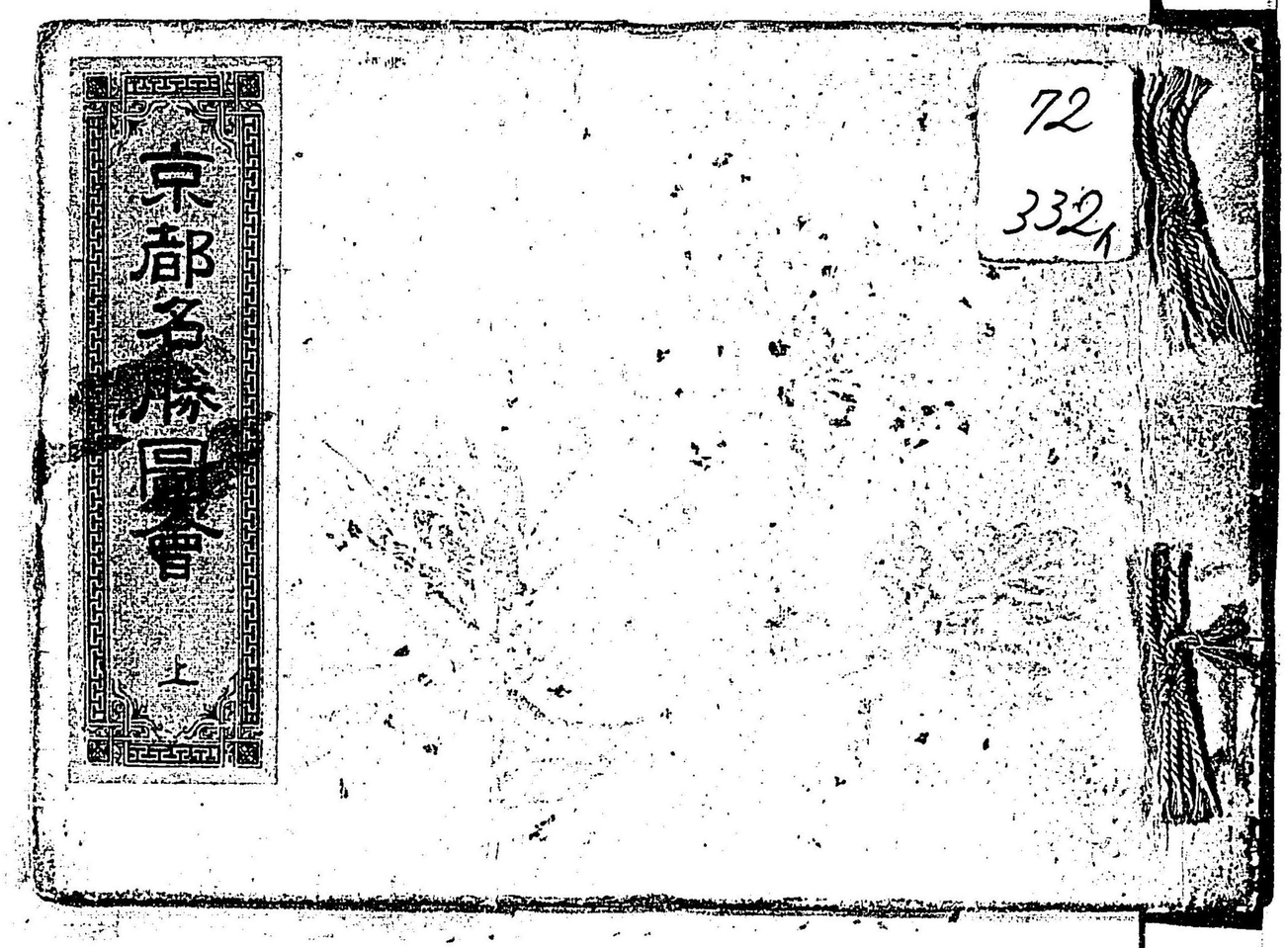


72
332
1

025381-001-4

72-332

京都名勝図絵

志水　鳩峰／著

1冊（上101p）

M28

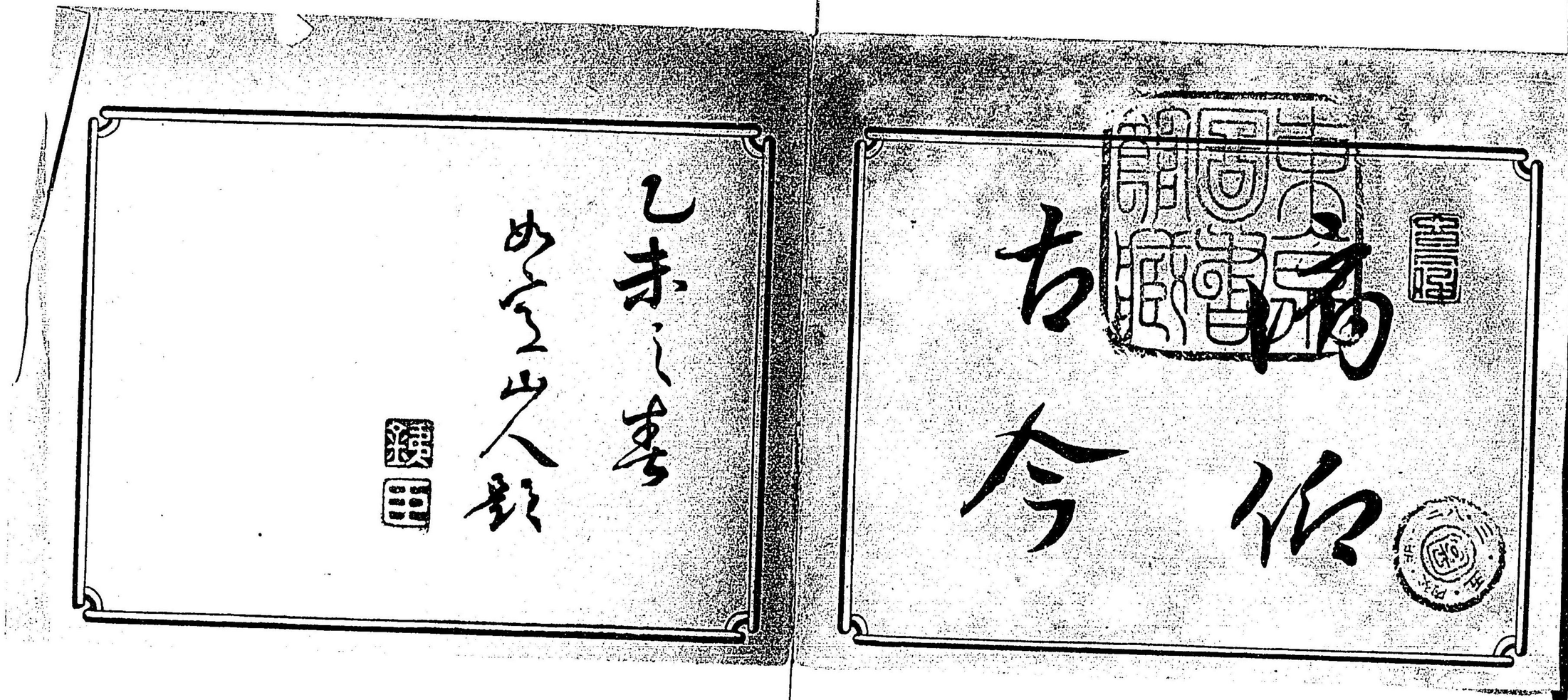
ADC-2825

志水鳩峯著
明治改正
京都名勝圖會
風月堂藏版

明治
改正
京都繁昌會
風月堂藏版

古今偽書考

國立北平圖書館藏


古今
仙
高

特29 72
67 332-1

京都名勝圖會

凡例

一此編京都名勝のみに止まらずして山城全國八郡の名勝をも悉く記載せり然るに京都名勝と題する者は山城全國は京都首府の下に管攝せらるゝを以て首府の大名を擧くれば管下は其内に含有する者とす

一明治二十八年京都に於て第四内國勸業博覽會を開設するに際し諸國の旅客必市郡の名勝古跡を尋覽する者多きこと知るべし風月堂主人旅客の提携に便なる者を謀る乃ち此書ある所以なり

一名勝古跡最著名なる者を擇採す神祠佛寺の緣起繁文に渉る者は意に任せて節畧す且編纂に期限あり紙頁に定數あり細微なる者を網羅し之を掲載すること能はず止むを得ずして脱漏に從ふ者あり讀者之を恕せよ

一帝陵は近世漸次發見するに從ひ嚴に修營を加へらる今全く明晰にして蒙昧に附する者無し此編謹て其所在地を記す后苑皇子の陵墓の如は省畧に從ふ

一戸數人口は明治二十五年本府の調査に依る

一本編載する所の者は務めて現今の狀況を載すと雖昨是今非桑滄變遷し現狀に背く者あらん是の如きは識者幸に教示を垂れよ

一市郡の内東西或は南北を部分する者は凡名勝を探らんと欲せば先其方位を辨して後に路を取るべきを以てなり然と雖之を部分するに當て固より確定する者あるに非ず或は誤安を免れ難し識者之を恕せよ

一郡部に收むべき者を市部に載する者あり是市部の近傍にある者は巡覽途次の便宜を計るのみ

明治二十七年十二月　著者識

明治改正 京都名勝圖會卷上目次

山城國總論　一
京都市大綱　二
○上京區
東部
御苑内　四
内裏　四
大宮御所　四
仙洞御所　四
博覽會場　五
測候所　五
舊九條邸庭池　五
宗像神社　五
白雲神社　五
車返櫻　五
祐井　五
同志社　六
相國寺　慈照先生墓　六
戊辰戰亡碑　七
上御靈神社　七
本滿寺　七
本禪寺　八
淨華院　八
廬山寺　八
遣迎院　八
梨木神社　九
府立療病院　九
府立醫學校　九
府立尋常師範學校　九
市立美術工藝學校　九
京都裁判所　十
下御靈神社　十
革堂　十
府立高等女學校　十一
專修寺里坊　仮田忠彦邸　十一
常盤ホテル　十一
京都市議事堂　十二
妙塔山妙滿寺　十二
本山本能寺　十二
鴨川　十三
三條大橋　十三

檀王法林寺　十三
開法山頂妙寺　十四
本山要法寺　十四
法鏡山妙傳寺　十四
空中山寂光寺　十五
開名寺　香川榮樹墓　十五
本涌山妙泉寺　十六
疏水運河　十六
岡崎町　十八
內國勸業博覽會場　十八
紀念殿　十八
平安神宮　十九
聖護院町　十九
熊野神社　十九
絹絲紡績會社　十九
京都織物會社　十九
聖護院　十九
示現山滿願寺　二十
東本願寺掛所　二十
岡崎神社　二十
紫雲山金戒光明寺　二十一
眞如堂　二十一
大興寺　二十二
東北院　二十三
神樂岡　二十三
齋場所　二十三
吉田神社　二十四
吉田町　二十四
第三高等學校　二十四
銀閣寺　二十四
月待山　二十五
淨土寺町　二十六
法然院　二十六
安樂寺　二十六
靈鑑寺　二十六
談合谷　二十七
如意嶽　二十七
櫻谷　二十七
陽成天皇陵　二十七
後一條天皇陵　二十七
泉涼天皇陵　二十七
若王子神社　二十七
若王子山并瀧　二十八
光雲寺　二十八

永觀堂　二十八
南禪寺　三十
水路閣　三十二
駒ヶ瀧　三十二
粱川星巖墓　三十二
金地院　三十二
東照宮廟　三十二
上田餘齋墓　三十三
インクライン　三十三
水利事務所　三十三
東岩倉山　三十三
日向神社　三十四
蹴上　三十四
粟田口町　三十四
粟田陶器店　三十四
白川橋　三十五
西部
福長神社　三十五
護王神社　三十五
京都府廳　三十六
市立盲啞院　三十六
府立尋常中學校　三十六
上京區役所　三十六
一條戾橋　三十六
妙顯寺　三十六
妙覺寺　三十七
本法寺　三十七
白峰神社　三十七
名和長年碑　三十八
妙蓮寺　三十八
淨福寺　三十九
西陣　三十九
引接寺　三十九
報恩寺　三十九
七野社　四十
蓮臺寺　四十
北野神社　四十
平野神社　四十一
金閣寺　四十二
聚樂　四十二
立本寺　四十二
二條離宮　四十三
監獄　四十三
神泉苑　四十三

郵便電信局 四十四
○下京區
東部
吉水園 四十四
佛光寺廟所 四十四
粟田神社 四十四
植髮御影堂 四十五
青蓮院 四十五
花園天皇陵 四十五
華頂山 四十六
將軍塚 四十六
知恩院 四十六
一心院 四十八
圓山公園 四十九
枝垂櫻 四十九
安養寺 四十九
長樂寺 五十
頼山陽墓 五十一
東本願寺廟所 五十一
東大谷 五十二
八阪神社 五十二
大和大路 五十二
大和橋 五十三
祇園町 五十三
祇園新地 五十三
一力亭 五十三
府立驅黴院 五十三
祇園館 五十三
建仁寺 五十四
惠比須神社 五十五
摩利支天堂 五十五
愛宕念佛寺 五十五
六波羅密寺 五十五
診皇寺 五十六
安井神社 五十七
下河原 五十七
雙林寺 五十七
高臺寺 五十九
靈山招魂場 六十
正法寺 六十
八阪 六十一
法觀寺 六十一
庚申堂 六十一
一心庵 六十二

清水阪陶器店 六十二
泰產寺 六十二
清水寺 六十二
地主神社 六十四
音羽瀧 六十五
清閑寺町 六十五
六條天皇陵 六十五
高倉天皇陵 六十五
歌中山清閑寺 六十五
澁谷街道 六十五
澁谷火葬場 六十六
小松谷正林寺 六十六
三島神社 六十六
佐藤嗣信忠信墓 六十六
牢の谷 六十七
西大谷本願寺廟所 六十七
鳥部山 六十七
後京極攝政良經碑 六十七
通妙寺 六十八
本願寺 六十八
延年寺辻子 六十八
安祥院 六十九
五條阪陶器店 六十九
若宮八幡宮 六十九
妙法院 六十九
新日吉神社 六十九
豐國山 七十
豐國神社 七十
大佛殿方廣寺 七十
耳塚 七十一
帝國京都博物館 七十一
三十三間堂 七十三
智積院 七十三
養源院 七十三
後白河天皇陵 七十三
法石越 七十四
東本願寺中學寮 七十四
今熊野町 七十四
新熊野神社 七十四
劔神社 七十四
後堀河天皇陵 七十四
今熊野觀音寺 七十四
泉涌寺 七十四
四條天皇陵 七十六

後水尾天皇陵　七十六
明正天皇陵　七十六
後光明天皇陵　七十六
後西院天皇陵　七十六
靈元天皇陵　七十六
東山天皇陵　七十六
中御門天皇陵　七十六
櫻町天皇陵　七十六
桃園天皇陵　七十六
後桃園天皇陵　七十六
光格天皇陵　七十六
仁孝天皇陵　七十六
孝明天皇陵　七十六
夢浮橋　七十七
伏見街道　七十七
瀧尾神社　七十八
東福寺　七十九
仲恭天皇陵　八十
萬壽寺　八十
遣迎院　八十
稻荷神社　八十一
稻荷山　八十二
田中神社　八十二
五條橋　八十二
神宮教會所　八十三
大雲院　八十三
御旅町　八十三
四條橋　八十三
高瀬川　八十四
電燈會社　八十四
三條橋　八十四
新京極　八十四
誓願寺　八十五
誠心院　八十五
圓福寺　八十五
蛸藥師　八十六
歡喜光寺　八十六
錦天神社　八十六
金蓮寺　八十六
○下京區
西部
六角堂頂法寺　八十七
因幡堂平等寺　八十八
汁谷山佛光寺　八十八

南岩倉明王院　八十九
御影堂新善光寺　八十九
下京區役所　九十
長講堂　九十
金光寺　九十
涉成園　九十
東本願寺　九十一
官設鐵道停車場　九十二
興正寺　九十二
本願寺　九十二
本圀寺　九十四
天使神社　九十六
府立商業學校　九十六
空也堂　九十六
新玉律島神社　九十七
菅大臣神社　九十七
壬生寺　九十七
六孫王神社　九十八
敎王護國寺　九十九
島原遊廓　百一

明治改正

京都名勝圖會卷上

志水鳩峯著

山城國

山城上古は山代に作る其材木を採る所なるを以ての名なり次に山背に作る其背後に山を負へるを以ての名なり延暦十三年　桓武天皇新都を定め給ふ時詔し て山背を改めて山城と爲さしめ給ふ地勢其名に適すと云ふべし此國五畿内の東北隅に位し東西凡七里南北凡十七里分ちて一市八郡と爲す京都市愛宕郡葛野郡紀伊郡乙訓郡宇治郡久世郡綴喜郡相樂郡なり

國の境域東南は近江伊賀大和に接し西北は河内摂津丹波に界し山嶽東北西の三面を圍繞し中間より南方に通じて平坦なり地味も膏腴なりとす

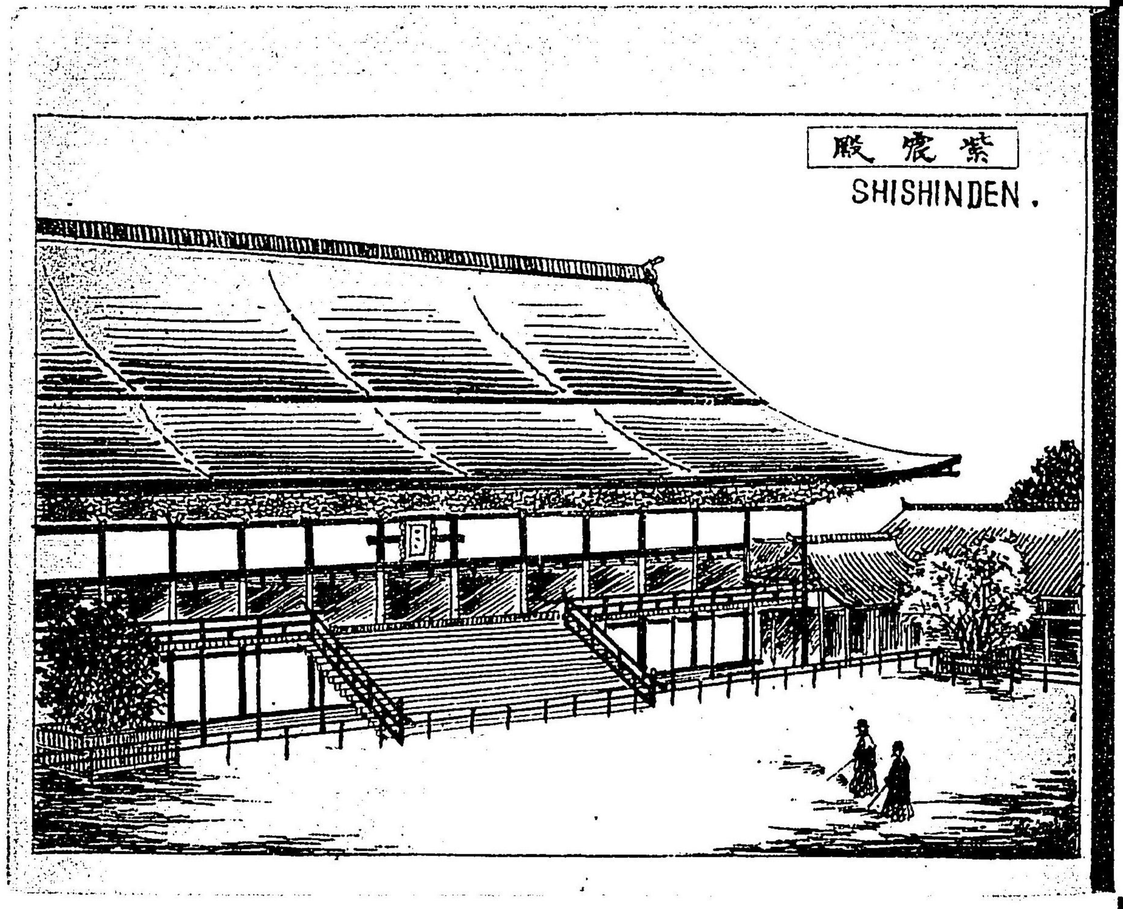
全國の戸數十一萬七千九百有餘人口四十九萬七千二百有餘風俗温雅にして儉素能く職業を勤め工藝に於ては最も精巧なり

物産は織物　縮緬　染物　糸打物類　金銀箔　陶器　漆器　紅　白粉　髻結　五倍子粉　茶筅　雛人形　伏見人形　針　團扇　扇　錫細工　簾　晒木綿　毛

植細工　樂器類　花簪　鶯不知　乾菓子　千枚漬
砥石　松茸　蔬菜　藥草類　茶　竹　筍　鯉　年魚

○京都市　山城國の北部に位し愛宕葛野二郡に跨る昔は平安城と稱し左京右京を分ち規模宏大なりしが屢〻沿革ありて現時に至ては東は淨土寺町鹿ケ谷町南禪寺町等の山嶺を以て近江國に界し粟田口町清閑寺町今熊野町等の山嶺を以て宇治郡を負ふ所謂東山とは滋賀の山越より大文字山如意嶽稻荷深草に至るまで一帶の山脈を稱するなり南は紀伊葛野二郡の北部に隣り西は壬生西七條朱雀の三村に交り葛野に通じ東北は賀茂川を隔て愛宕郡の下賀茂田中の二村と相對し北は同郡の鞍馬口小山東紫竹大門の三村に接す東西凡そ弐里二町南北凡一里半餘にして之を二區に分ち三條以北を上京區とす之に屬する戸數二万七千七百有餘人口十一万九千三百有餘あり三條通以南を下京區とし戸數三万六千八百有餘人口十四万一千七百有餘あり　桓武天皇奠都以降年を閱すること一千百年朝を歷ること七十二世以て明治の革新乘輿の東遷に至ると雖も山水の明媚閑雅なる市街の潔整繁華なる依然として往時と異なるなかるべし況んや近時琵琶湖を控きて舟船を通じ運河を疏して市街を設け今又紀念殿を建てゝ延曆の舊圖に擬し平安宮を營みて　桓武天皇の聖德に報効せんとするに於ては宜く聖運を千百年の後に挽回し神德を地球上に發揚する者と謂ふべし今也帝都東に遷ると雖も內裏は猶在す如くに殿護せられ及び二條桂修樂院等の離宮に至る迄特に保存せられて未た衰滅に歸したる者わらず且つ地に京都府廳京都地方裁判所京都郵便電信局第三高等學校帝國京都博物館府立尋常師範學校同尋常中學校同療病院醫學校同商業學校同高等女學校同立盲啞院同美術學校兩本願寺學校同志社學校等の設置あり又商工業に關する會議所取引所其他諸銀行諸會社の如き幾十幾百なるを知らず豈隆盛ならずと云ふべけんや況んや東海鐵道の停車場は都市の南端七條通に在り京鶴鐵道電氣鐵道の設計既に成り築造將に近きにあらんとす今日內國勸業博覽會に臨み四方來遊する者は交通の便利運輸の俊速なるを覺ふべし

○上京區三條通以北
東部



○御苑内　舊御築地内と稱す東は寺町通に起り西は烏丸通に至る北は今出川通に起り南は丸太町に至る東西六町南北十一町面積二十五萬餘坪古へは親王攝家を始め朝貴の邸宅多く郭内に在りしが明治の遷都と共に全く廢趾に歸し今拓きて宏濶なる遊園と爲し梅松等の嘉木を栽ゑ之を御苑と稱せり特に元九條邸の庭園たりし地は苑内最も風景に富み池あり橋あり樹木之を擁し雅趣甚だ多し

○内裏　御苑内の中央に位し建禮門(南門)を以て其正門とし東に在るは建春門(日の御門)西に在るは宜秋門(公家門)談天門(臺所門)北に在るは朔平門なり紫宸殿は門内更に宮垣を繞らして其内に立ち承明日華月華の三門より其階下に通ず清涼殿常御殿小御所御學問所淮後御殿等衆庶の窺ふべき所に非れば茲に其の大概を記すのみ

○大宮御所　内裏の東南に在り　皇太　皇后の御舊殿にして内裏と同時に御造營せらる

○仙洞御所跡　大宮御所の南の地にして舊　上皇の宸居なり安政元年炎上の後宮殿は廢趾に屬すれども園池の宏壯幽邃なること眞に仙境と謂ふべし毎年京

都博覽會開場の間は拜觀を許さる

○博覽會場　仙洞御所跡の南に在り京都市民の工藝品を展觀する處なり

○測候所　博覽會場の西に在り氣象を測候し天氣を豫知し信號標を揭げて天氣を示す

○舊九條邸庭池　博覽會場の西に在り橋は高倉通の北端に架す池の東隅に大鐵燈籠あり高さ一丈計東本願寺より獻納せし物なり

○宗像神社　舊九條邸庭池の西北に在り舊花山家の鎭守なり今は府社に列す祭神は筑前國宗像神社と同神なり

○白雲神社　宗像神社の北に在り舊西園寺家の鎭守なり祭神は安藝國嚴島の神と同神なるべし俗に辨天と云ふ參人甚だ多し

○車返櫻　宜秋門の少し乾の方に在り卽ち舊菊亭家の庭の塀內に當る地にして舊時のまゝの櫻なり昔後水尾天皇花時の行幸に宸駕を還させ塀外より御覽せさせ給ふ故に車返といふ

○祐井　朔平門の東北に在り舊中山家の地にして恐多くも

聖上嘉永五年壬子九月二十二日降誕座ませし所なり
井泉あり祐井と號す　龍潛の時　祐宮と稱し　奉り
し故なり京都府知事槇村正直碑を建て之を記す
○同志社　相國寺門前町に在り構内に普通學校神學校
政法學校ハリス理化學校豫備學校女學校圖書館等あ
り

○萬年山相國承天禪寺　今出川御門の北に在り禪宗臨
濟派の本寺にして五山第二なり至德元年足利義滿創
立し春屋禪師に開山たることを命す春屋謙辭して先
師夢窓國師を追請して之に充て自ら第二世に居る春
屋名は妙葩　後小松天皇崇信し給ひ智覺普明國師の
號を與へ給ふ且諸山僧錄司に任す此職吾邦之を權與
と爲すといふ晩年嵯峨鹿王院を創して之に居り嘉慶
二年八月十三日寂す年八十二此寺應仁亂の時戰場に
當り伽藍悉く灰燼と爲る其後回祿數度現今の法堂
は豐臣秀賴再建する所にして開山堂方丈經塔鐘樓
選佛場等は天明火後の再造に係る什寶の中陸信忠の
十六羅漢十六幅は傑作なり米南宮の墨蹟一幅は良品
なり古文書の中に奉加帳一卷異國通船印鑑十三通此
兩種は當時の史料に供すべき者なり

贈正四位細野蕭墓　塔頭林光院に在り蕭字は歛夫
惺窩と號す下冷泉爲純の子なり始めて宋儒性理學を
唱ふ林道春の師なり本朝儒家中興の祖と稱す文集
十卷あり元和五年九月十二日卒す明治廿六年正四位
を贈らる

○戊辰戰亡碑　相國寺の東境に在り明治二年の建設に
して薩藩の士慶應四年鳥羽淀の戰ひに沒したる者五
百二十四人にして其姓名を列記したり碑文は今藤惟
宏の撰にして書は西鄕隆盛の筆なり

○上御靈神社　鞍馬口に在り府社なり祭神は八所御靈
即ち早良親王伊豫親王藤原吉子文屋宮田麻呂橘逸勢
藤原廣嗣吉備大臣火雷天神なり右の諸靈は獨吉備大
臣の能く終りを全くしたる外は皆寃罪を含みて死し
たる者なれば其怨恨を慰せん爲めて其亡靈を茲と下
御靈神社と兩處に祀れるなり　朱雀帝御宇天慶二年
勅請す舊上出雲寺の故地なる故に出雲寺御靈と稱
するなり應仁亂の時此社の森戰場となれり例祭八月
十八日近年五月十八日に之を行ふ社の什物に菅公眞
蹟の歌幷に自佩の劔あり

○本滿寺　寺町通今出川の北に在り廣布山と號す日蓮

宗一致派の本寺なり開山日秀僧都永享年中創立當寺の祖像は丹州芹生村山麓の土中より出現したり靈驗多しといふ

○本禪寺　寺町廣小路の北に在り光了山と號す日蓮宗勝劣派の本寺なり開山日陳上人圓光坊と號す應永年中建立元二條堀川に在り後今の地に移す

○淨華院　本禪寺の南に在り淨土宗鎮西派四箇の一なり元は上長者町烏丸の西に在り開基是心上人は元園城寺の住侶にして淨華房と號す弘安十年淨華院を開基す或云く往古は禁裡の佛室なり故に山號無し本堂祖師堂子院等あり

○廬山寺　淨華院の南に在り台密淨律の四宗を兼學す昔は安居院大宮に在り今廬山寺町といふ開基は元三大師にして與願金剛院と稱せり中興住心上人の時一僧來て我は唐の惠遠と云て廬山の二字を示す之に依て廬山天台講寺と改む此寺什寶に巨勢金岡の筆の普賢の像あり張思恭の筆の觀音の像あり傑作なり土佐家の筆の　後醍醐帝　後陽成帝の兩御像二幅あり共に佳作なり土佐家の骨髓と云ふべし

○遣迎院　廬山寺の南に在り台密淨律の四宗を兼學す

初め伏見街道東福寺の邊に在り開基は善惠上人にして光明峰寺道家公草創すといふ

○梨木神社　寺町廣小路に在り別格官幣社なり祭神は贈右大臣從一位藤原實萬公にして三條實美公の父なり實萬公は　光格　孝明二朝に歷仕し勤王の誠最も篤く嘉永六年外艦渡來せしより幕府大に朝旨に依違す公之を憂へ內を整へて而して後外を制するの策を奏す幕府此事を聞きて公を退け京外に出さんと謀る公慨然として領地叡喜郡上津屋村に幽居す幕府又落飾を勸む公竟に落飾す後勅命により京近き愛宕郡一乘寺村に移る文久二年に贈官あり明治十八年舊邸地梨木町に於て新に社殿を建て崇めらる

○府立療病院　御車道廣小路に在り明治七年に創立し同十三年に竣功す講堂病室手術場診察場製藥局等備れり府知事槇村正直碑文を撰し之を建つ

○府立醫學校　療病院構內の東手に在り明治二十二年創立す教場四宇あり

○府立尋常師範學校　寺町通荒神口に在り明治廿一年新町下長者町より移轉す

○市立美術工藝學校　丸太町通寺町の西に在り授業課

目は繪畫科彫刻科工藝圖案科等なり京都市に住し此等の美術に堪能なる者之が協議員と爲る

○京都裁判所　地方裁判所の通行口は丸太町通柳馬場の東なり區裁判所の通行口は竹屋町通柳馬場の東なり從前は御苑内舊有栖川邸にあり明治十三年此地に新築す

○下御靈神社　寺町通丸太町の南に在り府社なり祭神は上御靈神社と同じ當社緣起に云く祭神八所御靈は桓武天皇　仁明天皇　兩朝に四座づゝ御勸請して皇宮の産土神たり　淸和天皇御宇貞觀五年五月廿日鎭疫の爲め神泉苑にして勅祭ありしは當神社祭神のうち六所を奉祀せられたり社地往昔新町出水に在て天正十八年より此地に鎭座なり　靈元天皇仙院の御時兩度參拜あらせられ御遮刺を以て享保十七年十一月相殿に御鎭座なり

○革堂　寺町通竹屋町に在り行願寺と號す天台宗延曆寺に屬す開基行圓上人は鎭西の人なり京都に遊び常に頭に寶冠を戴き身に革衣を着けたり世人呼びて革上人と云ひ其堂を革堂と呼ぶ本尊十一面觀音の立像其長け八尺許鴨社の傍なる槻の樹を以て彫む所

なり初は一條通新町の西に在り今も一條革堂町と稱す西國巡禮第十九番の札所なり

○府立高等女學校　土手町通丸太町に在り明治の初め女紅場を置き後女學校に改む廿年高等女學校と爲す

同年　皇后宮　臨幸　親く女子の學業を視察し賞賛し給ふ

○專修寺里坊　河原町二條の北に在り舊本誓寺と稱す眞宗勢州一身田專修寺の抱所なり

贈正四位飯田忠彦墓　本堂の後に在り忠彦字は子邦周防の人少して經史に通し兼て武伎を修ひ後河内八尾の飯田謙介の嗣子となり有栖川王府に仕ふ王府擢でゝ侍臣と爲す晉て水府の大日本史に倣ひ日本野史二百九十餘卷を著はす萬延の頃當時の名士と相結び時事を痛論す遂に幕府の忌む所となり江戸に拘へらる鞫問すれども屈せず免かれて歸り深草村に塀居す又梅田雲濱の事忠彦に連及するを以て伏見奉行より之を拘ふ忠彦憤懣し肚を割きて死す實に文久元年五月二十七日なり時年六十三明治二十四年四月正四位を贈らる

○常盤ホテル　河原町通二條の南に在り外國人の旅館

なり明治廿四年五月露國皇太子ニコラス親王殿下の宿らせ給ふも此處なりき

○京都市議事堂　右同所の前より寺町通へ折廻り明治二十七年八月より建築近日竣功

○妙塔山妙滿寺　寺町通二條の南に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり開山日什上人永徳三年創立元綾小路堀川に在り其地今妙滿寺町と云ふ此寺に紀州日高道成寺の古鐘あり天正十六年紀州新宮の人某此寺に寄附す然るに瑕隙ありて音響發せざるによりて別に一鐘を鑄て之を懸け道成寺の鐘は藏めて堂内に在り此鐘に正中十四年巳亥三月十一日の銘あり

○本山本能寺　寺町通押小路の南に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり開山日隆別に慶林坊と號す初め妙顯寺の四世日齊勝劣の一派を興す日隆に至り遂に別れて一寺を建て其派の本山と爲したり天正十年織田信長此寺に於て明智光秀が爲めに弑せらる其時は六角の南油小路の東に在り今本能寺町といふ此寺什寶の内に康頼の寶物衆あり張瑞圖の墨蹟七絶ありいづれも珍品なり又中興の僧大僧都日與は筑波衆といふ書を著はせし

○鴨川　或は加茂川に作る三源あり一は百井峠より出で〳〵大原八瀬及び高野を過ぎ至る所皆其地名を以て稱す一は小盥山より出で〳〵鞍馬貴船を過ぎ至る所亦其地名を以て稱す一は丹波の境より出で東流して中津川と云ひ貴船川を併せて加茂に至りて高野川と相合ふて糺或は河合と稱す而して二條三條の橋を過ぎ大和橋の西に於て白川と合す四條五條七條小枝橋を經て又桂川と合し淀橋の下に至りて宇治川と合し終に大阪に出て海に入る

○三條大橋　三條通鴨川に架す長さ五十六間幅四間半餘欄干の擬寶珠は紫銅を以て之を造る天正十八年豐臣太閤其臣増田長盛等をして架せしむ此橋は京都諸街道の里程元標にして旅客の要衝なり爾來數度の架替あり今在る者は明治廿七年修造する所なり

○檀王法林寺　三條大橋東詰にあり淨土宗黒谷派に屬す古は悟眞寺と號す道光法師なる者建立す慶長年中袋中上人中興して栴檀王院と號す今畧して檀王といふ本尊彌陀佛は惠心の作なり

主夜神祠　袋中の勸請する所にして婆珊婆演底主夜神を祭る常に詣人多し

龍王祠　昔鴨川に大蛇あり人を害す斬て其靈を祭る今晴を祈る者必應ありといふ

○開法山頂妙寺　二王門通川端の東に在り日蓮宗一致派の本寺なり昔は新町通下長者町に在り文祿年中高倉通椹木町の北に移り寛文年中又此地に移る開基日祝僧都は下總國千葉郡の人同國の日薩を師とし文明五年此寺を建つ永正十年四月十二日八十七歳にして寂す此寺本堂樓門拜殿ありて拜殿は樓門の前に在り樓門に安置する所の二王を拜する爲めの殿なり是れ他所に異なる所なり

○本山要法寺　新高倉通孫橋の東に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり昔は醒井通綾小路に在り其後京極二條に移し近世此地に移す開基日尊大僧都は日興阿闍梨の弟子なり本堂中央に日興書寫の本尊並に宗祖日蓮讀經の像を安す額に玄宗極レ地本時上行扶桑恵日長照閻浮一と云ふ十六字を掲げたり傳に曰く當寺古來山號なし何れの處に在るとも多寶富士山本地上行院と名つく可しと是れ開山上人の口傳なりと

○法鏡山妙傳寺　二條川東の東北隅に在り日蓮宗一致派の本寺なり開基日殿上人初め叡山に在て台教を學

ぶ後身延山の日興を師とし日蓮宗に改む往昔創建の地は京北にあり中古西洞院綾小路に移る其後豊臣秀吉の命により京極二條に移り又今の處に移す

成田蒼虬墓　寺内に在り蒼虬は尾張の人京に來り俳諧を以て名あり芭蕉の風を中興す天保十三年三月三日沒す

○室中山寂光寺　二王門通新高倉の東に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり昔は室町通出水に在り後京極二條に移し近世又此に移す開基を久遠院日淵と云ふ織田信長の時此寺に圍碁に精しき僧あり本因坊と云ふ信長召て之を見る爾後代々圍碁に通ずる者を選みて住せしめ幕府に謁して祿を受くるを例とす

○聞名寺　二條川東の東北に在り時宗藤澤滿淨光寺に屬す昔大炊御門室町に在り故に大炊道場と稱す此寺に　光孝天皇の皇子雨夜皇子建立と云ふ盲人の傳說あり詳ならず

香川景樹墓　寺内に在り景樹は因幡の人京に來り歌を香川景柄に學ぶ遂に嗣子と爲る德大寺家に仕へ長門介に任じ後肥後守に任す歌道一家を成し天下に獨歩す著述甚多し東塢又桂園と號す天保十四年三月

晦日卒す年七十四桂園靈神と謚す

○本浦山妙泉寺　二王門通新高倉の北側に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり開基は日舜僧都なり昔は綾小路に在り後京極竹屋町に移し又此處に移す當寺に日蓮上人佐渡國袈裟懸松の像あり

○疏水運河　丸太町橋の南の方は疏水運河の鴨川の新運河に入る落口なり此疏水運河の水口は琵琶湖にして近江大津の東北三保崎に在り三井寺の麓を廻り逢坂山に至り千三百四十間餘の隧道あり之を第一隧道とす其隧道の西口は滋賀郡藤尾村なり藤尾村より山下を繞りて日岡山に至り第二隧道に入る之を過れば南禪寺の南に出で分れて幹支の二線となる幹線は斜めに南禪寺の前を過ぎ西に折れて白川を横切り丸太町橋の南の方より鴨川の新運河に注ぐなり支線は南禪寺より山に傍ふて北に進み若王子鹿ヶ谷淨土寺を過ぎ白川村に至りて漸く西に向ひ高野加茂兩川底を過ぎ京都市の北を廻りて堀川の上流小川頭に入る線路中處々に架橋閘門及び舟溜あり其要路左の如し

幹線水路　滋賀郡三保崎湖岸より京都鴨川東岸に至る六千一百零七間

第一隧道　大津三井寺山下より滋賀郡藤尾村に至る延長千三百四十間

藤尾口の第一隧道西口より第二隧道東口迄延長二千二百七十三間餘

第二隧道延長六十八間餘

同　隧道西口より第三隧道東口迄運河延長百四十五間餘

第三隧道　延長四百六十七間

同　隧道西口よりインクライン迄運河延長九十二間餘

インクライン　延長三百二十間

同所より鴨川迄運河延長九百九十八間餘

支線の部

第四隧道　延長七十五間

同　隧道北口より南禪寺水路閣迄運河長さ百七十六間餘

南禪寺水路閣　延長三百零七尺五寸

同所より第五隧道南口迄運河延長百七十一間餘

第五隧道　長さ五十六間

第六隧道　延長百間

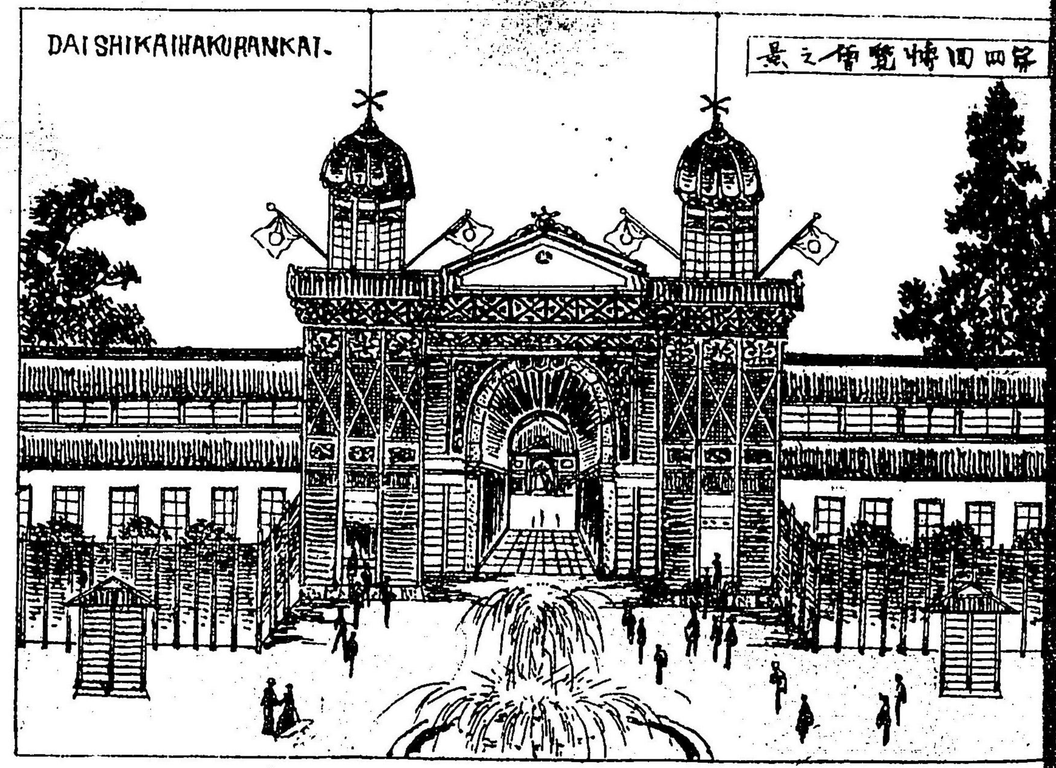
同　北口より小川頭迄延長四千零三十八間餘

琵琶湖疏水工事は前々京都府知事北垣國道の發意計畫に係り六箇の利益を目的として起工したる者なり即ち第一水力を藉りて機械を運轉し以て工作製造の法を改良する事第二水利を開通して舟楫の便を興し以て運輸の業を擴充する事第三宇治紀伊愛宕葛野四郡に渉る旱損の田畑に灌漑し以て若干の收穫を增す事第四各所に水車を設け以て精米の用を爲す事第五市街縱横引水し以て井水の缺乏を補ひ兼て亦火災防虞の用に備ふる事第六下水を消淨にし以て衞生の利を興す事等にして因て以て京都の衰頽を挽回し永く其繁盛を維持せんと欲するに在りと云ふ明治十八年一月始めて起工し廿五年に竣功したりと雖も新運河を延長して伏見に達するは廿七年に至る

○岡崎町　神樂岡の崎なる故に岡崎と名づく元岡崎村なりしに京都市中に編入して岡崎町と云ふ

○內國勸業博覽會場　敷地坪數五萬九千七百五十八坪にして岡崎町聖護院町に屬す會場は動物館水產館器械館工業館農林館美術館の六種に區分す

○紀念殿　明治廿八年は平安京遷都延曆十三年以來一


DAISHIKAIHAKURANKAI.
第四回博覽會之景

千百年に相當せるを以て京都市民は其紀念の爲め往古の大極殿を模擬し造營したる者なり大極殿蒼龍樓白虎樓龍尾壇應天門あり人をして千古を追懷せしむ

○平安神宮　紀念殿の北に在りて其に南面なり平安奠都以來一千百年に相當せるを以て　桓武天皇の神靈を永く奉祀せんが爲め造營する所にして平安神宮の勅號を賜ひ併せて官幣大社に定めらる

○聖護院町　岡崎町の西北を云ふ元聖護院村なりしが近來市内に編入す

○熊野神社　聖護院町に在り鄕社なり祭神は伊弉冊尊なり相殿は伊非諾尊天照皇大神速玉男命事解男命にして弘仁年中の鎭座なり其後　後白川上皇更に紀州熊野より土砂及び花草に至るまで運ばしめ移させたまふ

○第一絹絲紡績會社　川端東丸太町の南に在り明治廿二年創立資本金二十五萬圓と云ふ

○京都織物會社　吉田町川端に在り明治廿年創立資本金五十萬圓と云ふ

○聖護院　熊野神社の東北にあり往昔常光院と號す中世聖護院に改む天台宗にして智證大師の開基なり

增譽僧正此院に住し熊野三山の別當職と爲る爾來代々法親王住職と爲り給ひ天台派の修驗道を掌り給ふ維新後は其事止みたり

○示現山滿願寺　岡崎町に在り日蓮宗無本寺なり弘長の頃宗祖寄宿せし處と云ふ元祿中僧日亨開基し本堂に釋迦佛多寶佛を安す

文子天神社　堂前の北側に在り菅公自作の像を祭る昔は北野に在り後此に移し當寺の鎮守とす文子の事は北野緣起に見ゆ

俊寛僧都跡　此地は昔法勝寺の執行俊寛住居せし跡にして當時の閼伽井猶存せり明治廿年住僧日輝紀念碑を建つ文は從五位谷鐵臣撰す

○東本願寺掛所　滿願寺の北東に在り近世造設せし所と云ふ

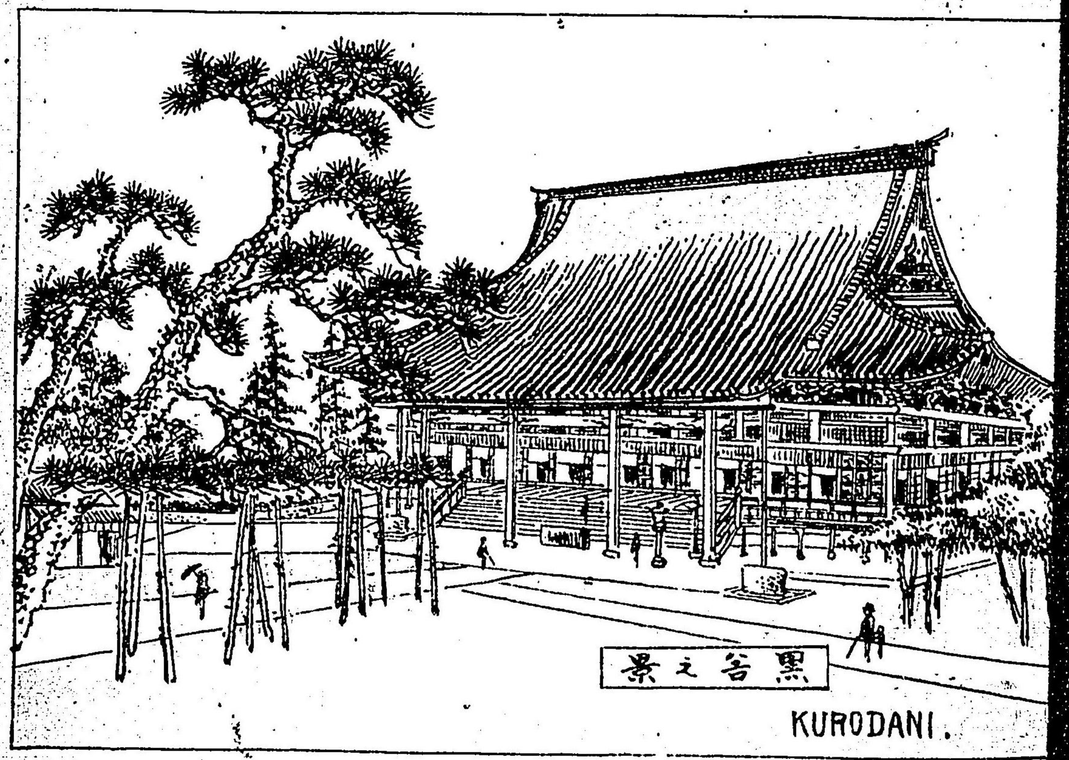
○岡崎神社　東本願寺掛所の東に在り鄕社なり祭神は素盞烏尊なり例祭九月十六日神輿一基鉾七本あり鉾七本各神輿に先ちて行く是を鉾を祭るといふ其内一本劔鉾の上に泥塑の大鷹彩色を施して之を置く之を大鷹の鉾といふ承安二年六月十四日　高倉天皇の叡覽に備へ永享十一年六月十日後花園天皇修理せさせ給ふこと社記に見えたりいふ

○紫雲山金戒光明寺　岡崎町に在り淨土宗鎭西派の本寺なり開山は源空上人なり源空始め叡山の西塔黑谷に住し後此に住す故に此地を新黑谷と號す本堂南向開上自作の像を安す阿彌陀堂の本尊は惠心の作なり觀音堂の千手の像は行基の作なり勢至堂は源空の廟塔なり熊谷堂に熊谷蓮生房自作の像あり文殊塔の文殊像は日本三文殊の一なり紫雲石は源空開宗の時紫雲此石より起る因て山號とせし謂はれなり鎧池鎧掛松は蓮生房の舊跡なり昭堂は德川家康の女淺野長晟の室某の靈屋なり此寺に源空自筆の一枚起請なる者あり第一の寶物とす山越彌陀の像は惠心の筆にして金色精妙なり觀音堂內に吉備大臣の座像を安す衣冠黑袍の姿なり

西雲院　開基を心界宗嚴といふ朝鮮人なり豐太閤征韓の時虜せられて來る後僧となり此院を創す

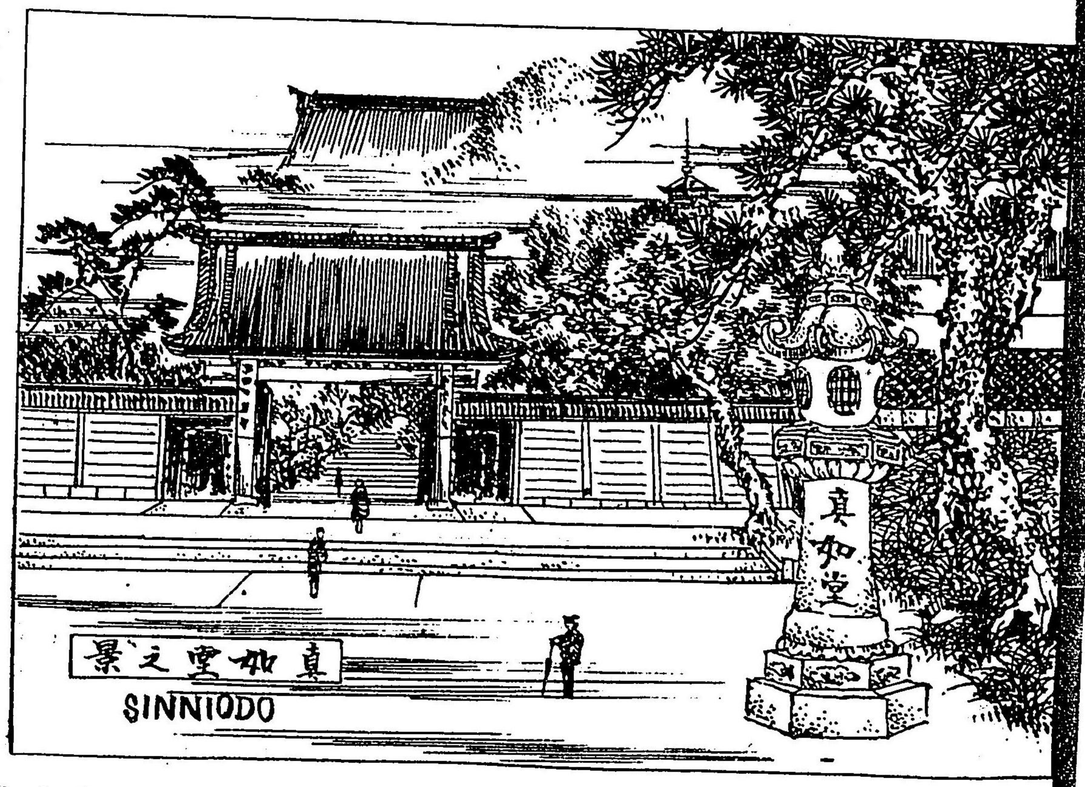
山崎闇齋墓　闇齋名は嘉字は敬義一は垂加と號す京師の鴻儒なり卜部家の神道を永く天和二年九月十六日沒す年六十八

○鈴聲山眞正極樂寺眞如堂　神樂岡の東南に在り天台



宗延暦寺に屬す　開山戒算上人永觀二年白川女院の離宮を請ふて寺と爲し慈覺大師所作の彌陀の像を安ず戒算は天喜元年正月廿七日寂す年九十一當寺度々移轉あり始めは今の所謂元眞如堂に在り文明九年京都一條通に移る同十六年此地に遷る文龜三年再び京都元の地に移す元祿五年火災に逢ひ又今の地に復歸す本堂元三大師堂觀音堂藥師堂等あり本堂元慈覺自作の佛像は京都に於て燒失す今の像は其後作る所の者なり觀音堂の五寸許の如意輪像は黃金佛なり藥師堂の石の坐像は元今出川の南公家町に在り其地今に石藥師と稱す元眞如堂と云ふ地は東北下壇にあり此寺に張思恭の筆の普賢像あり配色異樣なりといふ

○大興寺　眞如堂門前の北に在り靈芝山と號す俗に芝藥師と云ふ古は天台宗今は禪宗東福寺に屬す淨月寂澄禪師中興す本尊藥師佛は運慶の作坐像三尺五寸十二神將同作立像三尺計　後鳥羽天皇の勅願に依りて叡山中堂の藥師を模して作らしめ給ふ叡山は婦人登ることを得ざれば三宮の爲めにし給ふ所といふ闘羽像、當寺にあり足利尊氏百戰百勝の軍神を求めて信仰すべしと元朝に申し遣はせしに此像を送り


真如堂之景
SINNIODO
真如堂

來れり尊氏此寺に安置し領地を寄附す其御敎書今猶保存せり

○東北院　右同所に在り往古天台宗後世時宗藤澤派に屬す本堂東北院の三字は　後西院天皇の宸筆なり本尊辨財天の像は傳敎大師の作なり往古寺町今出川に在り長元三年上東門院建立　上東門院は御堂關白道長公の長女にして　後一條　後朱雀兩天皇の母后なり道長公の坐像あり長さ一尺許衣冠束帶なり公は萬壽四年十二月四日薨ず法成寺殿と號す此寺今の地に移りしは元祿中のことなり

○神樂岡　俗に吉田山と稱す南北四町許の丘山なり

○齋場所　右同所に在り元京都出水通室町下部家の私邸に在り文明十六年卜部兼倶の時此地に移す

大元宮　八角造りにして茅葺なり日本最上日高日宮の大額は　嵯峨天皇の宸筆なり大元宮の小額は　後土御門天皇の宸筆なり

八神殿　古神祇官に於て祭る所の八柱の神なり即ち　高皇產靈神　神皇產靈神　玉積產靈神　生產靈神　足產靈神　大宮賣神　大食津神　事代主神

外宮宗　八神殿の西にあり

内宮源　同殿の東にあり右兩宮の額は足利義政の室藤原富子の筆なり

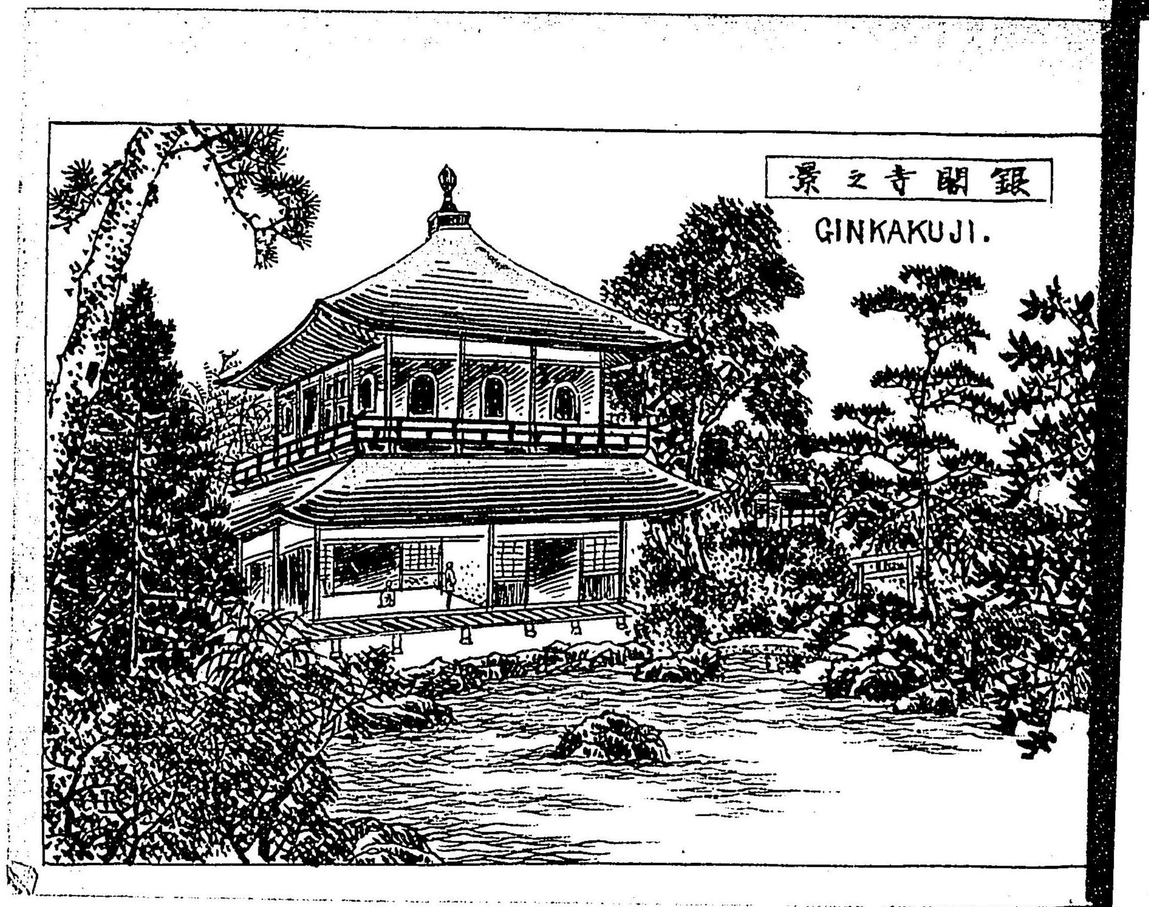
日本國中總攝社　山城國より對馬國に至る總合三千一百三十二座

○吉田神社　官幣中社なり祭神は武甕槌神齋主神天兒屋根命　比賣神四柱なり此社は貞觀年中中納言山陰卿始めて勸請する所なり奈良春日神社と同神なり奈良京の昔は春日社を以て氏社とし平安京の今は吉田社を以て氏社とすと云ふ傳說あり

○吉田町　神樂岡の西を云ふ元吉田村なり近來市中に編入す

○第三高等學校　吉田町に在り文部省直轄にして明治廿二年建築成る第三高等中學と稱し同年八月大阪より移轉したり其起原は明治元年七月大阪城西に舍密局を建設せしに始まり漸次に沿革したる者なるが二十七年七月に至り第三高等中學を廢し第三高等學校と改稱し專門科を敎授する所とす

○銀閣寺　本名は慈照寺なり淨土寺町に在り禪宗相國寺に屬す文明二年足利義政建つる所の別莊なり死後遺命を以て寺と爲し夢窓國師を追請して開基とす義



政を慈照院殿と號するを以て慈照寺と稱し又銀閣あるを以て銀閣寺ともいふ銀閣は二重閣にして閣上徧く銀箔を貼したるが今は磨滅したり中央に觀音の像を安ず是れ北山金閣に擬したる者なり東求堂は義政蘿髪の像を安ず此堂の東の間は義政茶宴の處にして茶家の稱する四疊半釣釜の鑑觴なり其遊棚の張附梅の畫は古法眼の筆なり帳臺の腰障子琴碁書畫の圖は狩野永納の筆兩脇の闌水仙は相阿彌の筆客殿中の間仙人の畫は海北友雪の筆東の間の山水は逍遥軒の筆西の間の山水は狩野隆世の筆其他襖屏風皆希代の名筆なり特に相阿彌の山水の圖は深遠幽邃を以て稱せらる此處の林泉は義政相阿彌をして造らしむる者にして後世庭造の軌範とする所風景眞妙言ふべからず

○月待山　俗に大文字山と云ふ淨土寺町の東にあり山面に大字の痕あり數箇所に小石を以て徽しとする者なり毎年陰曆七月十六日淨土寺町の人薪を携へ山に登り之を小石の上に置き暮夜に及びて一齊に火を點ず其ひかり分明赫奕なり其大字第一の畫長さ三十八間第二は八十五間第三は六十五間なり昔空海之を造る中世廢絶すること久し足利義政の時相國寺の僧横

川をして再造せしむ此れを盂蘭盆精靈の送火と云ふ

京都の一奇觀なり

○淨土寺町　淨土寺村なりしが近年市中に編入せり往古は淨土寺といふ天台宗大寺ありしこと古文書に見ゆ

○善喜山萬無寺法然院　鹿ケ谷町に在り淨土律宗無本寺なり往昔法然上人並に弟子住蓮房住する處なり其後廢絶す延寶八年知恩院三十八世萬無といふ僧これを再興す因て萬無寺と號す本堂彌陀佛の像は惠心の作其他地藏堂經藏佛足石善喜水阿育王塔ありて境致幽寂清雅なり

○住蓮山安樂寺　法然院の南にあり淨土宗永觀堂に屬す本堂彌陀の像は惠心の作なり此寺は松虫鈴虫と云ふ兩尼の塔あり昔法然の住する所にして其徒住蓮房安樂房に附屬す二僧此に居て念佛の業を修す　後鳥羽上皇の二妃共に此二僧を信敬し忍びて宮を出て尼となる　上皇怒りて法然を讃岐に流し二僧を死罪に處し給ふ二僧江州馬淵に於て誅せらる此寺廢絶すること久し後人再興して二僧を開基とす

○靈鑑寺　谷口の北に在り舊尼御所と稱し禪宗南禪寺派なり始持明院基久卿の息女　後陽成天皇の女房となり妙法院宮堯然法親王を產む　天皇崩後尼と爲り靈鑑院と號す此地妙法院の宮の領地なるを以て寺を建て靈鑑寺と號す　後西院天皇の皇女を弟子と爲し谷宮と稱す爾來尼御所となりし

○談合谷　靈鑑寺の東十餘町の處に在り往昔法勝寺の執行俊寛僧都の別莊にして平家を滅すべき密謀を談合せし處故に名づく

○如意ケ嶽　鹿ケ谷町の東の山をいふ三井寺に至る處を如意越といふ

○櫻谷　山城近江の國堺なり溪流の中に櫻花の狀を成す小石を出せり故に名づく

○陽成天皇陵　傳に愛宕郡吉田村神樂岡東の陵といへり

○後一條天皇陵　傳に愛宕郡淨土寺村の陵といへり

○冷泉天皇陵　傳に愛宕郡鹿ケ谷村字御廟所の內北塚の陵といへり

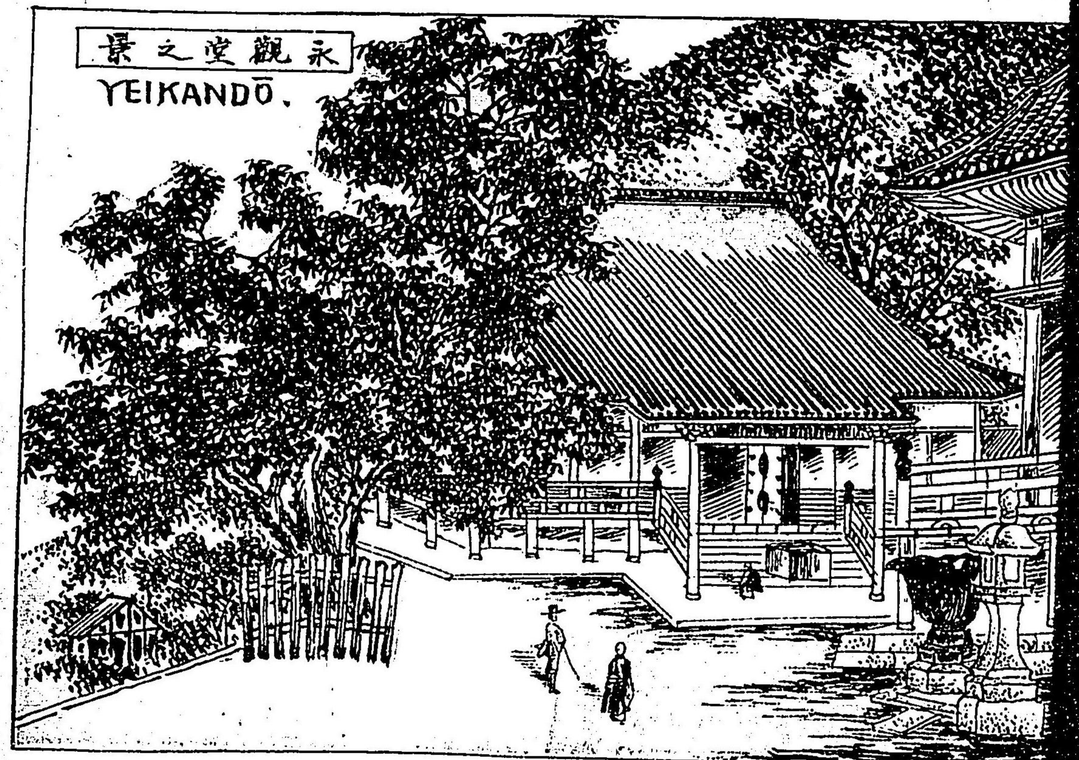
○若王子神社　永觀堂の北に在り祭神は紀州熊野の本宮新宮那智若宮の四社なり　後白河法皇熊野の神を信仰し給ひ三十三度御幸あり永曆年中那智山の土砂

を運搬せしめ神靈を勸請し給ふ熊野の若宮女一王子の神名に依りて此社を若王子と號するなり

○若王子山 幷 瀧　此山皇居の正東に當るを以て昔は正東山と稱したり山中に秋錦舍看瀑舍延年蓬瑞雪亭嬌鶯軒迎月居等の亭舍あり山に據り排徊し櫻楓之に沿ひ清麗閑雅なり春秋遊人絶ゆることなし又一の瀧二の瀧三の瀧あり高さ各々一丈餘にして其水清列茂樹之を掩ひ幽邃の景愛すべし夏日の避暑に尤も宜しき所なり

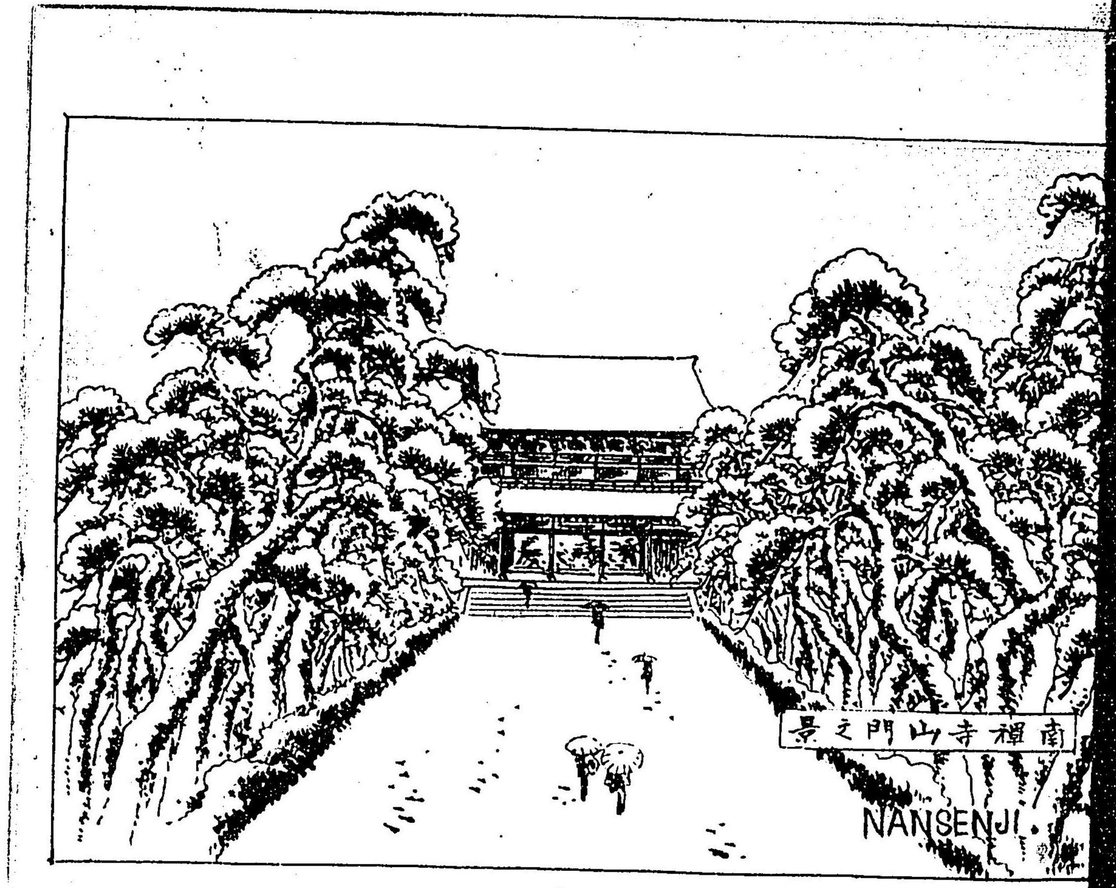
○光雲寺　若王子神社の北に在り禪宗南禪寺に屬す法堂に釋迦佛を安す方丈書院鐘樓蓮池あり瑪瑙石の手洗盤は奇觀なり當寺始めは攝州四天王寺の傍に在り無門禪師の開基なり無門　龜山天皇の勅を奉じ南禪寺を建るに當り其寺兵亂を歷て廢絶せり寛永中南禪寺の僧英仲此地に移し再興す東福門院深く隨喜し後水尾天皇に奏して巨鐘を鑄さしめ給ふ

○永觀堂　聖衆來迎山禪林寺と稱す南禪寺の北に在り淨土宗西山派の本寺なり此寺の始めは藤原關雄が山莊なりしを空海の法孫眞雅僧都求めて佛寺とす第二世宗叡僧正智證に從ひて顯密を學び碩德の僧なり



清和天皇之を歸依し給ひ貞觀五年九月六日定額とし名を禪林寺と賜ふ其後十餘世を歴て　花山天皇第四皇子深觀僧都此に住す其弟子永觀律師次で住す嘗て此に住する時佛前に於て行道念佛せしが永保二年二月十五日の晨例の如く衆僧と共に行道するに彌陀佛壇より下りて共に行道す永觀奇異の感を起し暫時乾の方に向ひて躊躇すれば彌陀佛左を顧みて永觀遲しと言へり其後面貌遂に復らず世に顧見の本尊と云ふは是にて本堂に安ず立像長さ三尺餘あり又來迎山と稱するは寛治二年九月八日の夜永觀聲を勵まし念佛を唱ふるに忽ち光明赫然として聖衆來迎し庭前の松樹の上に集會するを感ず是れ山號とする由緣にして本堂の前に來迎松とて今枯木の存する由緣なり祖師堂には善導大師の立像を安ず自作といふ中央に在り在は圓光大師の坐像右は西山上人の坐像なり西山上人證空は西谷淨音の師なり淨音此に住し大に西山派を興起す是れ常山淨土中興中山派の本寺とする所以なり廟堂には圓光大師の像を安す其他方丈講堂學寮行場あり

悲田梅　來迎松の南に在り昔此梅の實を以て病者に

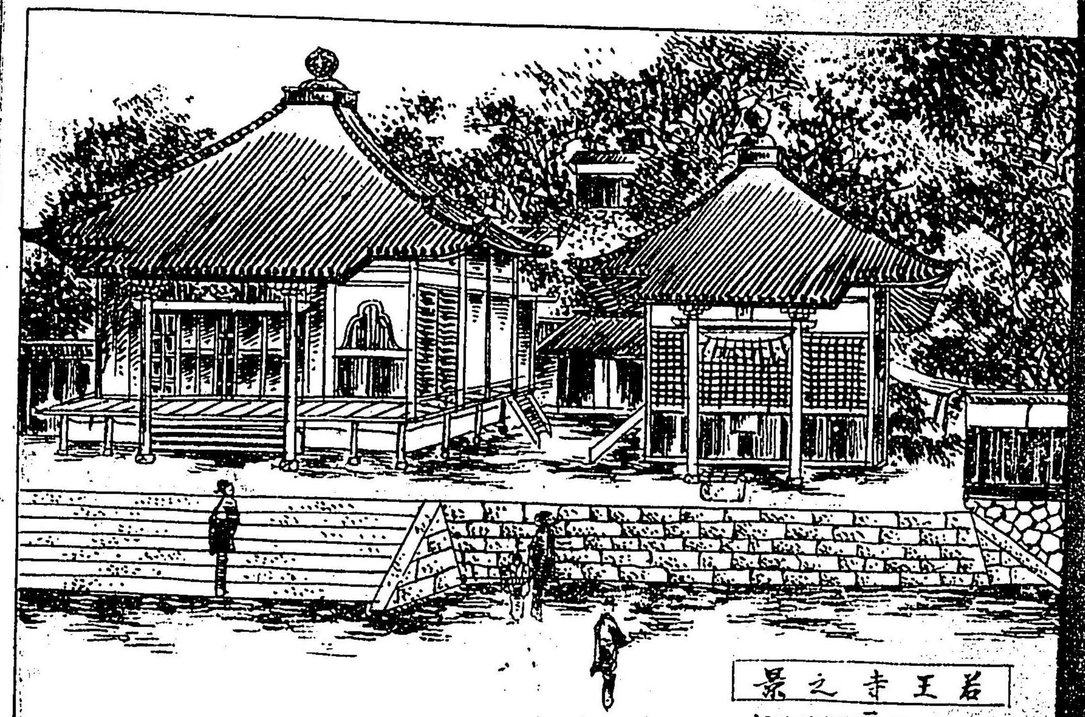


施したれば人名づけて悲田梅といふ此こと鴨長明が發心集に見えたり

有名畫幅　此寺に畫幅多し就中赤衣の釋迦は唐子夏の筆にして東福寺吳道子の筆の三尊に次で天下の奇品なり十大弟子左右二幅山越の彌陀一幅及び傳法堂彌陀の像等希世の妙品なり西人フエノロサ氏曰く京都名畫多きは知恩院東福寺東寺大德寺の四箇寺とす

今禪林寺を加へて五箇寺とす

○瑞龍山太平興國南禪々寺　粟田口の北南禪寺町に在り禪宗臨濟派五山之上と稱す開山大明國師名は普門永仁元年草創なり其始めは三井の長吏最勝光院僧正道智此地に住せり弘安年中　龜山上皇此地に離宮を建給ひしに妖怪出で障りを爲して止まず因て陰陽頭に命じ卜筮せしむるに道智の靈魂の爲す所といふ乃ち顯密の名僧に命じ之を穢はしむ妖怪猶止むことなし是に於て東福寺の無關に命ず（普門の號）無門命を奉じ祖圓以下二十人の僧を率ゐ來りて宮中に禪坐すること九旬にして二時の粥飯の外別に爲す所なく祈る所なし而して妖怪長く跡を絶ち上下安泰なり上皇初めて禪理ゐること悟り給ひ感嘆の餘り離宮を



若王寺之景

NIYAKUŌJI.

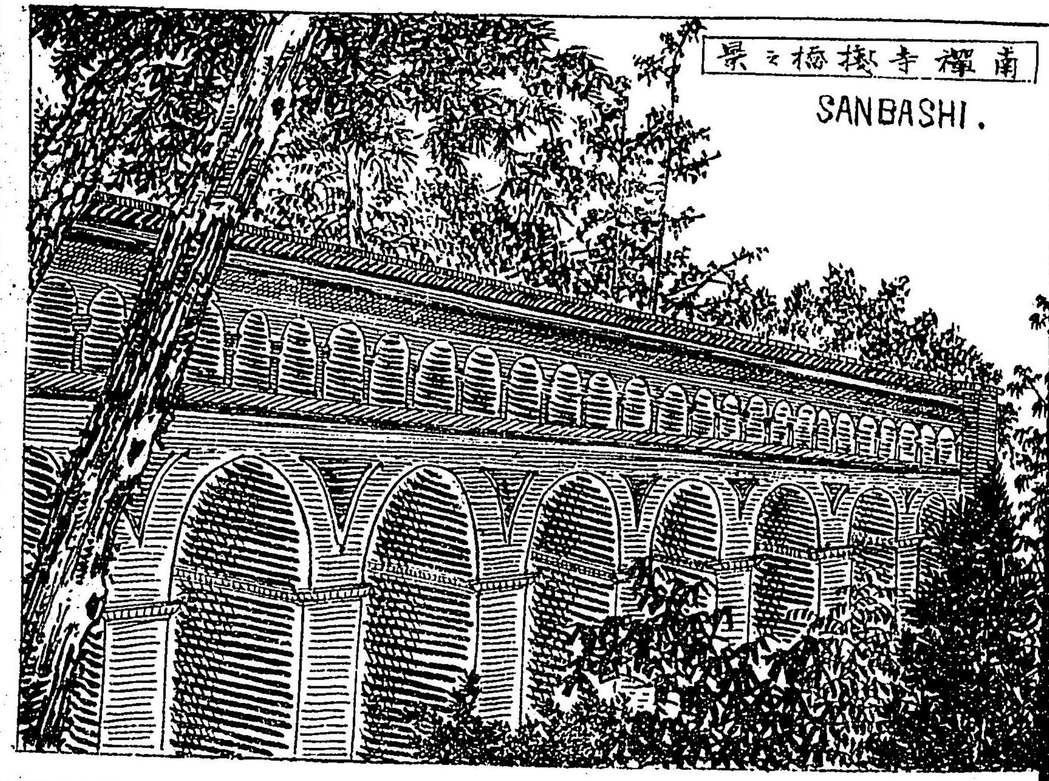
革めて佛寺と爲し普門と祖圓とを兩開山と爲し堂殿を創建せしめ給ふ是れ卽ち南禪寺なり爾後歲を經ること六百年其間應仁の兵燹に罹り當昔の姿は全く無し今在る者は亂後の再建のみ

佛殿　釋迦佛及文殊普賢の像を安す又金剛力士二體を安す左壇に達磨臨濟百丈の三祖像を安す右壇に龜山上皇の御牌を安す

山門　閣上に釋迦及十六羅漢を安す此山門は寛永中藤堂高虎の再建なり

方丈　東の間鴨瀧の圖花鳥筆は古法眼元信の筆中の間廿四孝は狩野永德の筆西の間花鳥の畫は同筆なり三の間水呑の虎の畫は狩野探幽の筆にして世に喧傳する所なり寶物の中に魁たる者は李龍眠の文殊像徽宗皇帝の墨畫の山水二幅神韻飄逸南宗の上乘なり宅磨榮賀の大明國師の畫像は筆力精到則とるべき奇品なり足利義持の十六羅漢は畫家の及ぶべきに非ざる獨色あり趙子固の墨竹萬國禎の睡鴨圖閻立本の觀音像等孰れも奇品に非るはなし

最勝光院　道智の靈を祭る所當寺の守護神とす道智を世に駒僧正と呼ぶ攝政從一位太政大臣良經公の



子なり

○水路閣　疏水運河支線にして山腹を横行す煉瓦を以て高く溝渠を構造し延長三百間餘あり境内の佳觀なり

○駒ケ瀧　南禪寺の後山二町許の處にあり大岩突兀老樹陰森の中に一條の飛泉あり此を神仙住境と名づく傍に駒僧正の小祠あり

○梁川星巖墓　南禪寺塔頭天授庵の後にあり星巖名は緯號は眞逸なり通稱は新十郎美濃の人少きより山本北山に就き儒を學ぶ最も詩を善くし遂に一家を爲し其名世に鳴るのみならず平生勤王愛國の志極めて厚し安政五年九月二日沒す年七十明治廿四年四月朝廷其志を賞し正四位を贈らる妻紅蘭も詩を能くし墓同所にあり其他此處に諸名家の墓多しと雖も記するに遑あらず

因みにいふ此天授庵は南禪寺開山大明國師の塔所なり同塔頭歸雲院といふは二世祖圓南院國師の塔所なり南禪院といふは　龜山上皇の宸影を祭り奉る所なりとぞ

○金地院　南禪寺門前南側にあり昔は五山僧錄司に任

せらるゝ僧此に住職す開山崇傳本光國師は德川家康の禮遇を受けし人なり客殿襖の畫は狩野尙信の筆庭前の林泉は小堀遠州の造る所なり

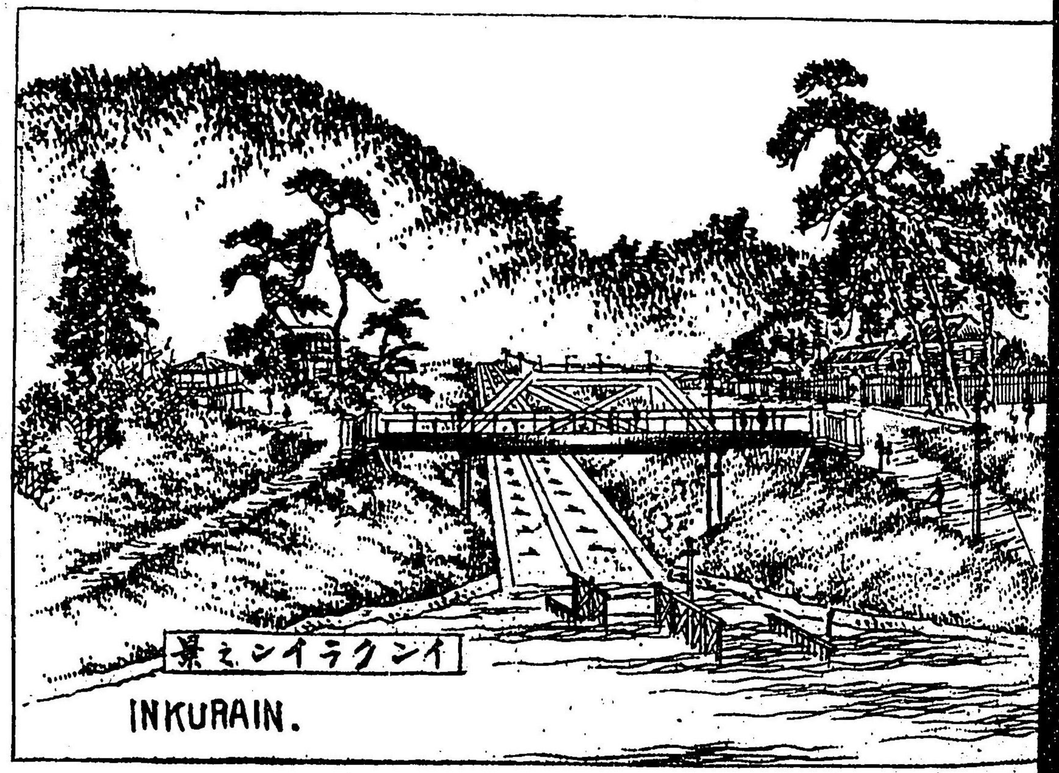
○東照宮廟　贈正一位太政大臣源朝臣德川家康公を祀る所なり廟殿は極彩色にして前に樓門あり

○上田餘齋墓　南禪寺門前西福寺の內に在り餘齋名は秋成無腸鶉居等の號あり浪花の人初め醫を業とす後醫業を廢棄し專ら國文國詩を研究し遂に一家を爲し且煎茶法を興す生涯奇話多し文化七年羽倉某の家に於て沒す年七十八

○インクライン　日岡より南禪寺町迄長さ三百二十間の間鐵軌を布設し電氣を以て舟を上下する所にして他國には未だ有らざる者なり

○水利事務所　右同所西側に在り疏水を以て機械を運轉し電氣を發作する所なり

○東岩倉山　粟田口北側に在り山上に眞性陀といへる寺あり大日を安す故に世の人此山を大日山といふ山中櫻紅葉躑躅多く且山上より京城を眺望すべし文永五年九月　龜山上皇臨幸あり建長七年十二月　後嵯峨上皇臨幸あり往昔王城の四方に大乘經を藏め以



て鎮護とす是れ東の岩藏なり

○日向神社　東岩倉山の半腹に在り鳥居は疏水運河の傍に在り神座の地を蛭子谷といふ祭神は伊勢内外の兩宮なり雍州府志に三代實錄を引て曰く　清和天皇菅原船津に勅して太神宮を粟田山に勸請せしむ則是也とあり建武の頃社司某官軍に屬し北國に赴く終に歸らず社頭頽廢に及びしが慶長十九年伊勢山田の野呂完光之を再興し社司を勤む

○蹴上　粟田口の東を蹴上と云ふ昔源牛若丸金賣吉次に具せられ奥州に赴く時平家の士關原與市なる者其少年なるを侮り馬上より雨後の溜水の馬蹄を以て蹴りあげしかば牛若丸大に怒り與市及び耶等を殺して過ぐ是より名づけしといふ

○粟田口町　近江より京都に入る官道なり往昔は上粟田郷下粟田郷ありて共に愛宕郡に屬す今は京都市中に編入せり

○粟田陶器店　粟田口の左右軒を並へ種々の陶器を販ぐ其陶工用ふる土は大日山より出づ其味美にして能く火に堪へたり昔木米と云ひし良工あり俗稱を青木八十八と云ふ今に帶山錦光山等の巧手あり

○白川橋　三條通の東白川の流れに架する石橋なり白川は源を滋賀の山越より發し白川村に至りて白川と云ふ

●上京區三條通以北

西部

○福長神社　室町通武者小路に在り祭神は生井神福井神綱長井神にして福井の福と綱長の長とを取て福長と號するなり往古神祇官に在りしを後二條城を建つる時此地に移す者なりといふ神體は石に坐すとぞ

○鍛王神社　烏丸通下長者町に在り別格官幣社なり祭神は贈正一位民部卿和氣朝臣清麻呂卿なり元高雄神護寺の內に在り近年此地に社殿を新築す本社拜殿神饌所等あり境致宏潔なり壇下に石造の猪一對あり是は他の神社に無き所にして和氣公の故實に據る者なり傳に曰く和氣公大隅に竄せらるゝ時道鏡其脚の筋を斷ち起つこと能はざらしむ公宇佐八幡宮に詣せんとするに輿に乘じて路に卽く豐前宇佐郡田村に至るに及びて猪數多路を挾みて前驅すること數里にして山中に走り入る人見て之を異しむ宮を拜するに及びて起坐常に復すと是なり

○京都府廳　下立賣通　新町　西入藪内町に在り明治十七年十一月二條城より移轉す

○市立盲啞院　釜座通　椹木町の南に在り明治十一年創立日本最初盲啞院の額は前々府知事槇村正直の筆なり

○府立尋常中學校　新町通　下　長者町の南に在り明治廿一年寺町廣小路より移轉す

○上京區役所　中立賣通　西　洞院の西に在り上京區の戸數貳萬七千七百三拾六戸人口拾壹萬九千三百八拾人之に屬す

○一條戻橋　一條通堀川に架す　古三善清行疾に罹り時其子僧淨藏熊野に在り父の疾を聞き馳歸る清行既に沒し此橋にいたり送葬に逢ふ淨藏乃ち靈棺を橋上に留め專心祈念す清行忽ち蘇生し遂に共に其家に歸れり是より此橋を戻橋と名づく

○具足山妙顯寺　寺之内通小川頭に在り日蓮宗一致派の本寺なり始めは西洞院二條の南に在り　後醍醐天皇の勅願所なりしが天正年間此地に移す　開山日像上人は下總の人幼名經一丸康永元年十一月十三日寂す祖師堂鬼子母神堂五重塔あり加賀黃門利光卿中興する所なり獨錦の曼陀羅黃金の釋迦の立像職人盡の屏風什寶中の最なり

○具足山妙覺寺　新町頭清藏口に在り日蓮宗一致派の本寺なり開山日朗中興日實なり昔は衣棚二條に在り今妙覺寺町と云ふ天正年中此に移す祖師堂雜刹堂花芳塔あり花芳塔は日蓮叡山に在る時横川花芳谷に於て作る所にして自筆の法華經を藏す後茲に移す祖師堂は古の博多盧山寺の一堂にして飛騨の匠の建築に係り諸堂を造る者之を模範とす

狩野元信墓　寺内にあり元信法眼に叙す世の人古法眼と稱す畫の妙を得たるは言を待たず此地狩野家數代の墳墓あり

○叡昌山本法寺　小川寺之内の北に在り日蓮宗一致派の本寺なり　古　綾小路の西に在り天正年中此地に移す開山日親上人法難の爲めに苦惱を受けしとあり世に鍋被日親と云ふは是なり日親　長享二年九月十八日寂す年八十三

○白峰神社　今出川通小川の西に在り官幣中社なり祭神は　崇德天皇と　淳仁天皇との尊靈なり　崇德天皇の御靈は讃岐國阿部郡白峰に奉祀したりしが明治

元年九月此地に社殿を新營して遷し奉る同六年十月に至り　淳仁天皇の御靈を淡路國より迎へ奉りて合祀せり　淳仁天皇御諱は大炊淡路廢帝と稱し奉りしが明治三年四月　淳仁天皇と　諡　し　奉　る例祭は九月廿一日なり

○名和長年碑　大宮通一條の南に在り碑の高さ臺石共に一丈餘表面は曆正三位名和君遺蹟碑とあり三條實美公の書に係る背面は明治十九年十一月建と記せり相傳ふ此處は戰沒の地なりと故に近年是擧あるなり社は伯耆國に在りて別格官幣社に列せり

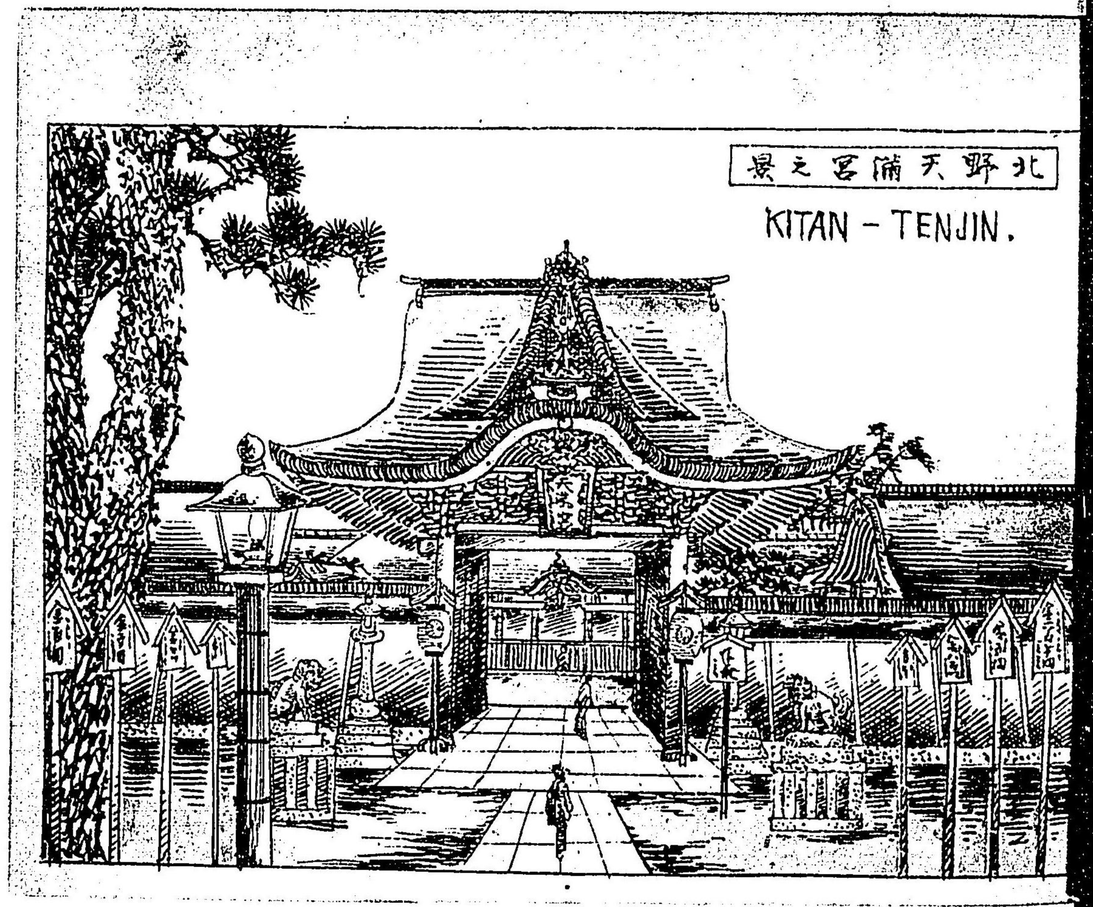
○外本山妙蓮寺　寺の內通大宮の東に在り日蓮宗勝劣派の本寺なり開基は日像上人なり古は西洞院五條に在り柳屋中興と云ふ者日像を歸依し宅地を寄附し柳寺と稱し其後大宮四條の南に移し又元誓願寺大宮に移し天正廿四年此地に移す應永中日應の時柳の字を分ちて外木と爲し山號となす什寶の中に祈雨の本尊として日蓮自筆の法華曼陀羅あり　後光嚴帝の時天下大に旱す此曼陀羅を以て桂川の畔に於て請雨法を修す忽ち大雨數日に及ぶ　帝御感あり故に日蓮に大菩薩の號を賜ふと云ふ

○惠照山淨福寺　淨福寺通一條の北に在り淨土宗知恩院に屬す開基を弘蓮社深譽といふ本堂彌陀の像は空海の作なり淨福寺の額は後奈良帝の宸筆なり

○西陣　堀川より西一條より北を西陣といふ昔應仁の亂に細川勝元の軍は東に在り東陣と稱し山名持豐の軍は西に在り西陣と號す今以て其名を存するなり現今西陣は織工の群住する所にして　金襴錦天鵞絨紋紬子紬珍緞子等の類を織出す天文の頃より傳承せる舊家あり天龜天正より始めし家あり千圓以上の資本を委する者四十餘家使役する所の織子と云ふ者千百有餘人故に京都の繁盛は西陣の繁盛に關す

○閻魔堂引接寺　千本通の北に在り眞言宗なり開基定覺律師は肥後の人惠心僧都の門人にして叡山に在ること三十年なり寛仁年中此寺を創む本堂閻魔王を以て本尊とす法橋定朝の作なり堂前に普賢像と云ふ櫻あり毎春此花の開くを待ちて狂言を催す是を大念佛會といふ文永年中如輪上人はしむる所なり

○瑞應山大報恩寺　五辻通千本の北に在り眞言宗智積院に屬す開基義空羽州の人貞應二年大堂を建んとするに攝州尼崎の成金と云ふ者異夢を感じ來りて木材



を施す此寺世に千本釋迦堂といふ

○七野社　大宮通の北端七の社町に在り祭神は奈良の春日神社を勸請す昔染殿　皇后の祈願に依りて創立する者といふ其後又伊勢石清水稻荷加茂松尾平野の六神を合せ祀る故に七の社といふ

○金寶山上品蓮臺寺　千本の北蓮臺野に在り俗に十二坊と稱す塔頭十二宇あるを以てなり　古は香隆寺と稱す眞言宗仁和寺に屬す聖德太子の草創なり天德二年仁和寺の觀空僧正　中興す觀空姓は文屋氏　寛平法皇の密灌を禀けし人天祿三年閏二月六日寂す年八十九

○北野神社　北野右近馬場に在り官幣中社なり祭神は贈太政大臣正一位菅原道眞公なり別に其嗣子菅中將を本殿の東の間に鎮し其室吉祥女を西の間に合祀せり初め天慶五年七月十二日菅神西の京七條の賤女多治比文子に託して右近馬場に居らんこと告ぐ其女極めて貧し彼處に社を營むこと難ければ吾家の側に簡を繞らして之を崇む爾後五年を經て天曆元年三月十二日近江國比良社の禰宜三好良種の子太郎丸といへる七歳童子に託ありて曰く吾昔いまだ右大臣に任

せざりし時夢に我身に松生て折れしと見たり是故に吾三公に昇り又謫居すべき事はかねて知れり故に吾やどる處には必ず松を植うべしと云へりやがて北野に松數千本一夜の中に生出ると世に言ひ傳へける良種乃ち北野に詣り朝日寺の僧最珍と謀り又先に神託ありし西の京なる文子と力を合せて同年六月北野に神殿を造立す天德三年二月右大臣正二位藤原師輔公神殿を增築せり爾來社殿を改造すること數次靈驗益ます著はる末社に船宮と云ふは彼一夜の松を祭るものなり官祭は八月四日私祭は十月四日なり神寶の中に北野緣起とて繪卷物あり藤原信實の畫にして希世の逸品なり東福寺の吳道子が釋迦文殊普賢と共に人口に膾炙せり此卷に勝る品は世界忍らくは又有べからずと云ふ

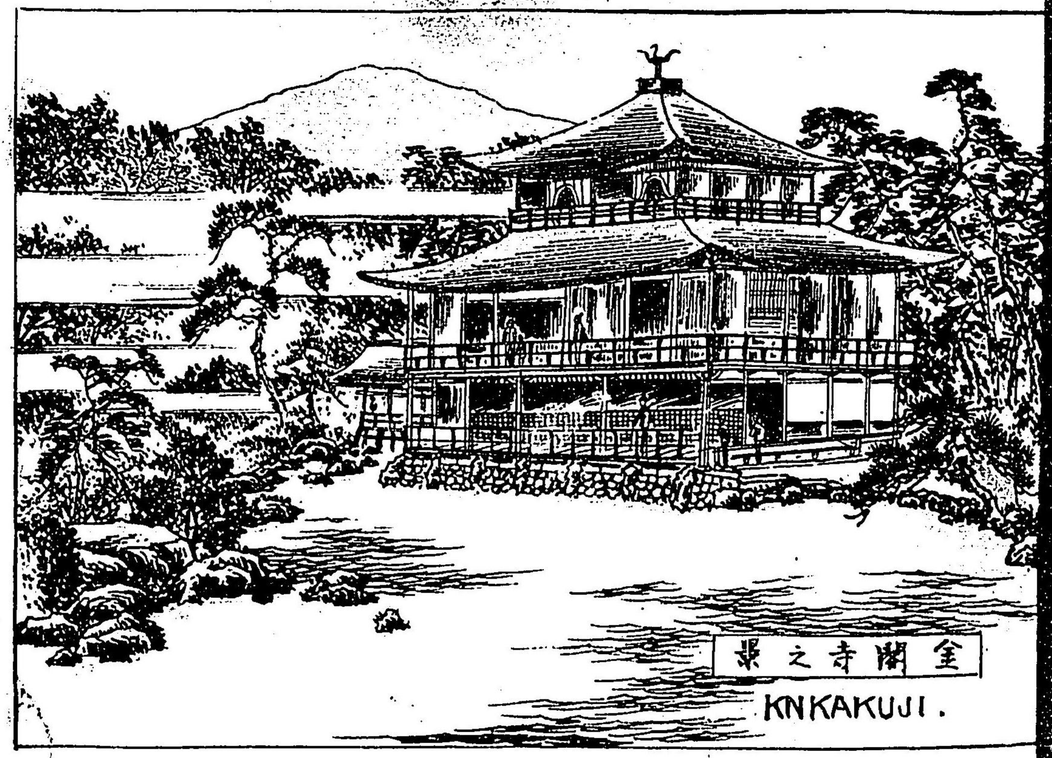
○平野神社　北野神社の西北二町許に在り官幣大社なり祭神は今木神久度神古開神比賣神の四座なり源平高階大江四姓の氏神なり又懸社とて本社に並びて小社あり天穗日命を祭れり是は中原淸原菅原秋篠四姓の氏神なり　桓武天皇延曆四年草創　淸和天皇貞觀六年七月正一位を授け給ふ官祭は四月二日なり

境内古來の櫻樹多く花時雜沓を極ひ特に夜を以て之を賞す所謂平野夜櫻なり

○金閣寺　本名は鹿苑寺なり衣笠山の麓に在り禪宗相國寺に屬す應永四年足利義滿建つる所の別莊なり死後遺命を以て寺と爲し夢窓國師を追請して開基とす義滿を鹿苑院殿と號するを以て鹿苑寺と稱し又金閣あるを以て金閣寺ともいふ金閣は三重にして下層を法水院と云ひ中層を潮音洞と云ひ上層を究竟頂と云ふ天井四壁皆金箔を貼したる者にして今も斑々金色の殘存する處あり閣下の池を鏡湖池と云ひ九山八海石夜泊石赤松石畠山石等の奇石池面に點在せり閣後に龍門瀑岩下水安民澤白蛇塚等あり夕佳亭は小丘の上にあり床柱は南天燭の樹を用ゐ胡枝花の枝を以て欄間を造り莊を編みて天井と爲す專ら雅趣を極めたり

○聚樂　西は千本通より東は大宮に至り北は一條より南は二條に至る地域を云ふなり天正十三年豐臣秀吉此地に於て城郭を築き聚樂城と名つく秀次に及びて遂に亡滅し今唯市街に舊名を存するのみ

○具足山立本寺　下立賣通の西七本松に在り日蓮宗一



金閣寺之景

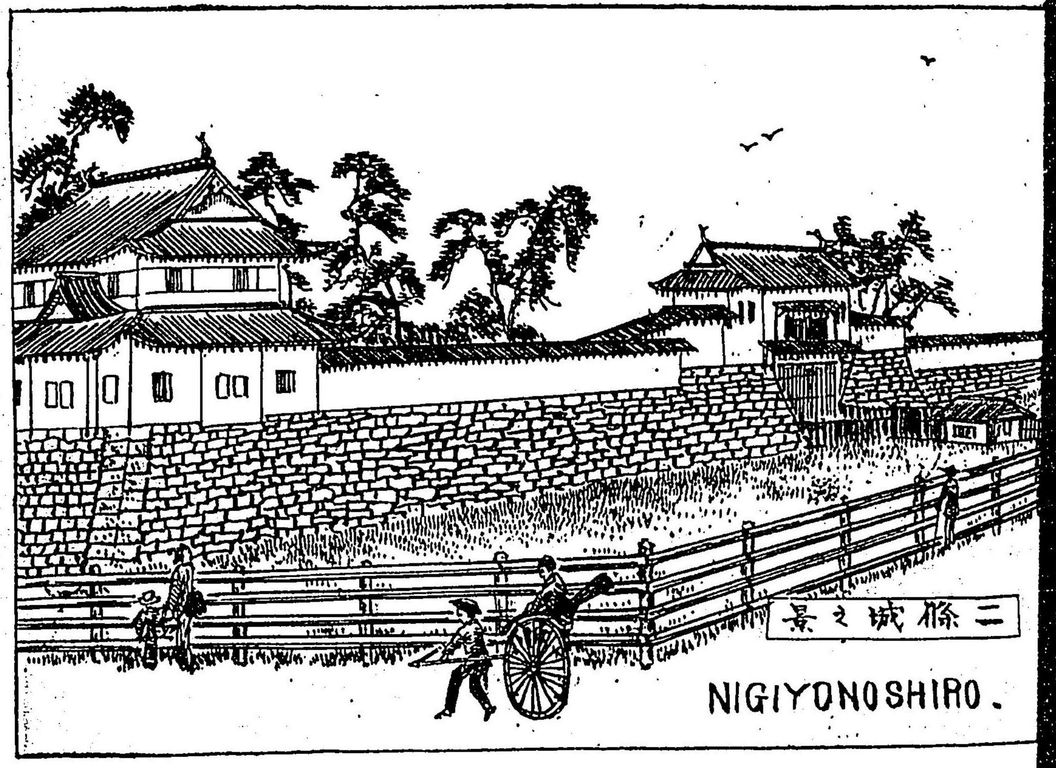
KNKAKUJI.

致派の本寺なり日像上人を開山とす昔は四條櫛笥に在り曆應四年今出川京極の北に移る元立本寺町是なり其後今の地に移る日蓮の像あり胄影といふ初め松永久秀の男右衞門佐久道の臣に佐々木廣次といふ者出陣の時其像を抱き山に入り土中に藏め胄を以て之を覆ふ盜あり之を奪はんとするに重くして磐石の如し大に慄れ廣次に向ふて悔謝し終に日蓮宗に歸し身を全くすといふ

○二條離宮　二條堀川の西に在り舊織田信長永祿十二年始めて築く所なりしが天正十年明智光秀之を燒く慶長七年に至り德川家康之を再造す城代を置きて之を守らしむ維新の際假りに大政官と爲す東遷の後は京都府廳と爲す現今は宮內省の所轄と爲り離宮に充てらる外圍の塀を撤して觀を改むるに至る

○監獄　二條離宮の乾に在り東を既決監とし西を未決監とす

○神泉苑　御池通大宮の西に在り上古封境廣くして二條の南三條の北大宮の西壬生の東敷地八町の間なり桓武天皇延曆十九年八月臨幸以來永く歷世御遊の地となる其間船を浮べて樂を奏し宴を賜ひ詩を賦し



花を觀し雨を祈り鶯は五位を受け鵜は太刀を御む春の左義長夏の御靈會等種々の故事あれども今之を詳記するに遑あらず建保の頃より荒廢し應仁の亂に殆んど絶せんとす元和年中讃岐の僧快雅なる者痛く之を惜み官に請ひて其一部を修補し眞言宗の靈場と爲し東寺に屬し神泉苑護國寺と號す池中に三島あり一は善女龍王を祀り一は二重塔を建て辨財天女を祀る

○郵便電信局　三條通東洞院に在り明治十年に創造し廿三年に至り電信局と合併す

●下京區三條以南

東部

○吉水園　粟田口町に在り亭舍高低敷宇山に倚て相構ふ盤旋して登れば眺望甚だ佳なり高爽清幽にして市街一半指呼の間にあり

○佛光寺廟所　粟田口町に在り門前一對の石燈籠東山の二字を刻せり眞宗佛光寺の所轄にして開山は親鸞の徒眞佛上人なり廟堂華麗にして蒼樹陰森なり

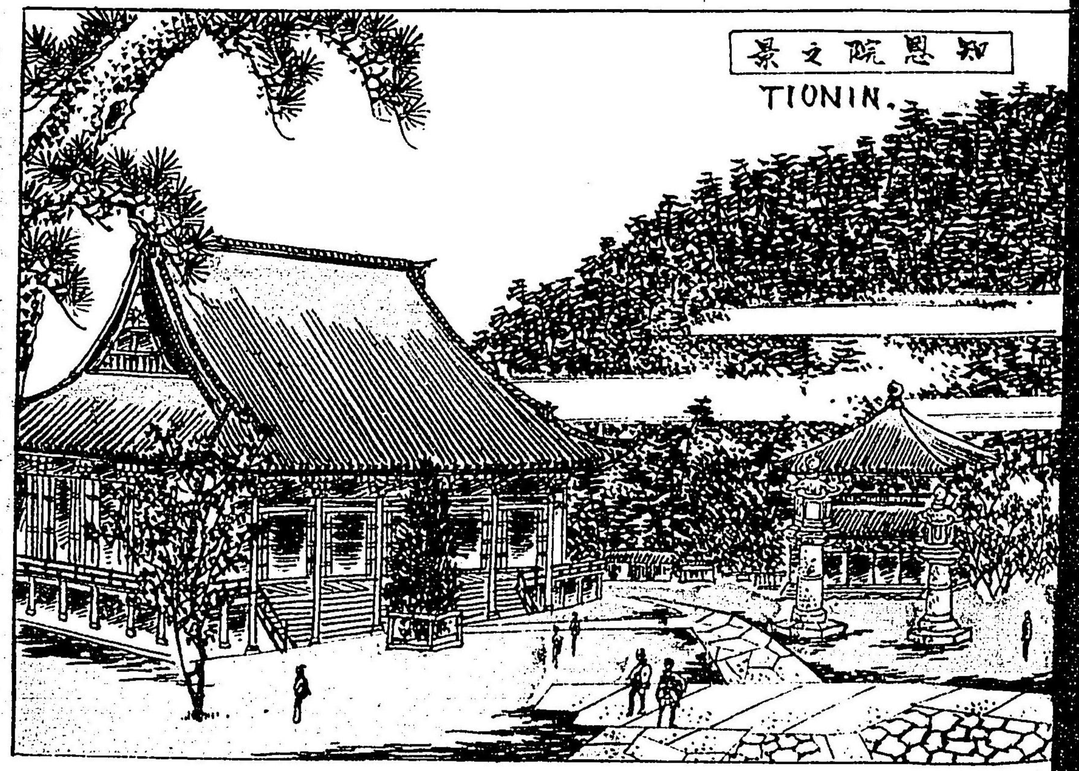
○粟田神社　右同所の西に在り鄕社なり祭神は八王子即ち八坂神社に鎮座する所の五男三女の神に同じ例

祭は陰暦九月十五日なり神輿渡御あり鉾十五本白川の細き橋を渡るに曲持するを例式とす三條大橋より日岡峠に至る間の土産神なり

○植髮御影堂　右同所の西に在り宗旨天台にして親鸞の宗義を兼併し青蓮院に屬す本尊は彌陀の座像にして右壇に親鸞植髮の像を安す像は親鸞九歳にして青蓮院慈鎮和尚の許に就き剃髮せし時和尚其童形を模し翠髮を剃りて其頭に植ゑし者なり長け三尺許の立像にして小葵の直衣に薄紅梅の衣を着し紫の龜甲形の指貫を穿ちて雲綱縁の褥の上に立てり是門徒の渦仰する所衆人の多き所以なり

○青蓮院　植髮堂の南に在り舊粟田宮と稱す天台宗にして傳敎大師を始祖とし行玄大僧正を中興とす覺快法親王以來代々法親王の住職にして山門の座主となる明治一新に至り法親王は廢せられたり歴代の中尊圓親王と申せしは善書の有名なり什寶の中觀るべき者は其墨蹟なり明治廿六年九月殿堂燒失したり又再建に及べり

○花園天皇陵　傳に愛宕郡粟田口村十楽院陵とあり今青蓮院の後の山にあり



○華頂山　粟田山の西青蓮院の後山をいふ華頂山とは唐土の天台山のことをいへる書に天台山最高の所四時花あり故に華頂と名づくといふを取るなりとぞ

○將軍塚　華頂山の峰に在り塚上老松四五株あり桓武帝奠都の時八尺の人形に鐵の甲冑を着させ弓箭を持たせ西向に埋ませ平安城の守護と爲させ給ふ天下變ある時は此塚鳴動すといふ此處に登らんとする路三つあり知恩院よりする者と圓山よりする者と長楽寺よりする者となり

○華頂山大谷寺知恩院　眞葛原の北に在り青蓮院前よりも路あり淨土宗鎮西派の總本寺なり開山は圓光大師源空なり源空は美作の漆時國の子九歳にして叡山に登り源光に就き剃髪し十八歳にし叡空に依る叡空其志を感し是法然道理の聖なりとし因て法然房と號し源光の源と己の叡空の空とを取て源空と名つけたり四十三歳にして餘行を捨て專ら念佛を修す建久二年　後鳥羽帝の逆鱗によつて讃岐に謫せられ承元二年許されて歸り東山大谷に閑居す是即ち此地なり建暦二年正月廿五日年八十にて寂す毎歳の祥忌を御忌と稱することは　後柏原帝の詔に宜しく法然

上人の御忌を修すべしとあり此より始まるなり源空寂せし年三月十四日一女夢見らく源空の廟に參りたれば庭に色々の蓮花あり而して一老僧未開の蓮花一莖を授け且云ふ此地に來る者には皆之を與へん是極樂往生の數に入るべき證なり汝歸らば普く世人に告げよと女合掌して之を受くと夢さめて源空の墓に參るに其地恰かも夢中に見し如くなり此由を世に傳へたれば源空の祥忌に及び墓に參る者雲の如く且云ふ佛恩を謝することを知れりと此に依て始めて知恩院と名づけたりとぞ今元祖廟堂と稱する處は卽ち源空を葬りし地なり

本堂　大谷寺の額は　後奈良天皇の勅筆なり四光大師の像を安す彌陀三尊の像は寛印供奉の作堂後の釋迦の圖は法橋法應の筆善導大師の像は自作なり堂內には佛舍利を安す

阿彌陀堂　彌陀の坐像は春日佛師の作四天王の像は僧義山寄する所天井の畫龍は海北友竹齋の筆

勢至堂　智恩敎院の額は　後柏原天皇の宸筆今掲ぐる者は模寫なり勢至佛を安す

大鐘　寛永年中鑄る所なり高さ一丈八尺徑り九尺厚

さ九寸五分銘六字名號は僧鑒嚴の筆なり

方丈　彌陀立像は安阿彌の作蓮花の畫は野狩尚信の筆拜の間上段の間中段の間共に同人の筆下段西王母の畫は狩野信政の筆鶴の間は狩野尚信の筆梅の間は狩野定信の筆裏上段の間は狩野尚信の筆菊の間は鷺の間共に狩野政信の筆柳の間は法橋定信の筆

山門　華頂山の額は　鑑元天皇の宸筆なり閣内寶冠の釋迦及十六羅漢等を安す

寶物　此寺寶物多し其魁たる者を擧ぐれば　後白河法皇像は嚴然たる帝王の骨相なり小野篁の地藏像は抜群の筆勢なり吳道子の淨土經說相李龍眠の彌陀三尊張思恭の彌陀三尊三幅等は時代筆意顯る者なり錢舜擧の寵牡丹呂紹の花鳥徐熙の荷葉雄子堯の咸陽宮圖二幅仇英の山水人物等は展觀して去り難き者なり陸信忠の十王十幅は希世の物なり勅修圓光大師行狀繪傳四十八卷は　後伏見　後二條二帝の宸筆及ひ親王公卿の詞書あり土佐家數人の畫あり希世の重品なり天平中寫經日記幷に試檢書一卷は姓名明晰にして歷史の小補に供すべし

○一心院　知恩院境内の山上に在り知恩院の末寺にして拾世の本山と稱す開基三蓮社吟應なり本尊彌陀像は安阿彌の作なり什寶の淨土曼荼羅及び釋迦像觀るべき品とす

○圓山公園　近年開設する所にして昔の眞葛原の地なり智恩院山門前より圓山長樂寺の邊祇園林までを眞葛原と云ひしなり

○枝垂櫻　圓山公園に在り千年を經るともいふべき一大櫻樹にして其圍み連抱すべく其高さ三丈餘其枝長く暢びて四方に垂れ花時仰ぎ望めば雪山の峨々たるが如く香雲の簇々たるが如し明治十六年亞國人サフーダン氏觀て曰く此は櫻にあらずカリンの一種なりと或ひと其說を聞傳へ種々試檢するに果してカリン樹にして櫻にはあらずカリン樹は三絃の胴に用うる者にして此樹の代價を見積れば凡五千圓なりといふとぞ

○圓山安養寺　眞葛原の東に在り初め天台宗にして慈鎭之に住す後國阿改めて時宗と爲す本堂彌陀佛は安阿彌の作なり辨財天堂の天女の像は堅く秘して開扉することなしといふ

○吉水の井　辨天堂の傍にある淸泉なり此地を總て吉

水と稱するは是を以ての故なり慈鎮此水を汲み閼伽となしてより青蓮宮法親王灌頂の時は深夜に必ず手づから汲むを例式と爲す

坊舍　元六宇あり現今は左阿彌正阿彌也阿彌端之察の四宇あるを見る亭閣各〳〵山崖に倚て相構へ高爽清潤にして京城萬家を一目に收むべし庭中は石を壓み樹を繞らし清奇幽邃にして最も遊宴に宜しき地なり

○東山長樂寺　圓山の南に在り初め天台宗にして最澄大師の開基なり天文年中國阿中興して時宗と爲す本尊は千手八臂十一面觀音の立像にして長一尺三寸許なり昔最澄唐より歸朝の時海中に龍あり此像を戴きて出て最澄の袖上に飛來る者なり像下の蟠龍は最澄自ら造りて其時の狀を表せし者といふ

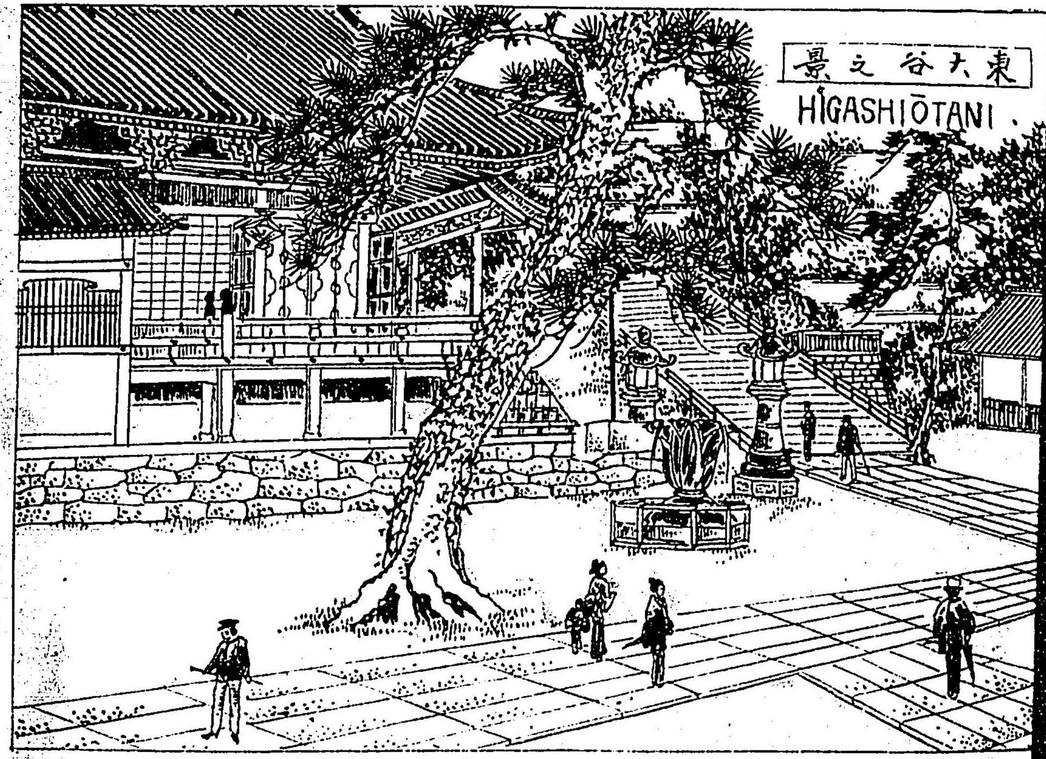
安德天皇の御衣幢幡　當寺の寶物なり文治元年三月廿四日安德帝赤間關に於て御入水の後御母建禮門院歸京の日長樂寺阿證房印誓を請して戒師として落飾し因て帝の御直衣を以て布施と爲し給ふ印誓之を受け裁して十六流の幢幡を製すとぞ

温泉　長樂寺に在り三層樓即ち浴場の在る所にして

温泉は鑛鐵の氣を取て製し人造に係ると雖も其療治の効驗に於ては毫も天然物に異なることなしといふ明治六年化學家の發意にして普く醵金を募り創設する所其浴場の清潔なる樓宇の高壇なる一遊して長樂の名に背かざるを知らん

○賴山陽墓　山陽名は襄字は子成通稱は久太郎なり藝州の人京都に住し儒學を以て世に鳴る豪氣あり諳記に強し平生人に說くに勤王の大義を以てす天保三年九月廿三日沒す年五十三墓は長樂寺後山の半腹に在り明治廿四年十二月正四位を贈らる

○東本願寺廟所　長樂寺の南に在り本堂彌陀の像は片山佛とて東武の片山氏夢に感じて寄附する者なり開山親鸞の廟は山腹に在りて壇上に虎石あり石の形虎に似たれば名とす此石初めは親鸞命終の地柳馬場押小路虎石町に在り豐臣秀吉の時伏見城に移し其後又此に移す親鸞の墓初めは東本願寺の境内北條の北今世にいふ御墓町に在り元祿十四年此地に改葬し廟堂を建てしなり此地は門徒の者我家の墓所と定め白骨を持來りて收むる所にして拜詣の人間斷なし



○東大谷　華頂山より靈山までの間の山手を古は總て大谷といふ東とは後に添へたるならん

○八坂神社　下河原を正面とし西門は祇園町に向へり昔は此邊を愛宕郡八坂郷とす官幣中社なり祭神は三座にして中央は素盞烏尊西間は稲田姫尊東間は八王子或は三女五男とも云ふ卽ち田心姫尊湍津姫尊市杵島姫尊以上三女なり天忍穗耳尊天穗日尊天津彦根尊活津彦根尊熊野樟日尊以上五男なり天平五年吉備大臣唐土より歸朝の時播磨國廣峰に乖跡し給ふを崇め奉れり其後常住寺の圓如上人に神託あり貞觀十一年帝城守護のため此地に遷座す同十八年疫神祟を爲し世人疾に惱ひこと甚し卜部日良麻呂京中の男女を率ゐ六月七日十四日疫神を神泉苑に送る次年又祟を爲す諸民神輿を神泉苑に送る爾來例俗と爲る是を祇園會と云ふ藤原昭宣公基經此神を崇敬し新に社を造り其形紫宸殿を模す毎年陰曆六月七日十四日祭禮の日市中に山鉾の行粧あり京都の美觀は是を以て第一とす現今は六月十五日を官祭とし七月十七日廿四日を私祭とす

○大和大路　俗に繩手といふ三條大橋より南を經て伏

八坂神社之景
GION-YASHIRO.
GION-YASHIRO.

見豐後橋にいたる間の通稱なり此道を經て南の方大和國にいたるを以て斯は名づけたり

○大和橋　大和大路三條と四條との間にあり是白川の流鴨川に入る處にして橋は石もて造れり

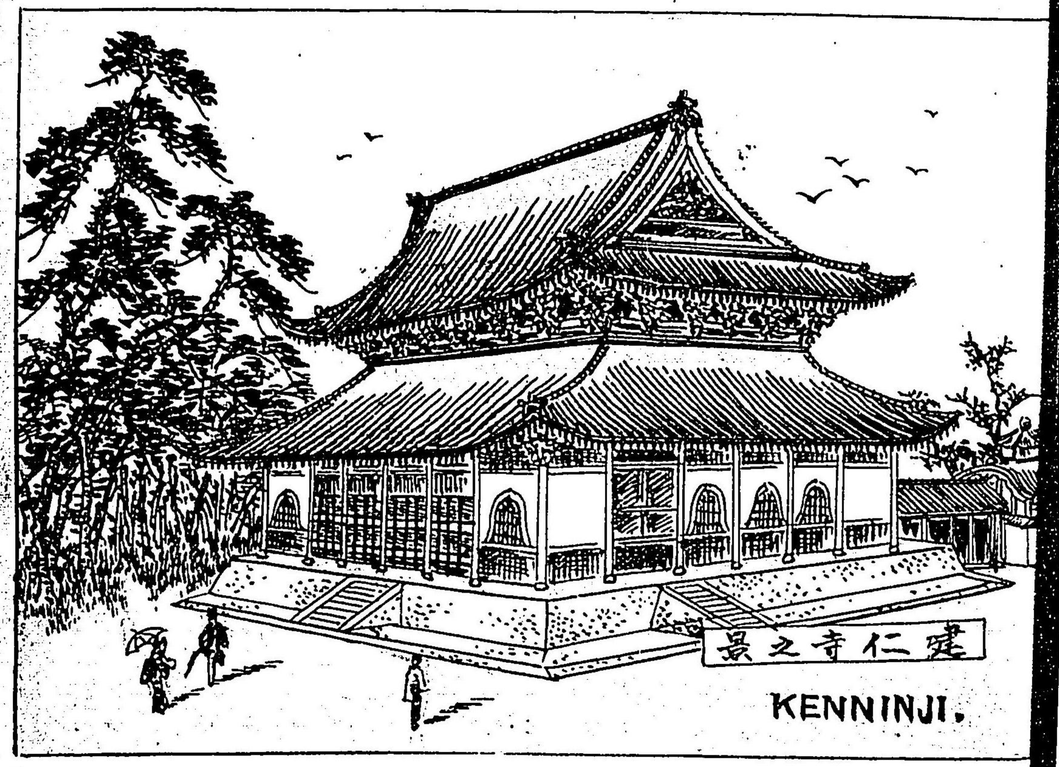
○祇園町　四條通大和大路より東八坂神社樓門の下までをいふ左右に妓樓娼館軒を並べ客を延き絃歌の聲日夜絶ゆざるなり

○祇園新地　末吉町　富永町　元吉町　清本町　橋本町　林下町の六町を內六町と唱へ祇園新地とすいづれも酒樓妓館建塞がり紅粉青蛾の巢窟なり

○一力亭　祇園町の半南側にあり萬春樓と號す座敷庭前頗美觀を盡せり赤穗の義士大石良雄の舊跡にして其名世に高し

○府立驅黴院　祇園町の南花見小路に在り黴毒を驅除する所にして專ら娼婦が治療を受くる所に係る

○祇園館　右同所の南に在り府下第一の演劇場なり構造壯麗殿閣に擬し場屋寬宏萬衆を容るべし因みに云ふ祇園館の西に歌舞練場あり藝妓の歌舞を練習する所にして例年春時都踊を爲す遊客の一覽に備ふるに足れり



○東山建仁寺　大和大路の南に在り門前通を建仁寺町とも云ふ禪宗臨濟派の本寺五山第三なり開山千光國師榮西は備中吉備津の人仁安三年宋に入り虛庵禪師に參し禪法を傳へて歸る建仁三年　土御門天皇の勅願に依て寺を建つ勅願なるを以て建仁寺と號す敢地は則ち征夷將軍源　頼家の寄附する所なり建保三年七月五日寂す年七十五廟塔を興禪護國院と云ふ東の丘に在り宋より携へ歸りし菩提樹は此院に在り今猶繁茂せり佛殿には釋迦如來藥師難を安ず總門は三箇所あり南門を矢立門といふ飛箭の痕あるを以てなり昔平家の一族門脇宰相敎盛の館門なりしとぞ鐘楼に源融大臣の別業河原院の鐘を懸けたり河原院滅びて後其鐘鴨川七條の南の深淵に沈沒せしが榮西國師之を知り官に告げ之を擧ぐるに更に動かず榮西乃ち工夫力者の音頭を唱ふる者に敎へて吾名榮西吾弟子長首座の名を呼ぶべしと是に於て榮西長首座と音頭を唱ふれば衆人聲を齊しくこれを和す鐘聲に從ふて輕々に引上げ此寺に移すことを得たり人之を異とす今世重き物を引くに此名を呼びて運送するは是より始まるなり又鴨川七條の南七町に釜が淵といふ處は此鐘の

沈みし所にして鐘が淵の訛りなりといふ

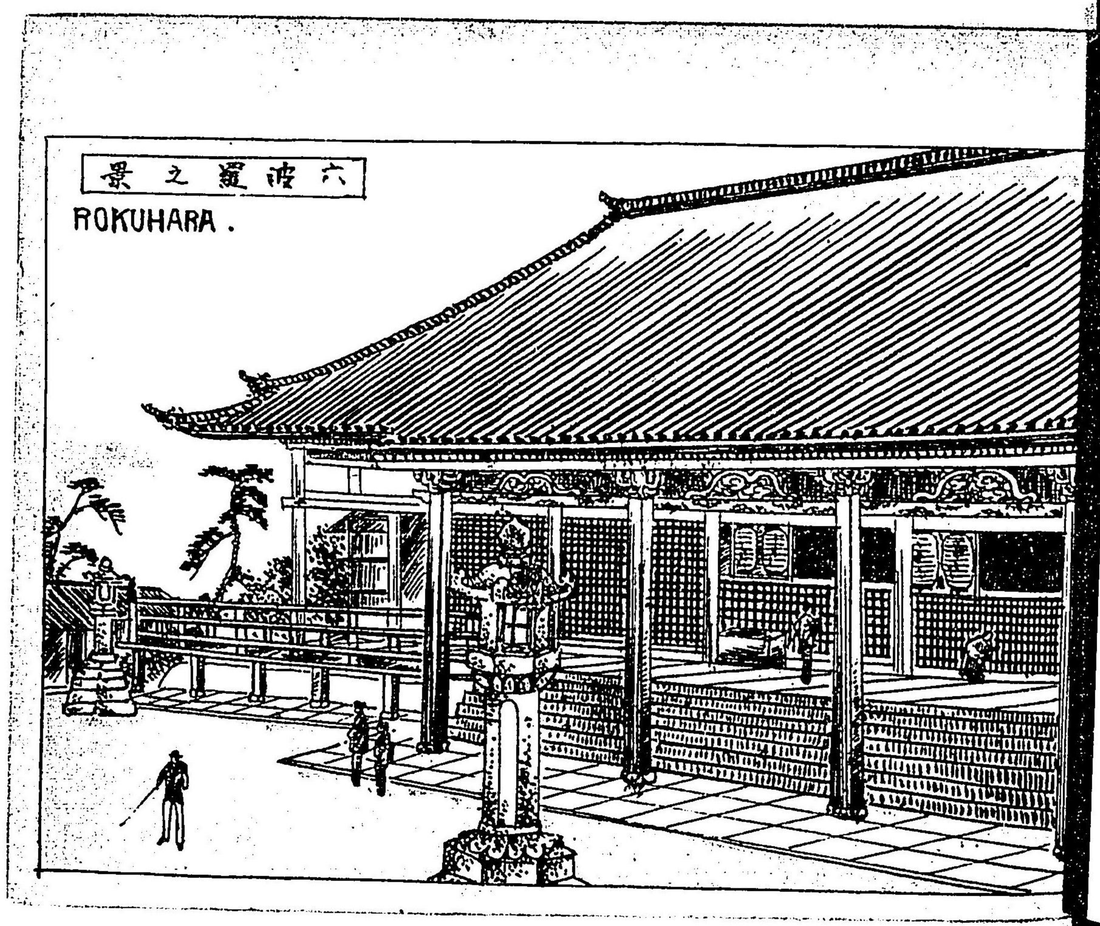
安國寺惠瓊塔　境内の東畔に在り惠瓊長老と稱せし僧なり石田三成に與みせしを以て鴨川原に梟首せらる後其首を收めて此に葬る

○惠比須神社　建仁寺門前に在り鄕社なり祭神は事代主命なり千光國師建仁寺を建る時勸請す今は門前町々の産土神にして社殿頗る壯なり殊に正月十日初蛭子十月廿日蛭子講とて都人群參す

○摩利支天堂　建仁寺塔頭禪居庵に在り摩利支天は佛家の守護神なり此摩利支天の像は當庵の開基唐僧大鑑禪師淸拙唐國より持來る所にして面貌白色なり着色の衣服を襲ひ金色七頭の猪に乘れり應驗特にいちじるしく詣人毎に絶ゝず

○愛宕念佛寺　松原通建仁寺町の東北側に在り天台宗延曆寺に屬す開基は空海にして中興は延曆寺の千觀内供なり本堂に千手觀音の像及び千觀内供の像を安ず上梁牌に文保二年八月十四日重修と記せり二王門の二力士の像は各長七尺あり

○普陀落山六波羅密寺　松原通建仁寺町の東南側に在り眞言宗智積院に屬す開祖は空也上人なり本堂十



一面觀音の像長八尺空也の自作にして西國順禮十七番の札所なり天暦五年京畿疫病流行し斃るゝ者無數上人之を悲み自ら十一面觀音の像を造り之を車に乘せて巡行す是其像なり空也は天祿三年九月十一日寂す年七十地藏佛の像は白河法皇の御作といへり是最初の本尊なり古は六波羅地藏堂といへり藥師佛の像は傳教大師の作なり又厨子の内に平相國清盛の像を安ず長二尺八寸餘自作なりといふ什寶の中に桃源圖絹本青綠山水あり董其昌の筆にして陳書公の題辭あり有名の畫なり昔日寶物開帳ありし時藤村蓮日參觀せりとぞ

○珍皇寺　右同所の北側に在り俗に六道と號す古は愛宕寺と云ふ禪宗建仁寺に屬す本尊藥師佛は傳教の作地藏佛は運慶の作開基は慶俊僧都なり昔延暦遷都の時此地諸人の葬地たり故に六道と稱す其遺風今に存し毎歳七月九日十日此寺に參詣し鐘を撞き盂蘭盆の精靈迎と稱し槇の枝蓮の花等を買ひ家に歸り靈前に手向くること愚民の風俗なり

○閻魔王像　坐像五尺許小野篁の作にして小堂に安す體相端嚴なり

○小野篁像　衣冠束帶の立像八尺許面貌雄偉なり篁は不測の人にして　嵯峨天皇に仕かへ官從三位參議に至る晝は朝班に列し夜は冥府に神遊すと傳ふ承和六年十二月薨す而して此像も一小堂に安ず

○六道迎鐘　精靈迎の時諸人自ら撞く所なり古の鐘のことは古事談今昔物語に見えたり其鐘は亡びて今ある物は寛永中の新造に係る

○安井神社　建仁寺の東裏に在り鄕社なり祭神は中央を　崇德天皇とし北方を讃岐象頭山に坐す金刀比羅宮とし南方を源三位頼政とす此地往古より紫色の藤多くあれば　崇德天皇之を愛し屢々臨幸し終に其傍に宮殿を建て宮妃阿波内侍を居らしめ益々遊幸し給ふ保元の亂に及びて　天皇讃岐に遷り遂に長寛二年八月廿六日崩じ給ふ其後此地に夜々光を放つの異あり則ち尊靈の所爲なることを知り社殿を建て鎭祭し奉るといふ

○下河原　安井神社の東八坂神社の正面をいふ此邊風流の茶店酒樓多し

○金玉山雙林寺　東大谷の西南鴨野町に在り時宗の一派なり初めは天台宗ゝして傳敎大師の開基なり至德

年中國阿上人時宗に改む本尊藥師佛は傳敎の作彌陀釋迦等の像は慈覺大師の作といふ國阿の像は九十二歲の時の自作とぞ亭舍雅潔林泉幽邃にして遊客每に多し圓山と等しく席貸割烹店の業繁盛なり本堂の傍に西行法師平判官康賴頓阿法師三人の石塔あり西行は嘗て此地に閑居し建久九年十二月十六日河內國弘川に於て寂す此に塔あるは其故を知らず康賴は常に此地を愛し山莊を構ふ治承の初め遠島に處せられ赦免の後復此地に閑居し法名を性昭と云ふ寶物集は此處に於て著はしたり頓阿は四條道場金蓮寺の僧なり後此地に閑居す御子左爲世に就て和歌を研究し兼好淨辨慶運の輩と當時の四天王と稱す歌人の模範なり西行庵　西行自作の像及頓阿自作の像あり西行愛玩せし櫻あり西行櫻と稱す

芭蕉堂　芭蕉翁桃青の木像を安ず長八寸許なり門人五老井許六自ら彫刻したる者なり又芭蕉翁碑あり東華坊支考の撰なり

大雅堂舊居　門前北側に在り大雅堂通稱池野秋平名は無名字は貸成霞樵又九霞三岳等の號あり書畫を能し文雅を好む其行狀畸人傳にあり安永五年四月十三日沒す年五十四

○鷲峰山高臺寺　雙林寺の南隣に在り禪宗臨濟派建仁寺に屬す開山名は紹益三江と號す慶長年中豐臣秀吉の夫人淺井氏（北政所と稱す）建立して菩提所とす舊は雲居寺の地なりとぞ佛殿方丈開山堂等頗る壯麗なり開山堂の屋材は北政所の車の天井を用うといふ境內多く胡枝花を植ゆ秋時は觀客雜沓を極む

靈屋　豐太閤及北政所の靈祠なり屋形造りは征韓の時用ゐたる船材なりといふ太閤の像は唐冠なり豐國大明神の額は後陽成天皇の宸筆なり北政所を高臺院殿從一位湖月禪定尼と號す剃髮の像なり

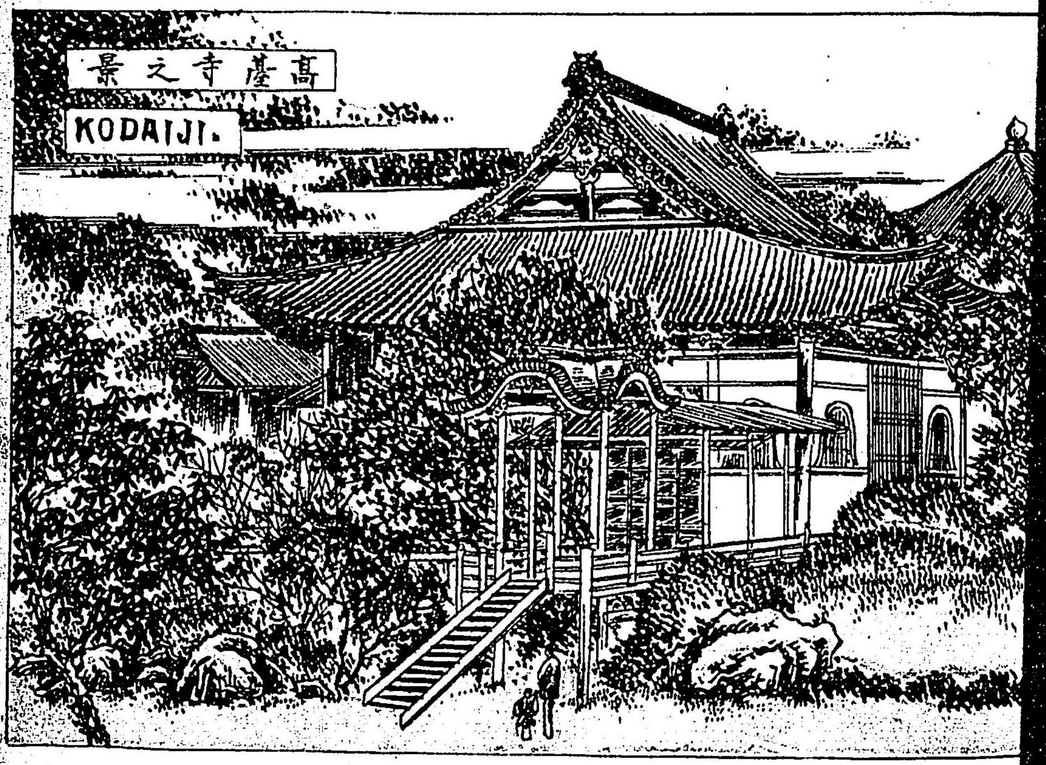
時雨茶屋　傘茶屋　共に山上に在り伏見城より移す者にして小堀遠州千利休等の造る所といふ

高臺院殿墓　山上に在り寛政元年九月六日薨す

木下長嘯子墓　豐臣勝俊靈山に隱居し長嘯子と號し歌を善し茶を嗜む慶安二年六月十五日卒す年八十一

小倉山常住寺に葬る此處の墓は何故なるを知らず

半化房園更墓　碑面は實際庵唯一居士とあり俳道の碩學にして芭蕉堂を建てし人なり寛政十年五月三日沒す年七十三

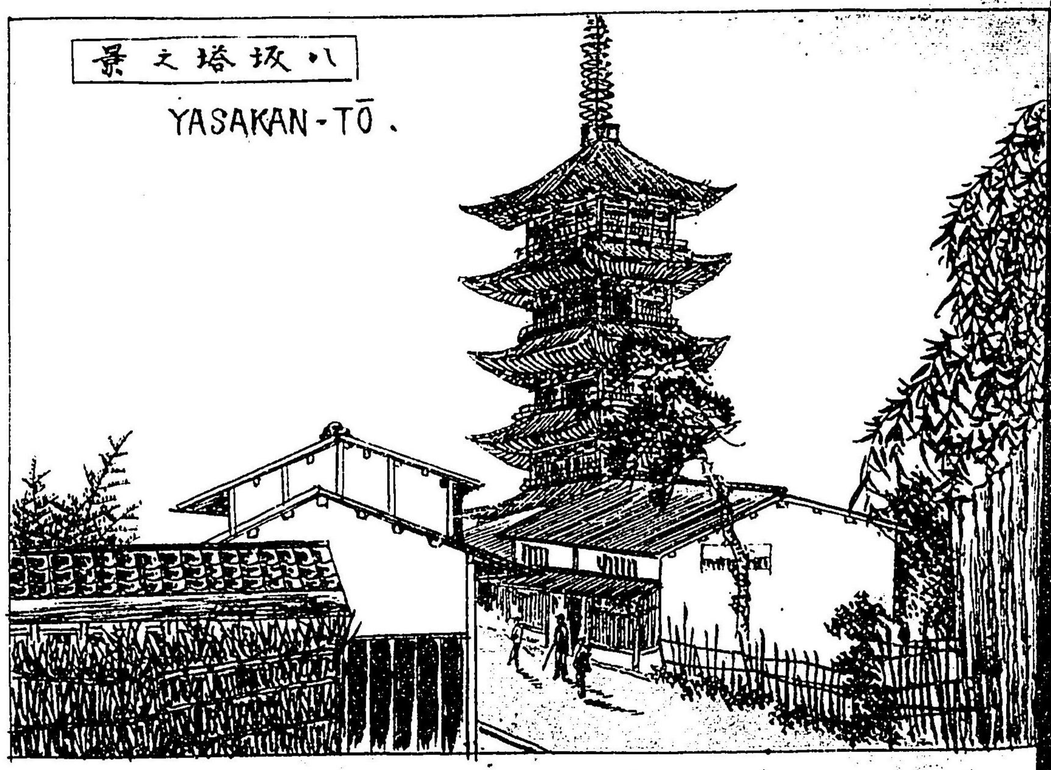


龍野草廬墓　草廬名は公美彦根の人伏見に住す詩文及歌名世に著し寛政四年二月二日沒す年七十二

醉夢庵澄月墓　梅辻春樵墓　貫名海屋墓等今之を記さず

○靈山招魂場　高臺寺の東に在り山腹平澗の處に銅碑を建て南側に祭場あり銅碑は明治十二年六月建つる所にして靈山表忠之碑と題し太政大臣從一位勳一等三條實美撰并書と刻したる文なり山上に殉難義士の墓碣列立せり是は元治元年七月十九日蛤御門境町御門の戰明治元年正月三日鳥羽淀の戰同十年二月西南の役に討死したる人及び勤王正義を唱へて非命に死したる人の尸骸を埋葬したる所なり其數幾百千なるを知らず特に平野國臣等の如きは廟宇を建て碑銘を勒し華表燈籠嚴然として域を異にす木戸孝允の如きに至りては山上高き處を占め巍然として宮中顧問たるを見る

○靈鷲山正法寺　招魂場の東に在り靈山とは靈鷲山の略言にして昔は鷲尾山と云へるなり正法寺は時宗國阿派の本寺なり釋迦堂阿彌陀堂毘沙門堂念佛堂國阿堂あり國阿の坐像長二尺五寸自作なり靈鷲山の額は


八坂塔之景
YASAKAN-TŌ.

空海の筆彌陀の像は恵心の作源空七十二歳の像は自作とぞ抑當寺は傳教の開基にして山門の別院なりしが後國阿中興して時宗に改む國阿姓は箸崎名は國明播州橋崎莊の領主なり足利義滿に仕ふ文和四年四十二歳にして致仕し相州藤澤遊行寺に於て僧と爲り國阿彌陀佛と號す應永十二年九月某日寂す

○八坂　北は眞葛原南は清水坂までの總名なり其中に八つの坂あり祇園坂長楽寺坂下河原坂法觀寺坂甕山坂山井坂清水坂三年坂等なり

○甕應山法觀寺　八坂寺とも云ふ高臺寺の東南に在り崇峻天皇御宇豐聰太子五重の大塔を建て塔下に佛舍利三粒を埋む則ち此地なり是れ吾國最初の塔なり天曆二年其塔傾きて斜めならんとす時に淨藏貴所といへる修驗者此地に住せり持呪の力を以て一夜の間に之をして端直ならしめたり其後燒失數回正元年中荒廢に歸したりしを建仁寺の濟翁救禪師之を中興す眞言宗を改めて禪宗と爲し建仁寺に屬す現今の塔は永享十二年建立せし者なり

○庚申堂　法觀寺の西にあり大黑山金剛寺延命院と號す眞言宗なり本尊青面金剛の像は長三尺五寸大寶元

年正月七日庚申の日に空より降臨すといふ日本三庚申の一にして大阪天王寺江戸淺草寺と共に其一なりとぞ

○一心庵　三年坂の北東側に在り日蓮宗本法寺に屬す本尊釋迦佛は行基の作鬼子母神の像は惠心の作又日蓮上人自筆の曼荼羅あり竹筒の曼荼羅と稱す

○清水坂陶器店　坂路左右軒を並べて陶器を販ぐ精良の物品を出す京都名産の魁なり

○泰産寺　清水寺門前に在り子安塔と名づく清水寺の所轄なり傳へ云ふ天平年間光明皇后懐姙の時安産を祈り給ひしに一夜觀音を夢み覺めて後枕上に見給へば一寸八分の觀音の像あり遂に平産せられて皇女を分娩し給ふ後に之を　孝謙天皇と稱し奉ると一説に阪上田村麻呂の女春子　嵯峨天皇の女御となり懐姙の時其安産を祈る爲めに之を建つといへり

○音羽山清水寺　清水坂の東端に在り法相眞言二宗兼學にして奈良興福寺に屬す西國巡禮第十六番の札所なり開山は延鎮僧都樞那は阪上田村麻呂にして延暦二年の建立なり本尊十一面千手觀音の立像長八尺化人の作と云ふ左右の地藏と毘沙門との像は延鎮の作

なり本堂は檜皮葺にして紫宸殿形なり軒の周りに掲ぐる扁額繪馬有名の者多し當寺の緣起を聞くに昔延鎭寶龜九年の夏木津州を過り白衣の翁草庵の中に坐するを見る延鎭其常人に非ざるを知り就て之を問ふ翁云く我は行叡居士なり汝が來るを待つこと二百歲に及ぶ我靈木あり此を以て觀音の像を造らんと欲す我暫く東行せんと欲す歸り來ること遲からば我に代りて之を造れよといへり延鎭其言に從ひ此に住す一日山科の東の嶺上に於て彼翁の履を拾へり是に於て翁は化人なることを知れり延曆二年阪上田村麻呂奈良より木津川に沿ふて山に入り獵す亦延鎭が草庵の內に坐するを見て就て之を問ふ延鎭其志を告ぐ田村麻呂喜びて之を勸む其夜延鎭夢むらく十一人の僧來り靈木を以て觀音の像を造り其事終りて去ると夢覺めて目を擧れば十一面の像前に在り延曆十三年帝都山城に遷るに及び田村麻呂も從ひて移住す延鎭に近づかんと欲して愛宕郡八阪鄕の山に住す今の田村堂其地なり因て其像を我宅中に安ず延曆廿年田村麻呂東夷征伐の時觀音地藏毘沙門戰場に現じて賊を退治するを見る此より勝軍地藏勝敵毘沙門の名あり後

桓武天皇御惱あり延鎮に命じて加持せしむ忽ち平愈し給ふ因て延鎮を十禪師に任せしめ給ふ延暦廿四年田村麻呂大政官符宣を賜ひ堂塔を建立せしむ大同二年紫宸殿を賜ひて佛堂と爲す今清水寺是なり

奥の院　此地は延鎮法師草庵の跡なり本尊は千手觀音の立像なり

田村堂　古昔の本堂なり田村麻呂の像及び行叡居士延鎮の像を安す

阿彌院堂　瀧山寺と號す法然上人不斷常行念佛を開闢せし處

朝倉堂　越前國司朝倉貞景建立して觀音の像を安ず

經堂　釋迦文殊普賢及西國三十三所の觀音の像を安ず

三重塔　には大日の像を安し隨求堂には隨求菩薩の像を安じ釋迦堂には釋迦の像を安す成就院には忍向と信海との碑あり二師は維新の際勅王の忠烈を立てし人なり忍向は月照上人の字なり

○地主神社　清水寺の後に在り鄉社なり祭神は大巳貫命外に四柱鎮座なり創立の年月詳ならず延暦十七年田村麻呂造營天祿元年　圓融天皇行幸あり清水坂八坂鄉の產土神にして例祭は五月八日神輿祭式嚴重なり拜殿の天井蟠龍の畫は狩野元信の筆

○音羽瀧　奥の院の下に在り瀧口三條に分れ西に向ふて落つ四時增減なし

○清閑寺町　音羽瀧の下より清閑寺までの間をいふ

○六條天皇陵　傳に愛宕郡清閑寺陵といへり

○高倉天皇陵　前と同じ

○歌中山清閑寺　眞言宗因幡堂に屬す延暦廿一年紹繼法師草創長保二年佐伯公行朝臣再興して勅願寺とす本尊千手觀音は菅神の作とぞ歌中山といふは寺說に昔清閑寺の眞燕僧都といふ人住みける或夕暮門外に彳みて行かふ人を見居たる折節髮形めでたき女の只獨行くを見て忽ち愛心起りければ物言掛くべき便なくて清水への道は何れぞと問ひければ女見るにだに述ふ心のはかなくて誠の道をいかで知るべきといひ捨て頓て姿を見失ひける女は化人にて侍るにや其歌詠む處を歌中山といふ

小督墓　小督局は高倉帝の寵姬にして櫻町中納言の女なり此寺に隱棲せり

○澁谷街道　右同所の南に在り下京より山科へ往還の

道なり

○澁谷火葬場　街道より北東へ入てむてと二町餘の所にあり眞宗兩本山より設置せし者なり

○小松谷正林寺　馬町の東に在り淨土宗知恩院に屬す開基は惠空上人往昔月輪兼實公殿舍を賜ふ因て以て本堂と爲して猶小松殿と稱す源空も亦此堂に居してとあり阿彌陀堂開山堂方丈等備はれり此處より西人家の北に谷あり是を小松谷といふ小松内大臣重盛公の山莊にして燈籠堂の地なり

○三島神社　馬町の北側に在り鄕社なり祭神は伊豆國三島神社を勸請したる者にて即ち事代主神なり例祭は陰曆九月十六日なり

○佐藤嗣信忠信塔　馬町の北側民家の後に二基の石塔あり世の人傳へて源義經の忠臣佐藤嗣信忠信兄弟の墓と云ふ一基は無銘にして一基には銘あり永仁三年二月二十日願主法西の十三字を刻せり史を按ずるに嗣信が義經に代りて死せしは屋島に於てなり其時鎌田光政も義經に代りて死せり其に高松に葬る其時は文治元年二月なり忠信が義經に代りて死せしは吉野に於てなり其時は文治五年七月なり一は高松に於てし一は吉野に於てす年の相距ること五年而して又文治元年より永仁三年に至るまで相距ること百十一年なり然るに此地に其塔あるは其故を知らず

○牢の谷　西大谷の南の谷をいふ

○西大谷本願寺廟所　五條坂の東端に在り眞宗開祖見眞大師親鸞の廟所なり此廟初めは知恩院境内に在りしを慶長八年此地に移し猶舊號を取て西大谷と稱するなりそは親鸞の傳記に東山の西の麓鳥部野の南延仁寺に葬るとあるに據る者なり親鸞の荼毘所は廟所より一町北東に當り松杉茂りたる處に在り此地又龍谷山といふ本堂廟堂拜堂寢殿等悉く壯麗なり門徒の者白骨を持來り收むる所なり門前の蓮池は架するに眼鏡橋を以てす松樹櫻楓之を繞り四時の風景佳絶なり

○鳥部山　西大谷より清水坂までを鳥部山とも鳥部野ともいふ路傍に墳墓累々として古來よりの埋葬地たり

○後京極攝政良經碑　鳥部山要法寺に在り良經は左大臣藤原兼實公の子道家公の父なり碑文は赤水藤原岳尙の撰なり

○通妙寺　同所に在り日蓮宗妙傳寺に屬す開基日總上人寛永年中草創なり妙見堂あり諸人參詣香火絶ゆることなし

淺見綱齋墓　綱齋名は安正通稱重次郎山崎闇齋の門人孝を以て聞う正德元年十月朔日沒す年六十

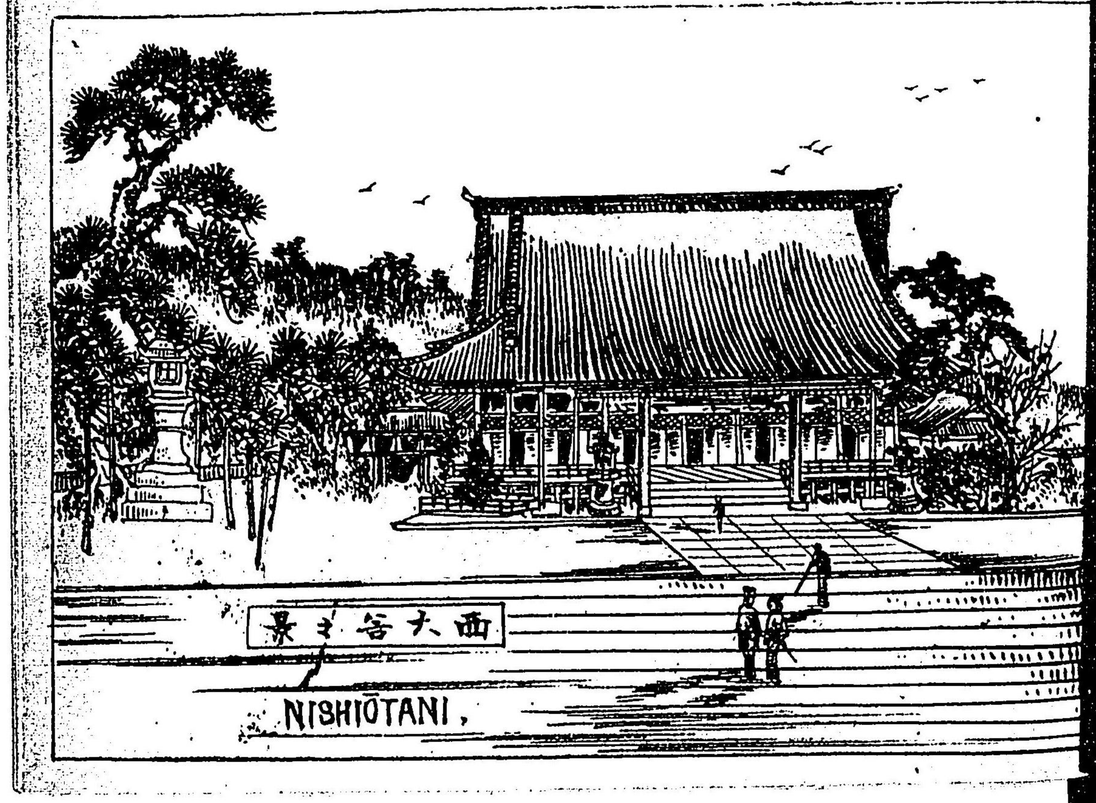
石田勘平基　勘平名は興梅岩と號す性理の學を修め世俗を教諭すること懇切なり心學道話の風盛に行はる延享元年九月廿四日沒す年六十

手島堵庵基　堵庵名は喬房字は應元通稱嘉右衛門石田梅岩に從て學ぶ節儉仁愛能く人を導く天明六年二月九日沒す年六十九

柴田鳩翁墓　鳩翁名は亨字は陽方通稱謙藏薩埵德軒に從て石田氏の學を受く諸國に遊歷して心學道話を爲す天保十年五月三日沒す年五十七鳥部山に諸名家の墓猶多くあり

○本壽寺　鳥部山に在り日蓮宗本法寺に屬す本堂廚堂開山塔あり開山日親は世に鍋被日親と稱す墓此地に在り本法寺の傍下に見えたり

○延年寺辻子　清水坂より西大谷に至る細道なり延年は延仁の訛り來れるなりといふ



○安祥院　延年寺辻子の北側に在り世に日切地藏と云ふ天台眞言禪淨土を兼學し知恩院に屬す開山木食養和上人享保年中建立本尊彌陀の立像長五尺七寸惠心の作地藏佛は靈驗著く名高し養和上人は駿州の人村上氏なり嶮路を夷らげ橋梁を架する等生涯の勳功甚だ多き人なり

○五條坂陶器店　五條坂兩側の人家陶器を賣る者多し京都の名産其賞譽外國に及ぶ

○若宮八幡宮　五條橋より東五町に在り祭神は男山神社に同し天喜元年伊據守源頼義勸請する所なり初めは左女牛通に在り天正年中此地に移す今の本社は承應三年後水尾天皇の勅を奉して造營する者なり例祭は陰曆八月十五日なり

○妙法院　馬町の南側に在り天台宗開基は延曆寺惠亮僧正なり爾後代々法親王住職山門座主法務たり一新後は其事能みたり寶物の内に王摩詰が筆の浪岸圖墨畫あり岩佐又平が筆の踊圖の六枚折屏風あり西行が筆の内裏歌合一卷あり豐太閤の鏡あり背面に整ニ衣冠一尊ニ瞻視一の六字あり皆奇品なり

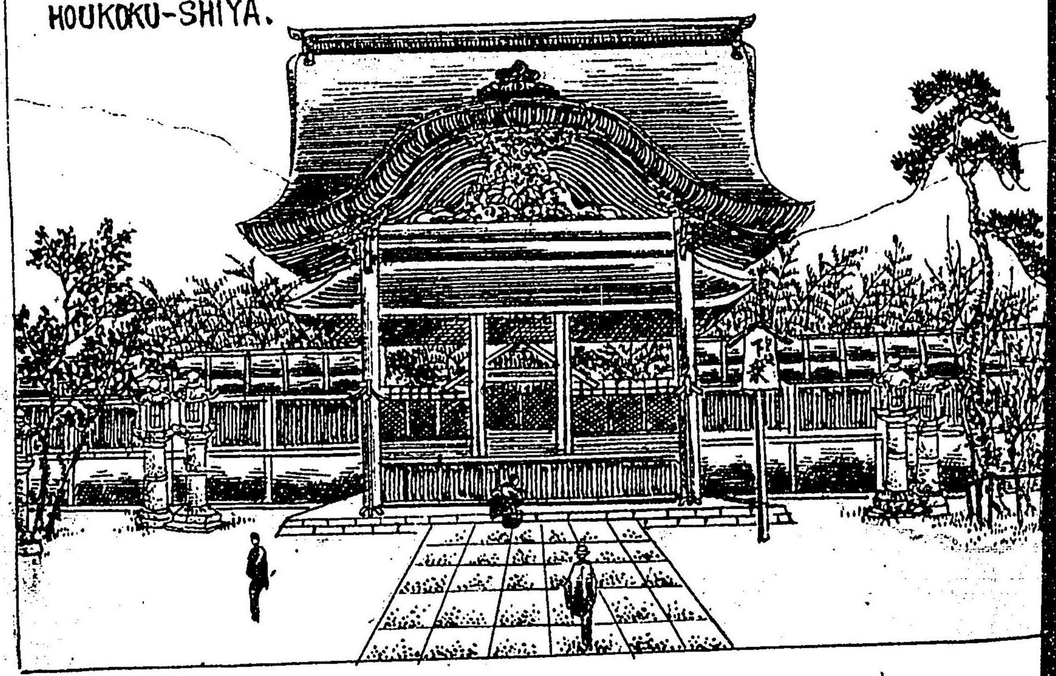
○新日吉神社　妙法院の南に在り府社なり祭神は大山

昨神にして近江國日吉神社より勸請する所なり永曆元年　後白河天皇移させ給ふ舊地は今の地より二町許南今汰石といふ處にあり應仁亂後此地に移す例祭陰曆五月十四日神輿鉾あり

○豐國山　元阿彌陀峰といふ豐太閤の遺骸を葬る地なり山上最高の處に華表を建て祠宇を築き高爽森嚴なり

○豐國神社　建仁寺町通　大佛正面に在り祭神は前關白太政大臣從一位豐臣秀吉公なり世に豐太閤とも云ふは是なり明治十年建營する所なり此地は大佛殿の舊址なり表門は背伏見桃山城に在りしを白川昭高院に移す此社新築の時又此に移す實に豐太閤の舊物なり社殿拜殿幽奥鮮麗なり官祭は九月十八日

○大佛殿方廣寺　豐國神社の北に隣る天台宗延曆寺に屬す大佛殿の舊地の北邊に偏在せり今の大佛は天保十四年の頃名古屋の有志者寄附する所にして半像なり往古の盧舍那佛の大像は長六丈三尺堂は東西廿七間南北四十五間天正十四年豐太閤草創慶長七年同線同十五年秀頼公金銅を以て鑄造す寛文二年地震破裂す因て木像に改造す百廿餘年を經て寛政十年七月



大佛之景
DAIBUTU.

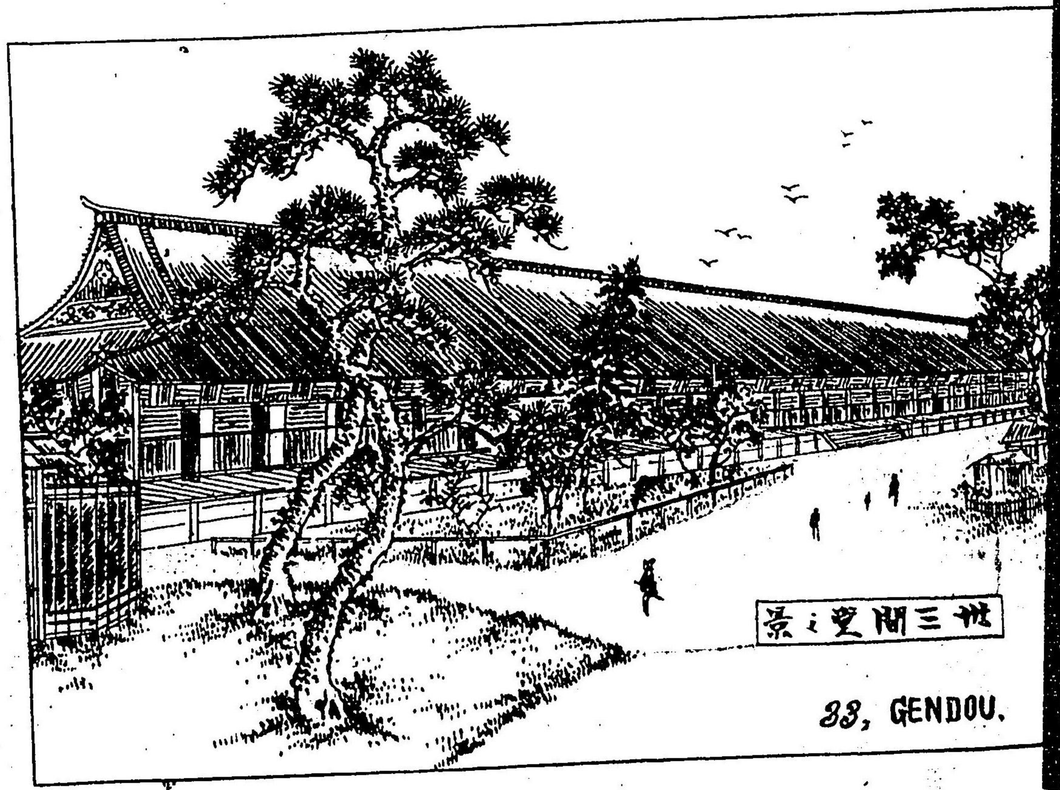
雷火に燒亡し唯門前に壘み築きたる巨石は依然として舊態を存せり

大鐘　豐臣秀賴慶長十五年大像を鑄る時此鐘をも鑄造す高さ一丈四尺重さ十萬六千二百五十斤と云ふ此鐘の銘は東福寺の僧清韓の撰する所にして國家安康の句あり德川家康之を瀆みて己を呪詛する者と爲し大に怒り兵を發するに至りしことは世人の知る所なり其後此鐘久く地上に放置して撞くことなかりし近年新に堂を建てゝ之を懸け諸人をして縱まゝに撞き鳴さしむ鐘もまた時節を得たりといふべし

○耳塚　正面通の南側に在り豐太閤征韓の時敵首を獲ること數萬にして悉く携へ歸ること能はざるを以て或は之を減にし或は之を劓にし或は之を鹽漬にして送り來る者を此に埋葬し塚を築きたるなり

○帝國京都博物館　明治廿七年宮內省より建築せらる舊大佛殿の封內なり

○蓮華王院三十三間堂　博物館の南に在り天台宗延曆寺に屬す初め長承元年　鳥羽天皇此地に三十三間堂を造營して得長壽院と名づけ千體の觀音を安じ給ひけり其後長寬元年　後白河上皇又三十三間



堂を建て千體の觀音を安し蓮華王院と名づけ給ふ寶治二年兩院倶に回祿に罹る後十八年を經て文永三年再興し兩院を併せて一院と爲し獨り蓮華王院の名を存するのみ今の堂は其時の物にして南北六十六間二間毎に一柱を立てたるを以て之を三十三間と稱するなり本尊千手觀音坐像長八尺は康慶の作壇上に安する二十八部衆の像長四尺は行慶康慶康永三人の合作に係る千體の千手觀音立像各々長五尺は其内陣に列れり千體の内三百體は康慶康永の作二百體は運慶の作に係ると云ふ本尊を併せて之を一千一體の觀音と稱す然り而して賞鑒家の曰く二十八部衆の彫刻に於ける皆佳作なり雷神及婆藪仙人の如きに至つては最も絶妙なりと

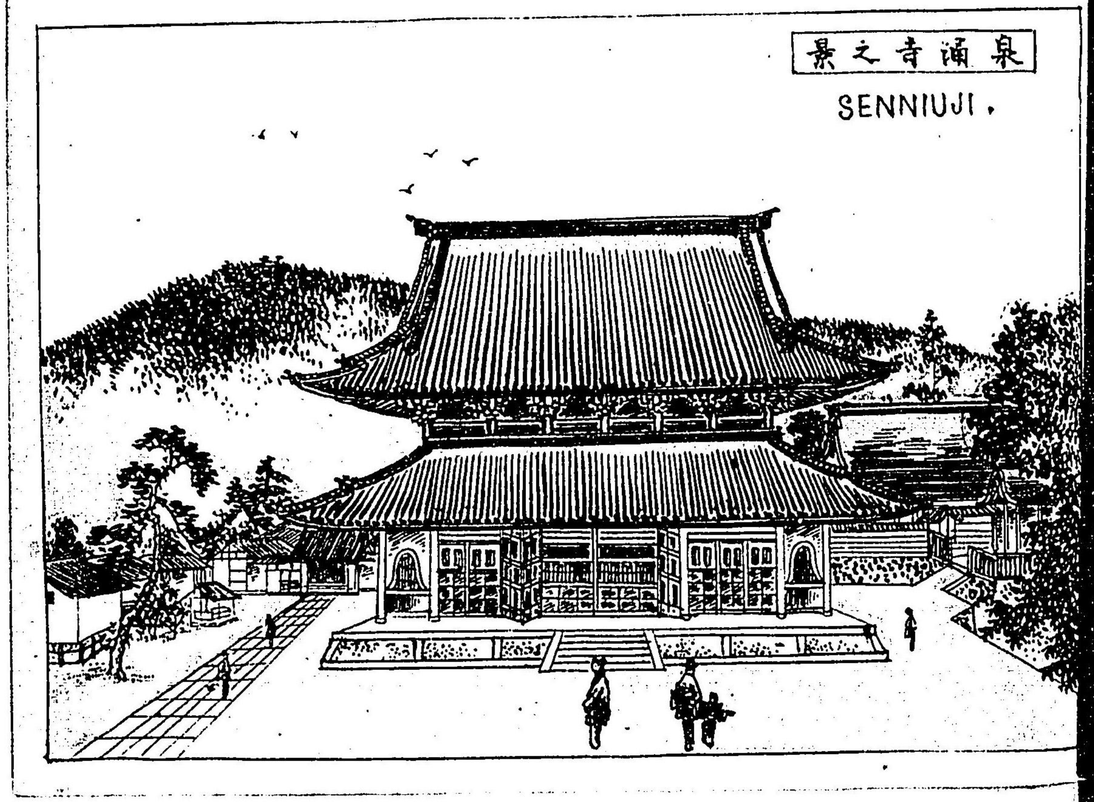
矢數　三十三間堂の背後の絶側に於て射術を試むる之を矢數と云ふ其濫觴は昔新熊野觀音寺の僧梅坊なる者射術を好み八坂背塚の的場に通ふ時此堂に憩ひ之を試みしより始まるといふ爾來天下射術の士競ふて此堂に來り弓を試みる者續々斷たず其姓名幷に通矢の數等を記し扁榜と爲し之を堂外承塵の間に掲げたり一新以來は射術衰廢に及ぶと雖も昔日の景況を

見るべきなり

○東山智積院　新日吉神社の南に在り眞言宗新義派の本寺なり開山は正憲僧正なり豐太閤嘗て北政所が生む所の棄君夭死するを哀み追薦の爲め祥雲寺を此地に立つ其後紀州根來寺は豐太閤の爲めに滅され覺鑁の一派は斷絶す其徒之を歎き德川氏幕府を領するに當り之を幕府に訴ふ因て祥雲寺を改め智積院と爲し一派の斷絶を再興せしむ是れ慶長年間の事なり本尊不動明王の坐像は興敎大師の作高祖堂に空海の像を安し開山堂には興敎の像を安す其他方丈　勸學院學寮等備れり

○東山養源院　三十三間堂の東に在り天台宗なり開基長伯法印は淺井長政の　弟なり文祿三年豐太閤の夫人浅君草創して其父贈從三位中納言淺井長政のために冥福を修す其後燒失せり是に於て浅君の　妹　德川秀忠の夫人崇源院贈從一位和興尼再興す和興尼は德川家光及び東福門院の母なり本尊弥陀の像は惠心の作元三大師の座像は畫影にして惠心の筆なり其他大日堂歡喜天堂あり

○後白河天皇陵　傳に宕宕郡三十三間堂前に在りと



いへり

○汰石越　古は瓦坂といふ大佛瓦町より智積院を過て山科に赴く路なり

○東本願寺中學寮　大佛池田町東側に在り明治廿七年建立

○今熊野町　新瓦町より東の方泉涌寺に至る間をいふ

○新熊野神社　今熊野町に在り祭神は紀州熊野三山に同じ應保元年十月後白河上皇紀州熊野三山より砂石を移させ勸請し給ふ

○劔神社　右同所の東南に在り祭神は白山比咩神なり

○後堀河天皇陵　傳に愛宕郡今熊野村觀音寺に在りといへり

○今熊野觀音寺　泉涌寺の乾に在り泉涌寺に屬す西國巡禮第十五番の札所なり本尊十一面觀音の立像長二尺許は空海の作左脇の不動の像は智證の作右脇の毘沙門天の像は運慶の作草創の本願は山本左大臣なり

○東山泉涌寺　伏見街道一の橋の東に在り天台眞言禪律の四宗を兼學す開山俊芿法師我禪と號す肥後の

人天台池邊寺の珍曉に就さて落髮し太宰府の觀音寺に於て具足戒を受け三十三歳律宗を傳んため宋國に入り四十六歳嘉定四年歸朝す建保六年和州刺史中原信房崇敬し領地を施す此寺は初め空海の開基其後左大臣緒嗣公再建天台宗と爲し仙遊寺と號せしが改めて泉涌寺と爲す地に清泉涌出するを以てなり貞應年中官符を賜はり勅願寺と爲る嘉祿三年閏三月八日寂す年六十二　後小松天皇勅して大興正法國師と諡し給ふ享保年中　中御門天皇より大圓覺心照國師と增號し給ふ

佛殿　釋迦彌勒彌陀の三尊を安す運慶の作左に梵天帝釋の像を安し右に開山靈芝南山の三祖像を安す

舍利殿　佛牙舍利を安す二重金塔の內に在り唐の道宣律師が佛滅後千六百年を經て韋馱天より授かりし者なり道宣之を白蓮寺に秘し置く俊芿の徒湛海法師宋に入り白蓮寺に詣り之を拜し竊かに之を求めんと請ふに許されず後良材を舶に載せて再び宋に往き白蓮寺の堂宇を經營す因て舍利を請求す寺僧遂に其の志に感じ之を付屬す湛海之を受て歸り此に之を安す

靈明殿　歴朝の　天皇后妃の御靈牌を奉安する處なり

観音堂　唐の玄宗皇帝楊貴妃の容貌を寫し自ら彫刻し追薦の爲めにせし者因て楊貴妃の観音と稱す六角の龕内に安ず湛海法師宋より得來りし者なり

戒光寺　本尊釋迦佛の立像長一丈六尺あり頭面は曇照禪師宋より將來し其餘は運慶の刻する所なり曇照は此寺の開基にして建保二年宋に入り中峰鐵翁二師に具足戒を受け理宗皇帝に謁して奏對旨にかなふ理宗大に悅び忍律法師の號を賜ふ安貞元年歸朝正元六年二月廿二日寂す年七十三

大涅槃像　竪五丈幅二丈人物鳥獸樹木眞物の大さあり沙門古磵の筆なり東福寺の像より猶大なり世間之に及ぶ物なかるべし世の人東福寺の大涅槃像を知りて泉涌寺あることを知らざる者多し又什寶の中韋駄天の像一幅あり六百年以上の日本畫なり精緻遒勁にして威嚴驚く可き者とす

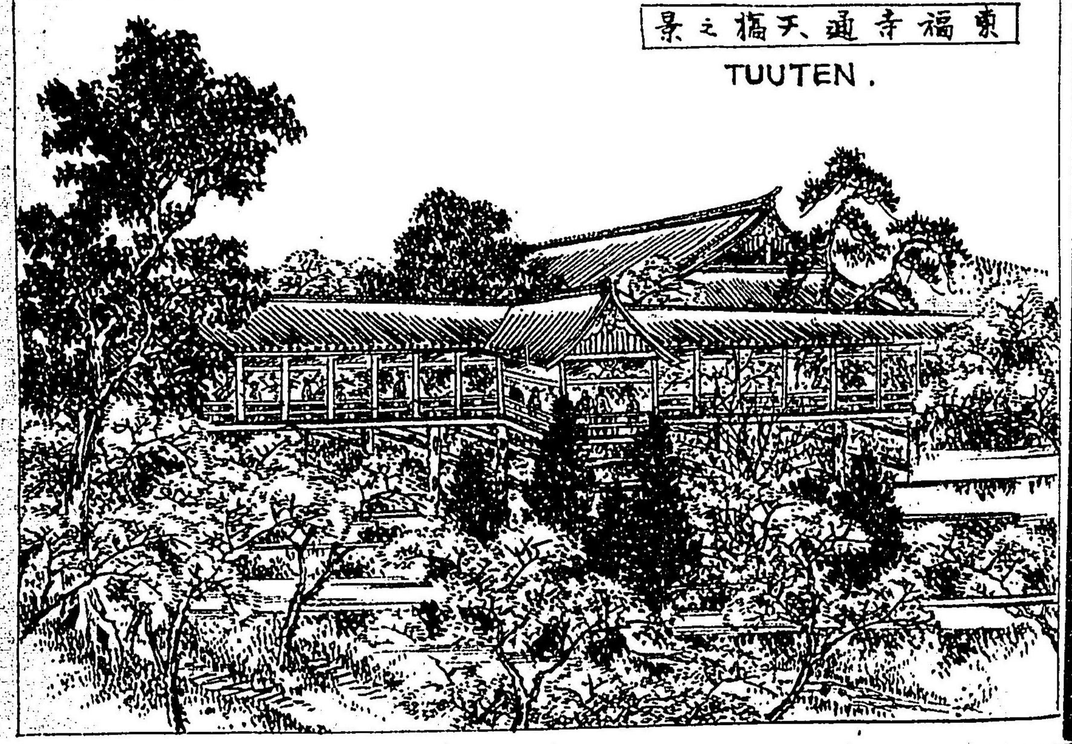
○四條天皇陵　傳に月輪山莊我禪坊に在りといへり月輪山莊は九條兼實公の山莊なるべし泉涌寺東福寺の後山を月輪といふなり我禪坊は俊芿の號にて泉涌寺なり　四條天皇を始めとして　後水尾天皇以後歴朝の帝陵泉涌寺の後山に在り

後水尾天皇陵
明正天皇陵
後光明天皇陵
後西院天皇陵
靈元天皇陵
東山天皇陵
中御門天皇陵
櫻町天皇陵
桃園天皇陵
後櫻町天皇陵
後桃園天皇陵
光格天皇陵
仁孝天皇陵
孝明天皇陵

皇後皇妃皇子皇女親王内親王等の御墓あり之を記さず

○夢浮橋　大和大路の東泉涌寺前にあり

○伏見街道　此街道は豐太閤伏見城に在せし時新に開



く所なり古道は一町東に在り

○瀧尾神社　伏見街道第一橋の南詰に在り藤森神社に屬す祭神詳ならず俗に大丸稻荷と稱す例祭は陰曆六月廿二日

○恵日山東福寺　右同所の南一町に在り總門三所あり皆伏見街道に臨めり禪宗臨濟派の本寺にして五山第四なり開山聖一國師名は辨圓號は圓爾駿河の人なり十八歳三井寺に於て落髪し東大寺の戒壇に登りて受戒し野州長樂寺榮朝に隨ひて禪を學び嘉禎元年宋に入り徑山寺無準を師とし六年を經て仁治二年歸朝關白九條道家公東福寺を建て之に住せしむ弘安三年十月十六日寂す年七十九當寺の號は奈良東大興福の兩號を合せたるなり當寺は有名の大伽藍にして創建以來回祿に罹りしこと無かりしに明治年間に至り佛殿法堂方丈庫裡選佛場等一夜に燒失せり今存する者は山門開山塔通天橋及子院のみ

山門　妙雲閣の額は足利義持の筆閣上に釋迦及十六羅漢等の像を安ず

開山塔　聖一國師の影堂なり前に樓閣あり傳衣閣と號す

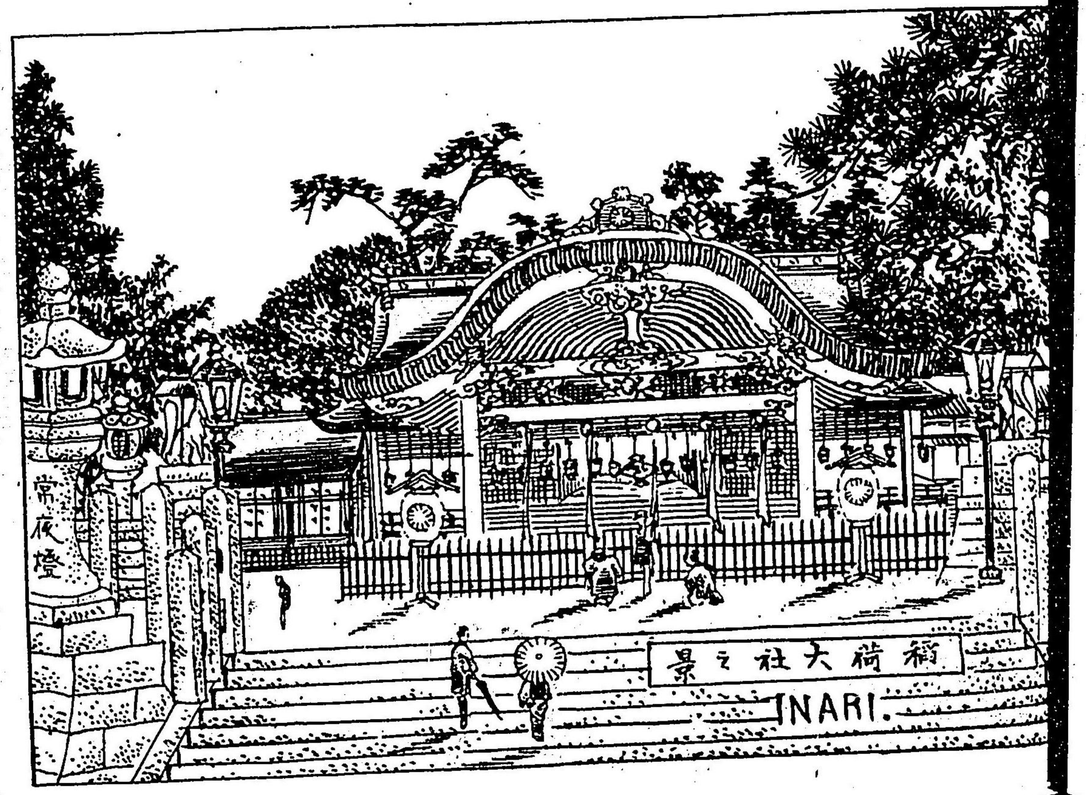
通天橋　洗玉澗に架する者にして開山塔より法堂へ通ふ廊下なり通天の額は普明國師春屋の筆なり此邊紅葉の勝地にして都人遊賞する所なり此他偃月橋臥雲橋あり

大涅槃像　竪三丈九尺横二丈六尺兆殿司の筆にして人口に膾炙する所なり此外兆殿司の畫きし物多し五百羅漢の像五十幅佛祖の像七十幅あり鑒識家其筆力を嘆賞す　抑も兆殿司は東福寺の僧にして名は明兆字は吉山終身殿司を務めたるを以て兆殿司と呼ぶ此人一生異蹟多し平生用うる所の顔料は皆寺後の山谷より出でゝ他に求むることなし沒後に及べば復出でず其處今繪具谷と稱す

此他晉の顧愷之の維摩の像唐の禪月の十六羅漢の像宋の閻立本の釋迦三尊の像楊補之の墨梅陳季昭の黄鶴樓の圖趙子昂の陶淵明の專等枚擧すべからず中に就て最も有名なる者は吳道子の釋迦文殊普賢の像は運筆雄渾氣品高尚にして天下有數の絶品とす且又諸寶什に於ては祝融の災を免かれたり大幸なるかな

九條兼實公墓　毘沙門堂谷に在り近年廟堂を修造す

藤原俊成卿墓　塔頭南明院に在り又淨如尼の墓あ



り是は卿の母なりといふ

○仲恭天皇陵　傳に紀伊郡伏見街道塚本町にありといへり然れども久しく其處分明ならざりしが明治廿三年十一月東福寺山上に確定して九條陵と稱し奉る

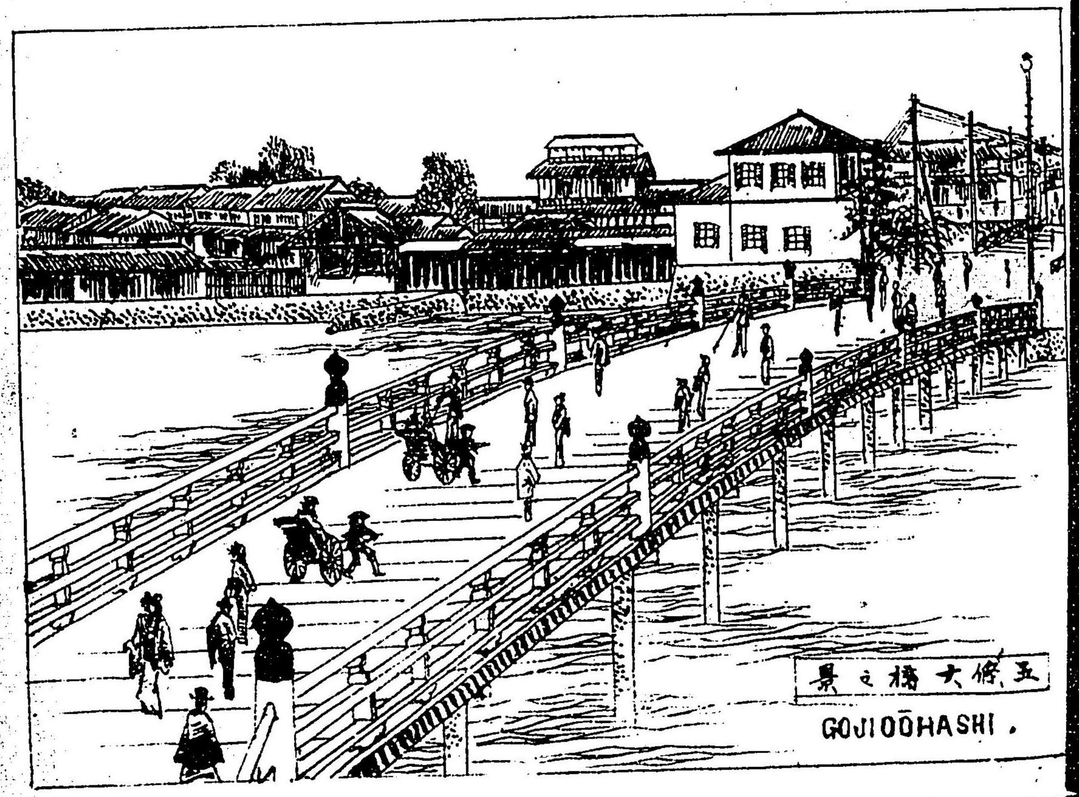
○九重山萬壽寺　東福寺北門三聖寺の内にあり臨濟派五山第五なり往古は萬壽寺通柳馬場に在り今に街名を存せり永享六年囘祿の後此地に移す開山湛照東山と號す勅して寶覺禪師と謚す

○遣迎院　伏見街道第三橋の南二町に在り本尊彌陀は惠心の作此寺は寺町廣小路に在る遣迎院の兼帶所にして淨土宗西山派開祖終焉の地なり安倍晴明塚　本堂の南に在り此處は居住せし地なりといふ

○稲荷神社　右同所の南に在り官幣大社なり祭神は五座あり第一は倉稲魂神第二は素盞烏尊第三は大市姫命以上は元の三座なり第四は田中社此は地主の神なりといふ第五は四大神なり四大神とは五十猛命大屋津比賣命津抓比賣命大歳神の四柱なり此四柱は皆素盞烏尊の御子なり元は三座なりしが文永年中田

中社四大神を併せて五座と爲す往昔　元明天皇和銅四年二月午の日倉稻魂神始めて垂跡あり今の社地より凡十八九町を隔て三の峯といふ處に三神を鎭座す延喜八年左大臣藤原時平公三社を修造す永享十年將軍足利義敎の命を以て三の峯より山麓に遷座す此時攝社を併せて五社と爲すともいへり其濫觴を尋ぬるに往昔秦公伊呂具といへる者家富めり戲れに餅を以て的と爲し之を射る其餅忽ち白鳥に化して飛翔り三の峯に止まる伊呂具大に畏れて思へらく吾餅を以て戲れと爲す故に倉稻魂神怒り給ひて奇異を示すなりと乃ち其社を建てゝ之を祭るなり其社前に杉樹あり之を庭前に移し之を拜す是れしるしの杉の起る緣由にして參詣の者必ず杉の枝を折りて歸りしなり毎年陰曆二月初午の日は衆人群聚し路を塞ぐに至る例祭は五月七日神輿五基九條村の御旅所に神幸あり儀式嚴重行裝華麗なり全國稻荷の神を祀る者は當社より勸請する者とす

東丸社　荷田東丸は當社の禰宜にし國學に大功あり元文元年七月二日沒す年六十八明治十六年正四位を賜ふ



○稲荷山　或は飯成に作る社地の後より東に去ること七八町あり上中下に分る故に三の峯と號す和銅四年初鎮座の地並に四大神の社地舊跡猶存せり其處を御前谷といふ毎年正月五日注連張の神事あり又しるしの杉を云ふ者其處に在り又稲荷大神は狐を役使し給ふといふを以て山中に狐狢多し狐の出産する所あり御産場といふ又剱の池僧正峯獨鈷水　雷　岳房之崖などいふ處あり古昔淨藏貴所壹演僧正空海法師等住居せし處なりとぞ

○田中神社　伏見街道第三橋の南三町西側に在り稲荷五座の一なり祭神は太田命の分神にして稲荷山三の峯の地主ならんといふ荷稲峯表前に東海鐵道の停車場あり京都より參拜する者往還甚だ便利なり

○五條橋　鴨川に架す此地往昔の六條坊門通なり昔の五條は今の松原通にして今の松原通の橋を架する處に五條橋を架せり豊太閤の時其橋を茲に移し通衢を名づけて五條橋通と云ふて以て五條と區別せしが後世終に松原通の新橋を以て五條橋と單稱するに至れり昔は石橋にして紫銅の擬寶珠を用ゐたり其後木橋となし擬寶珠を收めたりしが明治廿七年架替の木橋

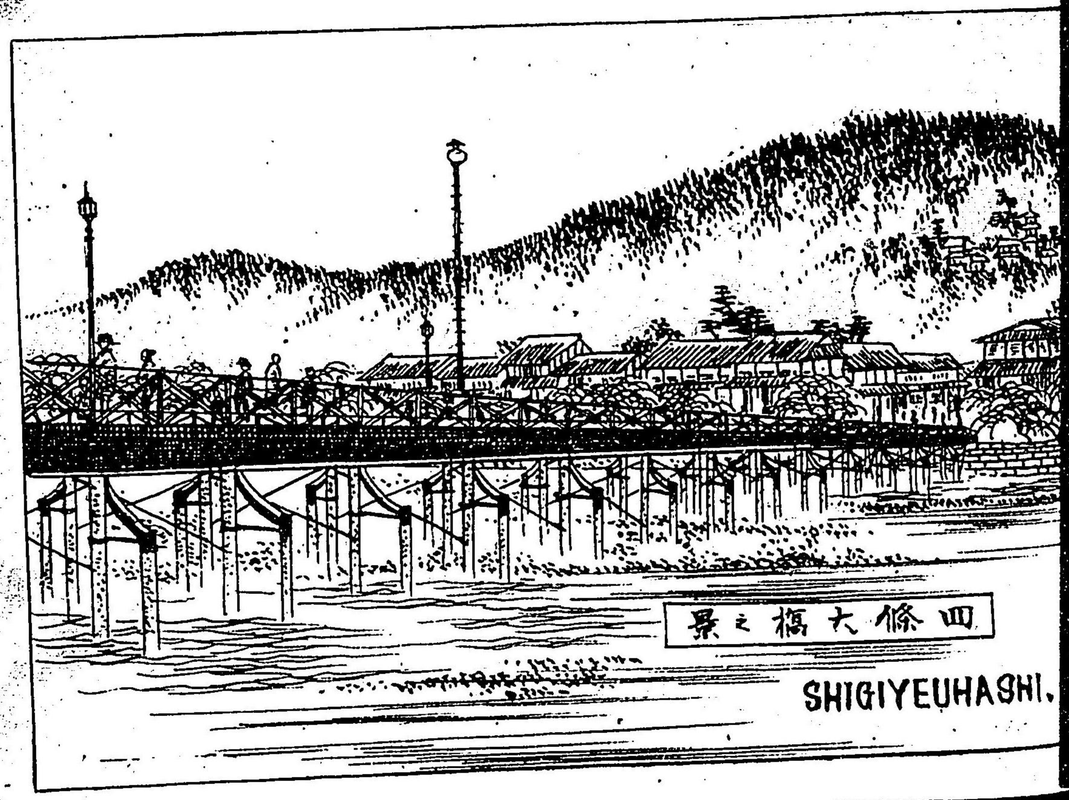
には舊の擬寶珠を用ゐたり幅四間二尺長さ四十八間三尺なり

○神宮教會所　寺町通綾小路東側にあり伊勢神宮教院の京都派出所なり明治の初年に創立す本壇には九柱の大神を祭り傍には伊勢兩宮を遙拜する所あり

○龍池山大雲院　寺町通四條の南に在り淨土宗知恩院に屬す開基貞安上人江州安土に於て宗論の時織田信長之を敬信す後信長父子明智光秀に弑せらるゝに貞安其尸骸を收むといふ其後豐臣秀吉此寺を草創し信忠の追薦を修せしむ大雲院は信忠の法號なり

○御旅町　四條通寺町の東に八阪神社の御旅所あるを以て町名とす南北兩側に社あり例祭の日は神輿三基此所に神幸あり

○四條橋　鴨川に架す昔永治二年四條橋を架すること祇園社家の記錄にあり是此橋の濫觴なりといふ其後數度の興廢あり安政三年鴨川を浚へ新板橋成る今の鐵橋は明治七年に架せし者なり長さ五十四間幅四間鐵欄の上に八基の紅白玻璃燈を掲げたり毎年七月の初めに及べば橋下沙磧の上に假床を構へ納涼場を設く



○高瀬川　鴨川の一分派にして二條橋の下流より西方一町許を隔て南流して竹田伏見を經淀川に入る慶長十六年角倉了意始めて開鑿し首として内裡造營の木石を運漕するに供すといふ

○電燈會社　蛸薬師通高瀬川の西に在り明治廿年創立す電氣を製造し各處に傳送する所なり資本金十萬圓といふ

○三條橋　三條通鴨川に架す京都諸街道の起點里程の元標の所在地にして東國より京都に入るの喉吻なり長さ五十六間幅四間半餘初め天正十八年豊臣秀吉其臣増田長盛等をして之を造らしむ欄干の擬寶珠十八本悉く紫銅を以て之を覆ふ刻するに銘文を以てせり其後數度の修造あり現今の者は明治廿七年改造する所なり

○新京極　三條大橋より西三町を隔て三條通の南に在り京都第一繁華場にして演劇場飲食店講談席雑貨店觀物場兩側に軒を列ね晝夜雑沓熱鬧遊人往還織るが如し北は三條より南は四條に至る間なり元は此間數多の神社佛寺の封境ありて各々門戸を立て區域を異にせしが明治の初其區域を撤し一線に貫通して新

京極と稱す是前々の府知事槇村正直の計畫せる者なり

○本山誓願寺　六角通の東端新京極に在り淨土宗西山派の本寺なり開山惠隱法師初め奈良に在り中世京都元誓願寺通小川に移す今の元誓願寺通は其處なり天正年中又此地に移す本尊彌陀は春日佛師の作なりしが弘化二年燒失せり庭前に豐太閤の愛妾松丸の塔ありしが新京極開通の時其跡沒したりといふ

服部中庸墓　誓願寺總墓の內にあり中庸は伊勢の人本居宣長の門人にして三大考を著わす國學に功ある人なり

○誠心院　俗に和泉式部と稱す誓願寺の南に在り律宗にして泉涌寺に屬す御堂關白道長公草創和泉式部尼と爲りて後此院に居る本尊彌陀の脇に道長公の像を安す昔は小川通一條の北に在り天正年中此地に移す寺前に一基の石塔あり和泉式部の墓と云ふ側に一株の古梅あり軒端の梅といふ其傍に俳諧師言水の墓あり言水姓は紫藤人口に喧傳する一句ありてがらしの果は有けり海の音

○大本山圓福寺　新京極蛸藥師に在り淨土宗西山派の

本寺なり開基は道意上人なり昔は室町三條の北今の圓福寺町に在り後此に移す本尊彌陀佛は法然上人の作

○蛸藥師　圓福寺の内に在り永福寺と號す本尊藥師佛は石像にして長二尺傳教大師の作なり元叡山北谷に在りし者なり此寺昔は三條室町に在り其地に澤あり人之を澤藥師と呼ぶ後世誤りて蛸藥師と云ふとぞ

○紫苔山歡喜光寺　新京極錦小路に在り時宗なり元東洞院六條に在りて六條道場と稱す開基を稱阿上人と云ふ其地は元融大臣の別業河原院の古跡なり故に融大臣の社あり其後此地に移れるなり此寺の寶物に一遍上人の繪傳十二卷あり圓伊法眼の筆なり鑑識家嘆異して北對緣起に亞ぐべき名品なりとす

○錦天神社　錦小路の東端に在り祭神は贈正一位左大臣源融公なり世に融大臣と云ひ又河原左大臣とも云ふ嵯峨天皇の第十二子なり此社は元融大臣の別業河原院の舊地に在りしを移せる者にして後には菅原天神を合せ祀れり

○錦綾山金蓮寺　新京極四條の北に在り時宗なり開山淨阿上人應長元年建立是古の具平親王の宅地なり四場道場と稱す寶物に一遍上人の繪詞傳あり畫は越前守行光の筆詞書は後伏見帝後二條帝花園帝の三御筆及び轉法輪公忠三條實量冷泉爲秀等の寄合書にして貴重の品なり

●下京區三條通以南

西部

○六角堂頂法寺　六角通烏丸の東に在り天台眞言二宗の兼學なり開基は聖德太子にして本尊は如意輪觀音長一寸八分の黃金像にして其堂は六角形なり西國順禮第十八番の札所にして聖觀院の所轄なり緣起の大畧を聞くに往昔淡路國岩屋浦の漁人海上光を放つを怪み網して之を觀れば觀音像なり太子既に之を得て尊崇し身に從へり天王寺を建つる時材木を求めんとて山城國折田郷土車里に在りしに一夜夢みらく觀音告げて曰く吾此地に止まらんと夢覺て傍を見るに杉の大木あり則ち之を伐らしめ六角の堂を造り之を安置す其堂他木を雜へず一木にして足れりと云ふ其後二百五年年を經て延曆遷都の時平安城の街衢を定むるに六角堂其線路に當るを以て官吏其移し難きを愁ふ俄に黑雲堂を卷き堂自ら北に退くこと五

丈なりといふ

○因幡堂平等寺　松原通烏丸の東に在り天台眞言の二宗を兼學し聖護院の所轄なり本尊は長六尺二寸の藥師佛の立像にして基盤の上に立てり其緣起の大畧を聞くに長德三年因幡國賀露浦の海上夜々光を放つ國司橘行平漁人に命じて網を投じ之を擧げしめて穫る所なり行平堂を建て之を安す長保五年行平京に歸る宅は烏丸高辻に在り其年四月七日藥師の像忽然として飛び來る因て宅を以て寺と爲し之を安置す今の因幡堂是なり其後光臺座は彼國に留在す今猶座光寺と稱す行平の子僧と爲り光朝法師と稱す行平之をして其寺に住せしむ承安元年　高倉天皇勅額を賜ひ平等寺と號す永曆二年　後白河天皇行幸の榮を賜ふ

○汁谷山佛光寺　佛光寺通柳馬場の西に在り眞宗佛光寺派の本寺なり本堂には開山親鸞自作の像を安す阿彌陀堂には慈覺所刻の彌陀立像を安す此彌陀の像後醍醐帝の御宇に光明を放ち帝叡を照すことあり因て佛光寺の勅額を賜ふといふ此寺の草創は親鸞四十歳の時山科郷東野村に於て興正寺を建立し上足の

徒眞佛上人に附屬す元應元年之を澁谷に移す地阿彌峰に近し天正十九年豐太閤大佛殿を建るに當り此地に移す準御門跡の稱を許されたり

○南岩倉　明王院　松原通　白山　町に在り眞言宗なり始め山城河内の境獅々窟山に在り往昔平安城草創の時四方の靈地を選み大乘經を藏めらる南の岩倉は此地なり寺後荒廢に及ぶ今の地に移す然れども舊名を帶び南岩倉と稱す

○御影堂新善光寺　五條通寺町の西に在り時宗なり天長年中橘林皇后本願に依り弘法大師の開基する所なり中興應阿上人改めて時宗と爲す本尊元來信州善光寺の彌陀を模擬したるを以て御影堂と稱せり今は其像を坊中善光庇に移し更に安阿彌作の彌陀佛を本堂に安ず往古は東洞院丸太町に在り天正十五年此地に移す坊中の者扇を製するを以て業と爲す其初めは昔平敦盛の室蓮華尼此寺に閑居し柏扇を制す時に土御門天皇御惱あり住職祐寛阿闍梨其扇に呪文を書し內裏に奉る御惱頓に平愈し給ふ是より此寺扇を製するを以て吉例と爲し後世之を業とするに至れり今演劇に扇屋熊谷と題し敦盛が扇屋に隱匿する

所作は蓮華尼の故事に依り脚色したる者なりとぞ

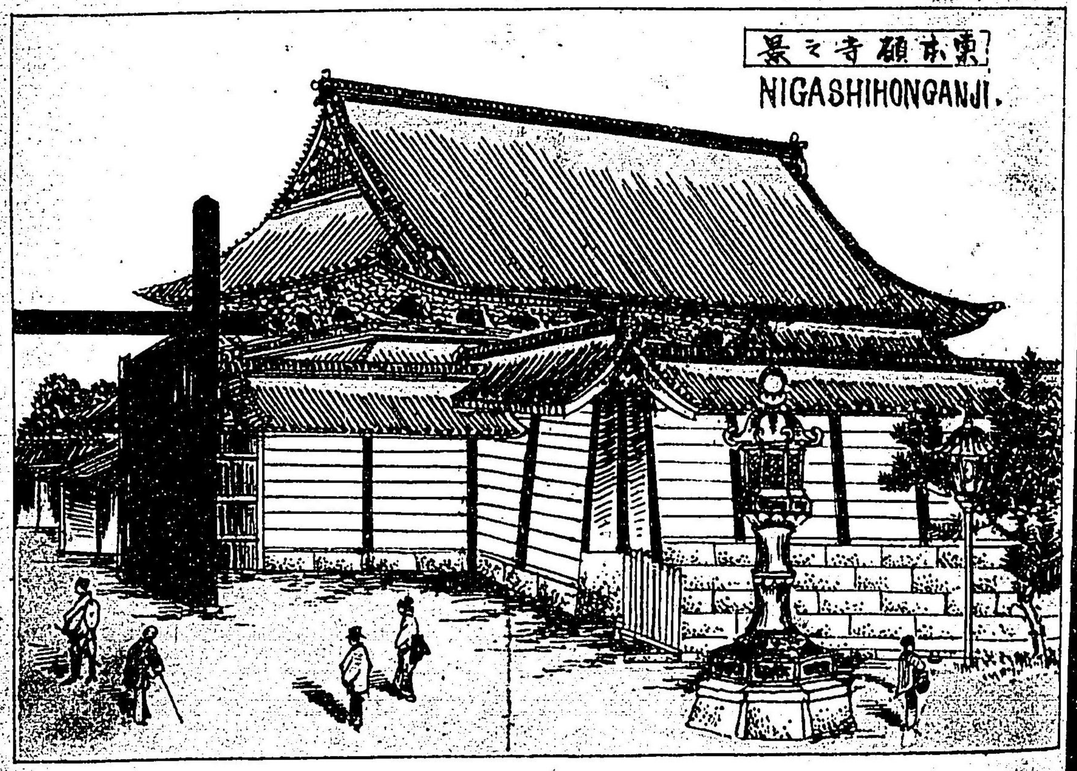
○下京區役所　五條通　柳馬場鹽竈町に在り下京區の戸數三萬六千八百四十戸人口十四萬一千七百五十人之に屬す

○長講堂　下寺町五條の南に在り　後白河法皇の建立し給ふ所にして六條殿と稱す則ち六條御所の別殿なり時々臨幸坐々て貴賤の亡靈名帖即ち過去帳を叡覽し給ひ躬身ら之を弔藨し給ひ且講經し給ふ故に長講堂と稱す　後白河法皇より繼續し給ふ歷代は宣陽門院　後嵯峨帝　後深草帝　伏見帝　崇光帝榮仁親王道欽親王までなり其後供僧職と爲る

○黃臺山金光寺　七條通東洞院の東に在り時宗なり七條道場と稱す相州藤澤清淨光寺に屬す本堂に彌陀弁に一遍上人の像を安ず宗祖一遍名は智眞伊豫の人河野氏なり始め台教を學ぶ後熊野大神に謁し神託を受けて海内を遊行し六時禮讚を修行す故に六時宗遊行派と稱す一代の間結緣の數凡二十五億一千七百二十四人なり而して此寺は正中年中應阿上人草創する所にして佛工法橋定朝が宅地を寄附せし者といふ

○涉成園　上珠數屋町枳殼馬場に在り東本願寺の別館なり寛永年中幕府より給する所の地にして往古源融大臣河原院の遺趾なり豐太閤伏見桃山城の舊構を移して亭館と爲し外圍に枳殼を植うるを以て世に枳殼殿と呼ぶ園池の構設は石川丈山の好む所に倚るといふ滴翠軒あり傍花閣あり印月池あり臥龍堂あり五松塢あり侵雪橋あり縮遠亭あり紫藤岸あり偶仙樓あり雙梅簷あり嗽枕居あり囘棹廊あり丹楓溪あり幽蔚清徹莊麗潔撰美を盡し善を盡す者なり然りと雖も屢々囘祿に罹り舊物の存する者尠し

○東本願寺　烏丸通七條の北に在り眞宗東派の本寺なり又大谷派とも稱す開基を敎如上人とす敎如は宗祖見眞大師親鸞の第十一世顯如の一男なり敎如初め本願寺に住す故ありて退去し處々を經歷す後再び歸り本願寺の北殿に閑居す慶長四年復出て衣棚下立賣の南今云ふ門跡町に住居す慶長七年幕府六町四方の地を給す是に於て新に堂を建て東本願寺と稱す準御門跡を許され親鸞より十二世の血脈を相續す本堂は宗祖の像を安ず元上州廐橋妙安寺に在りし者といふ阿彌陀堂は安阿彌作の彌陀を安し脇壇に聖德太子圓光大師及び諸祖の畫像を安ず昔より數囘祝融の災

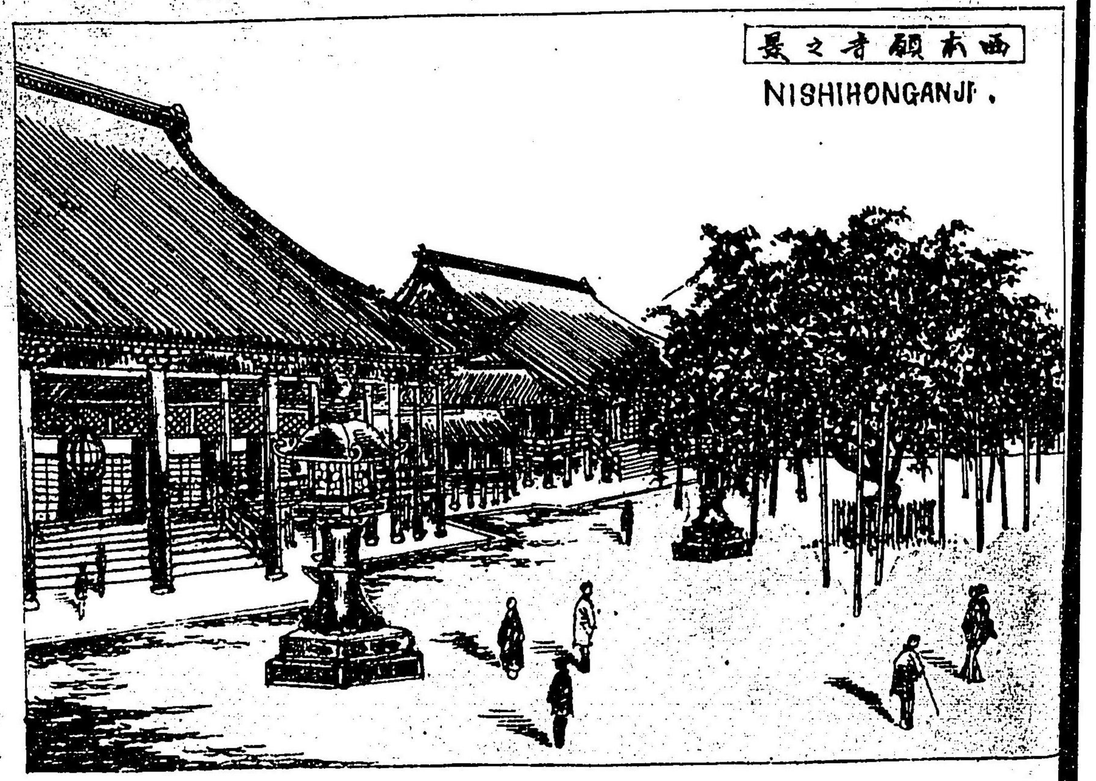


に罹り近頃にては元治元年七月十九日の兵燹に逢ひ悉皆烏有となりしも漸次復興して舊觀に異ならず

○官設鐵道停車場　鹽小路烏丸通七條の南に在り明治十年創造始めは京都神戸間のみ通行現今に於ては東海鐵道に連接し東京新橋より神戸間を通行す

○興正寺　堀川通七條の北に在り眞宗興正派の本寺なり準御跡門を許されたり本堂彌陀佛は安阿彌の作開基經藻上人後に蓮敎と改む初め宗祖親鸞山科に於て一寺を建て興聖寺と名づけ之を高弟眞佛に附屬す後之を澁谷に移し佛光寺と號したり蓮敎は其十四世なりしが蓮如上人を慕ひ自ら寺を去て新に山科に一寺を建て舊號を襲ひて興正寺と號す是れ當寺の起りし緣由なり其後顯尊に至り天正十九年此地に移す

○本願寺　興聖寺の北に在り眞宗本願寺の本派とす古來禁中に於て本願寺東本願寺と稱し名分を定め給ふことは家の舊新を辨せるなり其代々門跡と稱することは　後柏原天皇踐祚し給へども朝廷衰微して卽位の大禮を行なはせられずありければ本願寺實如之を嘆じ其資用を獻納したり其賞として實如を準門跡に陞し給ふを始とするなり開祖親鸞は皇太后大進藤原


西本願寺之景
NISHIHONGANJI.

有範卿の子にして關白九條兼實公が別殿の養子と爲る九歲にして慈圓に就きて剃髮し範安と名つく二十九歲にして源空に就きて淨土專念の宗に歸し名を綽空と改め善信房と號す弘長二年十一月廿八日寂す年九十明治九年十一月勅して見眞大師の諡號を賜ふ本堂は親鸞自作の像を安ず此像は在世の時彫刻し息女覺信尼に授づけし者にして親鸞寂後遺骨を碎粉し漆に和し表面を渥色す故に骨肉御影と稱す長二尺五寸餘の坐像なり阿彌陀堂は春日佛師の刻する長三尺餘の彌陀像を安し脇に六高祖聖德太子法然上人の畫影を安す經藏鐘堂鼓樓唐門涙の間白書院黑書院集會所對面所大仲居 闕唯殿綺春殿永安 館桃仙館等あり中に就きて豐太閤の伏見城より移す者あり聚樂亭より移す者あり茲に之をしるさず

○憂國烈女之碑　松原通大宮の西末慶寺に在り烈女名を畠山勇子といふ千葉縣長狹郡鴨川村畠山治兵衛の長女なり明治二十四年五月十一日露國皇太子ニコヲス親王大津遊覽の時兇漢津田三藏なる者疵を負はせたり勇子之を聞き大に憂へ已れ女子ながらも之を救はんと思ひ潛かに馳て京都に來れば事既に及ばざり

ければ其後れたるを悔ゐ京都府廳の門に倚り咽を紹ちて自殺す時年二十三歳にして同月十九日の事なり吁乎京都の石川光子といへるが手向の歌とて捨てし身の功はよしや立ずともその眞心は神や知るらん禪宗曹洞派なり江州天寧寺に屬す

○滴翠園　集會所の東に在り門に入れば嘉樹蒙密奇石紛錯して殆んど人境に非ざるを覺う三層の高閣あり飛雲閣と號す昔豐太閤聚樂亭の庭内に在りしを此に移したる者なり上層には霞の富士山を描き中層には三十六歌仙を描く其に狩野元信の筆なり下層を紹賢殿と云ふ滄浪池あり船に棹さして樓を巡るべし龍背橋あり之に跨る蹈花塲あり胡蝶亭あり夜光石あり黄鶴臺は湯に浴する所なり青蓮榭は茶を點ずる所なり飄月坡あり澆花亭あり醒眠泉は京都七井の一なり雪林は梅花多き所なり

大教校　臺所門前に在り眞宗學庠と扁す明治十一年創立講堂教塲總て洋風に擬せり

○大光山本圓寺　堀川通松原の南に在り日蓮宗一致派の本寺なり初めは相州鎌倉松葉谷に在り法華堂と稱す宗祖日蓮上人開基する所にして之を日朗に附屬す

日朗之を日印に附屬す日印之を日靜に附屬す日靜の時光明天皇の勅を奉して之を今の地に移す東西二町南北六町の地を賜ひ勅願所と爲る時に貞和元年なり本堂には法華經を本尊とす日助僧都が書寫する所なり立像堂には釋迦佛を安ず豆州伊東の海底より漁人網して擧ぐる所なり祖師堂には日蓮日朗日印日靜日像の五影を安ず刹堂には鬼子母神十羅刹女を安ず方丈を妙法華院と稱す額は水戸黄門光國卿の筆畫は狩野永德の筆なり鴛鴦曼陀羅なる者は此寺の寶什にして宗祖の筆なり表裝は花色地にして一寸許の鴛鴦の地紋あり傳へて楊貴妃の袍衣なりしといふ此地古へ六條判官爲義の邸趾にして義經も此に住せしと云ふ宗祖日蓮は房州の人遠州刺史貫名重忠の次男母は清原氏十二歳同國清澄寺に於て眞言を學び十八歳にて落髮し是性と名づく後に自ら日蓮と改ひ建長五年三十二歳にして始めて南無妙法蓮華經の七字を唱出す弘長元年平重時之を嫉み伊豆國伊東浦に竄す又相州龍口の濱に於て誅殺せらるゝに臨む其刀劔段々に折れて害すること能はず重時大に驚き之を許す文永八年又佐渡國に竄せらる赦免を得て歸り文永

十一年甲州身延山に入て草庵を結びて居る弘安五年十月十三日武藏國荏原郷池上左衞門宗仲の家に於て寂す年六十一　其後　後醍醐天皇大菩薩の號を賜ふ

○天使神社　西洞院　通　松原の角に在り俗に五條天神と云ふ祭神は少彦名命を本神とし天照皇大神大巳貴命を合祀す　桓武天皇遷都の時鎭護の爲め拳祀せしめ給ひし社殿にして往昔は境内も頗廣かりさといふ例祭は陰暦九月十日又節分には諸人參詣して白朮勝餅を受けて厄難を禳ふとぞ

○府立商業學校　堀川通蛸藥師の南に在り明治廿年新築上京區下丸屋町より移轉す

○空也堂　紫雲山極樂院と稱す蛸藥師通油小路の西に在り古へは三條櫛笥に在り櫛笥道場と云ひしとぞ時宗なり天暦三年の草創にして空也上人の開基する所なり本堂は長三尺許の彌陀の立像を安し脇に長二尺五寸なる空也の立像を安ず空也名は光勝（醍醐天皇第一皇子なりと云ふ此事史傳に見ゑず何故なるを知らず）幼より塵外の志あり尾州國分寺に於て薙髮し叡山慈惠僧正の門人と爲る毎に鹿を友とし其聲を愛す一夜來鳴せず心に之を怪ひ翌日獵者平定盛なる者來り告げて云く昨夜此處に於て鹿を殺せりと上人大に驚き其皮角を乞ひ其皮を裘とし其角を杖頭に挿みて常に之を携ふ定盛之を悔ゐ之を愧ぢ有髮ながら僧と爲り上人自作の和讃を歌ふて市中を化導す鐘或は瓢箪を叩きて踊念佛を爲す今の鉢叩と稱する者は其遺風なり空也のことは普陀落山六波羅密寺の條下にもいへる事あり併せ見るべし

○新玉津島神社　松原　通　烏丸の西に在り祭神は紀州玉津島神社と同神にて衣通姫の靈を祀る皇太后宮太夫藤原俊成卿始めて此地に勸請して和歌の神とす冷泉爲家弱冠の頃より毎月六回百首の歌を社前に獻りたりといふ

○菅大臣神社　西洞院　通　高辻の北に在り祭神は贈正一位菅原道眞公にして父參議是善卿の第此道眞公誕生の地なり誕生水は本社の東方垣の内に在り有名の飛梅の舊跡は西南隅に在り

北菅大臣　北門前に在り此は是善卿を祭る社なり

○壬生寺　寶幢三昧寺地藏院と號す綾小路通の西端壬生村に在り眞言戒律二宗兼學にして南都招提寺の所轄なり開山快賢姓は藤氏にして關白粟田道兼公の支

族なり智證大師に隨ひ天台の奥義を極め正暦二年佛工定朝に命して地藏佛の像を彫刻せしむ定朝期する
に一千日を以てせり成るに及びて相好端嚴にして生身に向ふが如し長三尺餘の坐像なり快賢草堂を建て之を安置し小三井寺と號す時に寛弘二年なり快賢は永承六年十一月十六日寂す建保年中に及びて和州刺史平宗平堂舍僧房を造營す因て寶幢三昧院と號し又地藏院と稱す

白川帝　鳥羽帝　後白河帝　順德帝行幸あらせ給ふことあり中興の祖を圓覺と云ふ和州の人藤原廣元の子大念佛を創始す毎年陰暦三月を以て施行す栁取花盜人紅葉狩等の狂言二十五番あり

○六孫王神社　八條の西栁筥に在り鄉社なり祭神は前鎭守府將軍源朝臣經基公なり公は貞純親王の長子にして清和天皇第六の孫なり故に世の人六孫王と稱す始めて源姓を賜ふ實に清和源氏の祖なり此地は其舊蹟なり此社は謙倉右大臣實朝公の後室本覺尼其姑平政子と相謀り草創する所德川氏の時に至り大に修造を加へ盛んに祭儀を興したり本社の傍に貞純親王と多田滿仲との社あり誕生水は京都七井の一にして滿仲誕生の時此水を産湯とすといふ

○敎王護國寺　九條大宮の西に在り俗に東寺と云ふ眞言宗古義の本寺なり開祖は弘法大師空海なり空海は讃州屏風浦の人十八歲大學に入る志佛經に在るを以て出て出家し東大寺に於て登壇具戒し延曆廿三年唐に入り青龍寺の慧果に謁し眞言密法を傳へ大同元年歸朝し弘仁四年常寺を開く當寺は舊大內裏の鴻臚館なり漢土に於て鴻臚館を精舍とし不空三藏に賜ひたる例を以て左館を守敏に賜ひ西寺と號し右館を空海に賜ひ東寺と號す弘仁七年紀州高野山を賜ひ金剛峰寺を建立し承和二年三月廿一日六十二歲にして入定す延喜廿一年大師號を賜ふ

金堂　藥師佛を安す脇士は日天月天なり鬼臣秀賴の再建にして東山大佛殿の模形なりといふ

講堂　大日如來を安す脇壇は金剛菩薩五大力四天王を安す

食堂　千手觀音を安す聖寶僧正の作なり脇士は地藏毘沙門を安す地藏は古へ西寺に在りて毘沙門は羅城門の樓上に在りし者なり左右の小堂に安する雕雄の夜叉神は空海の作にして古へは食堂の門に安す今其礎石を存す

五重塔　阿閦寶生彌陀不空成就の四佛を安す現今の塔は正保元年德川家光再造高さ二十八間六尺

西院　開祖の影堂なり像は法眼康勝の作後堂には大日不動四天王般若菩薩を安す大師の作といふ又傍に大黑天の像あり是も空海の作といふ

三鈷松　西院の前に在り傳に云ふ空海唐に於て三鈷杵を投ち本朝の勝地を卜す一は東寺に墜ち一は紀伊國高野山に落ち一は土佐國室生戸山に落つ歸朝の後相尋で佛法を弘ひと則ち此處の松枝は其杵の止りたりといふ是其跡なり

灌頂院　密法傳受の處なり東は胎藏界菩無畏一行惠果弘法寶惠眞雅を圖し西は金剛界金剛薩埵龍猛龍智金剛智不空宗叡を圖す

有名寶物　山水屏風一隻は唐の憲宗皇帝より弘法に賜はりし者畫色頗る磨滅すれども有名の奇品なり十二天像屏風一隻は巨勢金岡の筆絶妙名品なり塔頭觀智院に有する不空羂索觀音の畫像は興教大師の筆と云ひ或は春日基光の筆と云ふ九百年以上の物なり彫刻品に於ては食堂裏の地藏長六尺西寺の舊物實に千年以上の古色あり西院弘法像は康勝の作尤も傑作なり厨子入の聖觀音幷びに梵天帝釋の銅像は皆傑出の妙伎なり其他寶什百數十品あり枚擧するに遑あらず

○島原遊廓　丹波街道町の西朱雀野に在り廓門の傍に一老柳あり籬を以て之を繞らす之を出口の柳と云ふ廓門の內妓樓娼館軒を並べ劃然として別世界の如しと雖も維新後は漸次に衰頽したり廓內に上の町中の町中堂寺町太夫町下の町揚屋町の六町あり此地上古は鴻臚館所在の地中古は觀音齋院の境內にして之を遊廓としたるは寛永十八年魚棚室町より此地に移るを始めとす島原と號せしことは其頃肥前の島原に天草四郡なる者亂を起し城廓を構へ天下を騷がしたれば世の人戲れに名づけたるが遂に通稱とはなれり